

資料一覽

第1章

資料1 台湾の先輩画家の郷土風景画—421

第2章

資料2-1 戦前昭和期における郷土教育文献の出版数—422

資料2-2 福井師範学校の図画・手工の郷土化教材の取扱い方法—434

資料2-3 愛知県師範学校附属小学校の郷土科教材配当表例—436

第3章

資料3-1 つくば市立吾妻小学校の水墨画体験教室—437

資料3-2 水墨画体験教室に参加した子どもたちの感想—438

資料3-3 大学美術教育学会誌における郷土美術教育関連論文—439

資料3-4 『美術教育学』における郷土美術教育関連論文リスト—444

資料3-5 アメリカの学校教育における多元文化芸術教育の授業例—447

第4章

資料4-1 事例1—455

資料4-2 事例2—456

資料4-3 事例3—457

資料4-4 事例4—458

資料4-5 事例5—459

資料4-6 事例6—460

資料4-7 事例7—461

資料4-8 事例8—462

資料4-9 事例9—464

資料4-10 事例10—465

資料4-11 事例11—466

資料4-12 事例12—467

資料4-13 事例13—468

資料4-14 事例14—469

資料4-15 事例15—470

資料4-16 事例16—471

資料4-17 事例17—472

資料4-18 事例18—478

資料4-19 事例19—474

資料4-20 事例20—475

資料4-21 事例21—476

資料4-22 事例22—477

資料4-23 事例23—478

資料4-24 その他の事例1—479

資料4-25 その他の事例2—480

資料4-26 その他の事例3—481

- 資料4-27 台北市立美術館が主催した郷土美術夏キャンプ—482
- 資料4-28 台北市立美術館が主催した御盆の芸術祭—483
- 資料4-29 各地方における郷土文化・歴史を研究する民間団体—484

第5章

- 資料5-1 台湾の中学一年用美術教科書における郷土美術事例—485
- 資料5-2 台湾の中学二年用美術教科書における郷土美術事例—486
- 資料5-3 台湾の中学三年用美術教科書における郷土美術事例—487
- 資料5-4 山本鼎が撮った台湾のパイワン族の写真—488
- 資料5-5 台湾原住民の入れ墨—489
- 資料5-6 学校における原住民の伝統芸術伝承—490
- 資料5-7 台湾師範大学が主催した郷土芸術シンポジウム—491

第6章

- 資料6-1 台湾の教育部の郷土教育計画—493
- 資料6-2 台湾の教育部の郷土教育経費補助一覧表—495
- 資料6-3 郷土教学活動教科書の一頁—496
- 資料6-4 郷土教科書における原住民美術の内容—497
- 資料6-5 郷土芸術活動教科書—499
- 資料6-6 台湾の伝統建築—500
- 資料6-7 中学校の郷土芸術活動教科書における寺、廟の写真—501
- 資料6-8 中学校の郷土芸術活動教科書における木彫教材—502
- 資料6-9 台中市立上石国民小学の郷土教学活動授業(1)—503
- 資料6-10 台中市立上石国民小学の郷土教学活動授業(2)—504
- 資料6-11 台中市立上石国民小学の郷土教学活動授業(3)—505
- 資料6-12 台湾の花蓮市立明義国民小学における郷土美術授業—506
- 資料6-13 台北市立龍山国民中学の「龍山寺巡礼」—507
- 資料6-14 桃園県中学校用郷土芸術活動における郷土美術授業例—508

第7章

- 資料7-1 台湾の地方教育局による小学校郷土教育実施状況—509
- 資料7-2 台湾の地方教育局による中学校郷土教育実施状況—510
- 資料7-3 台湾桃園県の郷土教育実施計画—511

終章

- 資料8-1 芸術と人文学習領域要綱—515
- 資料8-2 台湾の郷土教育運動の推移—530

資料1 台湾の先輩画家の郷土風景絵画



楊三郎 婦人像 130×80cm 1935



郭雪湖 農家朝（八斗里）56×85cm 1940

資料2-1 戦前昭和期における郷土教育文献の出版数

昭和期以前の郷土教育の関連文献

1.『教授の統合としての郷土科研究』 牧口常三郎 1912年
2.「郷土誌編纂者の用意」『郷土研究』第2巻第7号 柳田国男 1914年
3.「郷土研究の概念」 胡桃沢勘内 『信濃教育』第421号 1921年
4.『郷土地理の研究』 栗原寅治郎 1923年
5.『郷土研究といふこと』 柳田国男 大正14
6.『土を流るる永遠の愛』 村田光烈著 大正14
7.『土の教育』 大西伍一著 大正15

昭和1年に出版した郷土教育の関連文献

1.「地方研究の目的」『信濃教育』第470号 柳田国男 昭和1年
2.「日本農民史」『早稲田大学政治経済科講演録』第49号 柳田国男 昭和1年
3.『内外に於ける晩近の公民教育とその方法』 千葉敬止 昭和1

昭和2年に出版した郷土教育の関連文献

1.「政友会内閣の施政」『政友』第319号 田中義一 昭和2
2.「教育制度の刷新」『政友』第320号 水野錬太郎 昭和2
3.「全国町村長会の教育改善案について」『斯民』第20編12号 田制佐重 昭和2

昭和3年に出版した郷土教育の関連文献

1.「郷土教育その他」『教育問題研究全人』第28号 柳田国男 昭和3
2.「教育上の社会教化」『社会教育』パンフレット第65集 武部欽一 昭和3
3.『郷土中心農業教育の理論』 郡田尋常小学校編 昭和3
4.『昭和新日本民族を作るべき学校経営と学級』 阿部清美 昭和3
5.「来年度の文教事業」『政友』第332号 安藤正純 昭和3
6.「教育の改善刷新」『政友』第332号 勝田主計 昭和3

昭和4年に出版した郷土教育の関連文献

1. 「郷土研究の本質」 『地理歴史教育』 第1巻第1号 小田内通敏 昭和4
2. 「ルプレーの思想と地域研究」 『地理教育』 第11巻第3号 小田内通敏 昭和4
3. 学校教育と郷土調査 岡篤郎 地理歴史教育第1巻第2号 昭和4
4. 『勤労教育』 武部欽一 昭和4
5. 土の教育の上に立つ教育道 安部清美 昭和4
6. 「水戸を中心とした郷土史の研究一」 『茨城教育』 第524号 鈴木武夫 昭和4
7. 「教化総動員に就て」 『帝国教育』 第567号 下村寿一 昭和4

昭和5年に出版した郷土教育の関連文献

1. 「郷土教育の重要性と実施案」 『郷土』 (創刊号) 小倉志貴 昭和5
2. 「郷土科学とその教育」 『郷土』 (創刊号) 小田内通敏 昭和5
3. 「郷土教育の重要性」 『郷土』 (創刊号) 篠原英太郎 昭和5
4. 「師範教育の改善と地方的関心」 『斯民』 第25編第10.11合併 篠原英太郎 昭和5
5. 「岐路に立つ郷土教育」 『教育論叢』 第24巻第5号 尾高豊作 昭和5
6. 「郷土史研究に就ての希望」 『歴史教育』 第5巻第7号臨時増刊号 柳田国男 昭和5
7. 「我が家と郷土」 『郷土』 第2号 上田三平 昭和5
8. 「農村青年の悩みと郷土調査の必要」 『郷土』 第2号 木島甚久 昭和5
9. 「郷土地理研究の教育的意義」 『信濃教育』 第528号 三沢勝衛 昭和5年
10. 『新郷土教育の原理と実際』 峯地光重・大西伍一 昭和5
11. 『名所史蹟の教育的解説「教材収録」』 南光社 昭和5
12. 『郷土調査の理論と実際：農業補修学校の経営』 岡篤郎 昭和5
13. 『郷土教育の経営』 佐藤隆徳 昭和5
14. 『信念に基づく我が郷土教育施設』 斎藤荘次郎 昭和5
15. 『郷土科の研究』 愛媛県師範学校附属小学校 昭和5
16. 『北安曇郡郷土誌稿』 信濃教育会北安曇部会編 昭和5
17. 『郷土教育の新開拓』 寺田弥吉 昭和5
18. 「郷土教育の農村文化」 『教育論叢』 第24巻第3号 寺田弥吉 昭和5
19. 『信念に基づく郷土教育施設』 斎藤荘次郎 昭和5

昭和6年に出版した郷土教育の関連文献

1.『我国に於ける郷土教育の発達』 海後宗臣・飯田晃三・伏見猛弥著 昭和6
2.『郷土本位教育の方向と実際』 荒井三治 昭和6
3.「教育と郷土文化」『信濃教育』第535号 矢島音次 昭和6年
4.『各科実際の郷土教育』 中村勇吉 昭和6
5.『各学年各教科新郷土教育の実践』 峯地光重 昭和6
6.「中学教育並に師範教育制度改正の趣旨に就て」『信濃教育』第537号 篠原英太郎 昭和6
7.『郷土地理書の実例と其の取扱』 柴田良一 昭和6
8.『郷土の本質と郷土教育』小川正行(奈良女子高等師範学校教授) 昭和6 25版
9.『郷土生活中心私の作業学校』 斎藤富 昭和6
10.「義務教育の条件」『教育学术界』第63巻第4号 柳田国男 昭和6
11.「郷土研究の将来」『郷土科学講座』第1冊 柳田国男ら 昭和6
12.「郷土科学に就て」『郷土科学講座』第1冊 柳田国男ら 昭和6
13.『新時代の郷土教育』 山崎博 昭和6
14.『郷土教育の再吟味』 山崎博 昭和6
15.『郷土研究上方』 上方郷土研究会 創刊号～151号 昭和6～19
16.『新郷土教育の原理と実際』 峯地光重・大西伍一 昭和6
17.『郷土教育の研究1輯』 静岡師範学校附属小学校 昭和6
18.『郷土教育研究』 石川県鹿島郡徳田尋常高等小学校 昭和6
19.『新郷土教育の実際』 和歌山師範学校附属小学校編 昭和6
20.『郷土の調査及研究 各科郷土化の実際』 滋賀県島小学校 昭和6
21.『郷土化教育 修身、国語、算術、国史、地理、理科』 小林佐源治・田中豊太郎ら 昭和6
22.『郷土教育の実際的研究』 真野常雄(愛知一師範附属小学校主事) 昭和6 20版
23.『労作に拠る郷土教育の実際』 石田利作 昭和6
24.『総合郷土教育原論』 金井浩 昭和6

25.『郷土伝説を戯曲化する児童劇脚本』 長尾豊 昭和6
*26.『郷土化の図画手工』 学校美術協会 昭和6
27.「郷土の研究と教育の相関」『郷土第3号』 小田内通敏 昭和6
28.「郷土館設置の実際」『郷土』第3号 奥山陽 昭和6
29.『明治大正史世相篇』 柳田国男 昭和6
30.「郷土研究の社会化」『郷土』第4号 篠原英太郎 昭和6
31.「郷土教育の使命」『茨城教育』第567号 渡辺秀 昭和6
32.『郷土地理の観方』 三沢勝衛 昭和6
33.『郷土学習提要』 学習社編集 昭和6
34.「郷土教育と郷土調査」『教育研究』第367号 千葉敬止 昭和6
35.「郷土意識と階級意識」『郷土』第5号 浅野研真 昭和6
36.「新興教育における学校の地位(二)」『郷土』第6号 尾高豊作 昭和6
37.「公民教育と郷土教育の連関」『郷土科学』第7号 木村正義 昭和6
38.「郷土研究の本質と其認識」『郷土科学』第8号 小田内通敏 昭和6
39.「郷土教育に関する二三の考察」『郷土科学』第10号 船越源一 昭和6
40.『郷土科学』第9号 昭和6
41.『郷土科学』第11号 昭和6
42.『郷土科学』第12号 昭和6
43.「郷土なき郷土科学」『郷土科学』第13号 羽仁五郎 昭和6
44.「郷土教育連盟秋田支部創立委員会に参会するの記」『郷土科学』第14号 柿崎純 昭和6
45.「山上村を訪ふの記」『郷土科学』第14号 金井浩 昭和6
46.「郷土化教授とレジヨナリズム」『郷土科学』第15号 尾高豊作 昭和6
47.「児童の環境と郷土調査」『教育』第3号 尾高豊作 昭和6
48.「教育時評」『教育』第3号 飯田晃三 昭和6
49.「小学校の郷土誌」『松本時論』第80号 胡桃沢勘内 昭和6
50.「郷土を知ること(一)」『松本時論』第81号 胡桃沢勘内 昭和6

51.「郷土を知ること（二）」『松本時論』第82号 胡桃沢勘内 昭和6
52.「郷土を知ること（三）」『松本時論』第83号 胡桃沢勘内 昭和6
53.「郷土教育に就て」『学友』第81号（長野県師範学校校友会誌 松本一巳 昭和6
54.『教育』第6号 昭和6
55.「郷土研究の意味とその内容（三）」『信濃教育』第542号 一志茂樹 昭和6年
56.『観念工場』 寺田弥吉 昭和6
57.『郷土教育の実現と夏休経営』 野村芳兵衛 昭和6

昭和7年に出版した郷土教育の関連文献

1.「一府十五県の郷土教育施設を見る」『教育週報』第364号 小田内通敏 昭和7
2.「水戸教学の精神を汲み郷土愛好を養せんとする我が校の郷土教育」 茨城師範学校附属小学校 『茨城教育第577号』 昭和7
3.現下の世相と水戸学の精神 織方政次 『茨城教育』第577号 昭和7年
4.郷土教育論 小川正行 『茨城教育』第571号 昭和7年
5.郷土教育の生命 岩崎長思 信濃教育第550号 昭和7年
6.「食物と心臓」『信濃教育』第543号 柳田国男 昭和7
7.郷土教育と国史地理の取扱 内田庄次・小林茂 昭和7
8.郷土調査要目の出版について 編集委員会 信濃教育第554号 昭和7年
9.郷土化教育（修身・国語・算術・国史・地理・理科） 小林佐源治・田中豊太郎他 昭和7
10.郷土学習指導方案 郷土教育連盟編 昭和7
11.郷土教育の理論と実際 大分県女子師範附属小学校 昭和7
12.「地方研究の施設に就て」『郷土教育』第18号 船越源一 昭和7
13.体験主義に拠る郷土教育 松坂富之助 大分県女子師範附属小学校 昭和7
14.「郷土教育の本義」『郷土教育』第20号 武部欽一 昭和7
15.「郷土教育の本義」『斯民』第27編第6号 武部欽一 昭和7
16.「郷土教育の本義（その一）」『官報』6月22日 武部欽一 昭和7
17.「郷土教育の本義（その二）」『官報』6月29日 武部欽一 昭和7
18.郷土経営学（教育篇） 東木龍七 昭和7
19.郷土教育のカリキュラム構成 山崎博 昭和7
20.郷土主義学校経営の実際案 志垣寛 昭和7

21.『郷土教育』第19号 昭和7
22.「文部省主催郷土教育資料の陳列と講話」小田内通敏 『郷土教育』第20号 昭和7
23.「小川正行氏『郷土教育論』を吟味する」 『郷土教育』第21号 堀尾彦作 昭和7
24.「郷土研究と郷土教育の近況」小田内通敏 『郷土教育』第22号 昭和7
25.「郷土教育講習会に就いて」 小田内通敏 『郷土教育』第23号 昭和7
26.「山梨県師範学校の郷土教育施設について」 『郷土教育』第23号 矢崎好幸 昭和7
27.「郷土に対する関心の省察」 小田内通敏 『郷土教育』第24号 昭和7
28.「郷土調査の方法」 小田内通敏 東京府教育研究会『会報』第2号 昭和7
29.「郷土研究方法」 小田内通敏 『千葉教育』第486号 昭和7
30.「郷土科学における総合的基準」尾高豊作『郷土教育』第22号臨時増刊号 昭和7
31.『郷土教育』第25号 昭和7
32.「郷土研究と郷土教育」 『郷土教育』第26号 柳田国男 昭和7
33.「郷土教育行脚」 『郷土教育』第26号 尾高豊作 昭和7
34.「児童生活における集団性と原始性」 『郷土教育』第26号 尾高豊作 昭和7
35.「郷土の社会生活と青年教育」 『郷土科学』第15号 木島甚久 昭和7
36.「郷土史料としての史蹟に就て」 『郷土科学』第16号 上田三平 昭和7
37.『郷土科学』第17号 昭和7
38.「教育と郷土文化」 『信濃教育』第535号 矢島音次 昭和7
39.『郷土地理教育論：郷土とは精神的な根源感情である』 小林茂著 昭和7
40.『郷土教育の再検討とその実際的研究』 茨城県師範第2附属常盤小学校編 昭和7

41.『郷土教育資料』豊橋市小学校郷土教育資料調査会著 昭和7
42.『郷土教育資料 八王子教育 特集号』八王子教育会 昭和7
43.我が郷土—郷土教育・平面と断面から見た琵琶湖の生物他 滋賀県教育会編 昭和7
44.東田川郡郷土教育資料 東田川郡教育会著 昭和7
45.郷土教育指針 高知県師範学校編 昭和7
46.『郷土教育の研究2輯』 静岡師範学校附属小学校 昭和7
47.『郷土教育運動』 小田内通敏 昭和7
48.『新郷土教育原論』 入沢宗寿 昭和7
49.『兵庫県郷土地理』 姫路師範学校 昭和7
50.『郷土教育の理論と実際』 大分県女子師範学校 昭和7
51.『郷土地理教育の原理と方法』 佐々木清治著 昭和7
52.『神社と郷土教育：神社学習案と神社地理学』 鈴木四郎 昭和7
53.『郷土史郷土地理調査其实例』 大野武男・五十嵐律三 昭和7
54.『郷土読本の編集法と其实例』 大西伍一 昭和7
55.『郷土教育指導案と要項』 神奈川県鎌倉郡正修尋常高等小学校 昭和7
56.『小学校における郷土地理教育の指導体系』 豊島松治 昭和7
57.『郷土教育思潮大観』 大日本学術協会編著 昭和8
58.『我国に於ける郷土教育と其施設』 海後宗臣・飯田晃三・伏見猛弥著 昭和7
59.「郷土教育に関する調査」海後宗臣・飯田晃三・伏見猛弥 『教育思潮研究』第6巻 第二輯 昭和7
60.「郷土教育が齎らしたもの」 海後宗臣 『帝国教育』第615号 昭和7
61.『郷土教育』第23号（文部省主催郷土教育講習会特集）昭和7

昭和8年に出版した郷土教育の関連文献

1.「郷土教育の主流と其組織」小田内通敏 『郷土教育』第27号 昭和8
2.「郷土教育の実践としての補修教育」小田内通敏 『郷土教育』第36号 昭和8
3.「農村教育更新に関する二三の問題」守屋喜七 『信濃教育』第555号 昭和8
4.「郷土研究に就いて」有賀喜左衛門 『信濃教育』第557号 昭和8
5.「郷土教育の趨向と我県の実情」『茨城教育』第577号 渡辺秀 昭和8
6.『教育新景観』 郷土教育連盟 昭和8

7.「郷土教育の動向を憂ふ」『茨城教育』第580号 弓野国之介 昭和8
8.「切要なる教育上の実際問題」『教育研究』第397号 森岡常蔵 昭和8
9.「郷土教育に対する所感」『郷土教育講演集』 森岡常蔵 昭和8
10.郷土調査要目 編集委員会 信濃毎日新聞社 昭和8
11.『郷土教育の概要』 京都府女子師範学校 昭和8
12.『郷土地理研究』 内田寛一 昭和8
13.『独逸の新教育運動』 尾高豊作編 郷土教育連盟刊行 昭和8
14.『郷土教育講演集』 郷土教育連盟編 郷土教育連盟刊行（文部省普通学務局） 昭和8
15.「郷土教育の本義」 『郷土教育講演集』 武部欽一 昭和8
16.「教育学上より観たる郷土教育」『郷土教育講演集』 吉田熊次 昭和8
17.科学的郷土学の陶冶価値 郷土教育連盟訳・刊行 昭和8
18.学校教育と郷土教育 尾高豊作 郷土教育連盟刊行 昭和8
19.我村の郷土 森光繁 郷土教育連盟刊行 昭和8
20.郷土教育原論：日本精神の生命論的見地 長谷川藤太郎 昭和8
21.新郷土教育各論 入沢宗寿 昭和8
22.郷土研究資料目録並解説 山形県師範学校編 昭和8
23.郷土中心労作本位尋一学級経営の新体験 兵庫教育会編 昭和8
24.『郷土教育思潮大観』 大日本学術協会 昭和8
25.体験主義に拠る郷土教育 松坂富之助 昭和8
26.郷土に立つ年中行事の教育 鹿児島市鹿児島尋常小学校・実習女学校 昭和8
27.新郷土教育の実際 和歌山県師範学校附属小学校編 昭和8
28.各科郷土教育資料 大湊尋常高等小学校 昭和8
29.『人物陶冶郷土教育の根拠と其實際研究』 樫原信二 昭和8
30.郷土研究叢書 山形県郷土研究会 4輯 名勝及史蹟山寺 昭和8
31.江木千之翁経歴（上・下） 江木千之翁経歴談刊行会編 昭和8

昭和9年に出版した郷土教育の関連文献

1. 我校の郷土教育 福井県鯖江女子師範学校郷土研究部 昭和9
2. 郷土を如何に研究すべきか 大日本連合青年団編 昭和9
3. 郷土研究資料目録 島根県師範学校編 昭和9
4. 小学生の調べたる上伊那川島村郷土誌(正) 竹内利美 昭和9
5. 郷土修身の実践号『修身教育』 修身教育研究会 昭和9
6. 「今日の郷土研究」『郷土教育』第43号 柳田国男 昭和9
7. 「郷土教育の新しい方向」 小田内通敏 『郷土教育』第43号 昭和9
8. 「郷土教育運動の四年間を顧みて」 尾高豊作 『郷土教育』第43号 昭和9
9. 「我が国教育における国家の原理と郷土の原理」『郷土教育』第43号 柿崎純 昭和9
10. 『民間伝承論』 柳田国男 昭和9

昭和10年に出版した郷土教育の関連文献

1. 小学校に於ける郷土教育の実施方案 研究調査報告第8輯 昭和10
2. 『我が国に於ける直観教授・郷土教育及合科教育』 伏見猛弥 昭和10
3. 日本民俗学研究 柳田国男 昭和10
4. 『郷土生活の研究』 柳田国男 昭和10
5. 「郷土建設への実践」 小田内通敏 『教育』第3巻第9号 昭和10
6. 「教育展を参観して」 久米志知郎 『茨城教育』第604号 昭和10
7. 郷土教育の実践原理 修身教育研究会 昭和10
8. 佐賀県郷土教育資料集 佐賀県学務部編 昭和10
9. 生活発展郷土中心の学級学校経営の実際 福井県芦原小学校編 昭和10
10. 郷土研究叢書 山形県郷土研究会 5輯 飛鳥の研究 昭和10
11. 本校における郷土教育の概要 熊本県師範学校 昭和10
12. 昭和十年の教育界の回顧 『帝国教育』第686号 龍山義亮 昭和10
13. 「昭和十年教育界の回顧及批評」『帝国教育』第686号 渡辺政盛 昭和10

昭和11年に出版した郷土教育の関連文献

1.郷土教育 石山 平 昭和11
2.郷土研究の概要 滋賀県女子師範学校 昭和11
3.郷土に輝く人々 熊谷辰次郎 昭和11
4.「郷土研究から郷土教育へ」 小田内通敏 『山梨教育』 昭和11
5.農村の郷土・労作・公民教育 真田幸憲 昭和11
6.小学生の調べたる上伊那川島村郷土誌（続） 竹内利美 昭和11
7.総合郷土研究 山梨県師範学校 昭和11
8.郷土研究施設要覧 鳥取県師範学校編 昭和11
9.郷土地理教育の原理と方法 佐々木清治 昭和11
10.郷土研究 第2輯 富山県師範学校編 昭和11

昭和12年に出版した郷土教育の関連文献

1.「総合郷土研究に基づく郷土教育」 小田内通敏 『文部時報』第572号 昭和12
2.「師範学校、中学校及高等女学校の教授要目の改正と新教授要目の運用に就いて」 菊池豊三郎 『文部時報』第584号 昭和12
3.「郷土学の新展望」 小田内通敏 『山梨教育』第476号 昭和12
4.「農村における郷土教育の新形態」 小田内通敏 『改造』第19巻第10号 昭和12
5.郷土調査 第1輯 三重県女子師範学校編 昭和12
6.郷土の徳育資料 金沢市小学校教育研究会編 昭和12
7.郷土教育資料：興村の実際 三重県師範学校 昭和12
8.郷土と其の道 柴田八郎 昭和12
9.『郷土史は如何に研究すべきか』 歴史教育研究会 昭和12

昭和13年に出版した郷土教育の関連文献

1.郷土に立脚せる学校学級の経営 石川県河北郡七塚尋常高等小学校 昭和13
2.「教員養成方法の改善」 『師範教育』第1巻第1号 平生夙三郎 昭和13
3.青年学校修身及公民科精義：第一学年用郷土愛篇 第二学年用祖国愛篇 日本青年教育会編 昭和13
4.郷土研究叢書 山形県郷土研究会 8輯 置賜盆地の古代文化 昭和13
5.郷土勤皇事績展覧会図録 市立名古屋図書館編 昭和13

昭和14年に出版した郷土教育の関連文献

- | |
|-------------------------|
| 1.『郷土研究』 高知県女子師範学校 昭和14 |
|-------------------------|

昭和15年に出版した郷土教育の関連文献

- | |
|--------------------|
| 1.日本郷土学 小田内通敏 昭和15 |
|--------------------|

- | |
|----------------------------|
| 2.郷土教育展覧会図録 市立名古屋図書館編 昭和15 |
|----------------------------|

昭和16年に出版した郷土教育の関連文献

- | |
|--------------------------|
| 1.国民学校郷土観察の新形態 後藤博美 昭和16 |
|--------------------------|

昭和17年に出版した郷土教育の関連文献

- | |
|------------------------------------|
| 1.郷土研究叢書 山形県郷土研究会 11輯 山形の市の研究 昭和17 |
|------------------------------------|

- | |
|-------------------------------|
| 2.郷土史は如何に研究すべきか 歴史教育研究会編 昭和17 |
|-------------------------------|

- | |
|--|
| 3.『全国における郷土観察の実態』 広島高等師範学校附属国民学校編 昭和17 |
|--|

昭和18年に出版した郷土教育の関連文献

- | |
|--------------------|
| 1.郷土地理研究 内田寛一 昭和18 |
|--------------------|

- | |
|----------------------|
| 2.郷土教育の研究 松本彦三郎 昭和18 |
|----------------------|

資料2-2 福井師範学校の図画・手工の郷土化教材の取扱ひ方法

三三

		を主題とする應用圖案 (例) 手拭・包 紙・表紙・旗・ マーク等 圖案集の作製	附加課題—一般圖案の外なるべく郷土的圖案資料をも蒐集して夏季休暇中に其の内容を整理し装釘の上第二學期の初に提出せしめ批評の上將來の圖案學習に便ならしむ	書	
本科第一部第三學年		郷土教材要項	取 扱 方 法	郷土室の利用	備考
一般教材要項	郷土教材要項	我が屋敷及家屋の實際的理想設計 (圖鉛筆製圖)	例証課題—夏季休暇中に各自の屋敷及家屋を測量し更に理想的設計圖を考案製圖(鉛筆)せしめ第二學期の初に提出せしめて批評をなし修正の上更に提出せしむ	郷土資料の利用	備考
本科第一部第四學年 本科第一部第一學年		郷土教材要項	取 扱 方 法	郷土室の利用	備考
一般教材要項	郷土教材要項	本縣出身美術家略	敷衍附加—日本美術史講話の際特に郷土資料	郷土資料の利用	備考
日本美術略史	本縣出身美術家略			本縣出身美術家略	

		傳及作品、本縣内の國寶に就いての説明及鑑賞 郷土の社寺及郷土色豊かなる家屋の建築風景寫生(水彩畫) 白山の山岳美の鑑賞及寫生	料によりて一般的説明をなし作品を鑑賞せしむ 見學—大安寺・永平寺・瀧谷寺等 附加課題—夏季休暇中に二枚以上の作品を製作して第二學期の初に提出せしめ批評及鑑賞をなす 見學課題—白山登山の際自然鑑賞及寫生をなさしむ	傳、本縣出身美術家一覽表 國寶寫真帖 岩佐又兵衛筆三十六歌仙圖	
本科第一部第五學年 本科第一部第二學年		郷土教材要項	取 扱 方 法	郷土室の利用	備考
一般教材要項	郷土教材要項	我が家族又は郷土の著名なる人物の肖像畫 (木炭畫又は油繪) 本校「同窓會報」の表紙圖案	附加課題—夏季休暇中に隨意製作せしめ第二學期の初に提出せしめ批評をなし修正の上更に提出せしむ 附加課題—第二學年は第二學期に第一學期に於て製作し學期末に提出せしめ個別的に批評をなし優秀なる作品は次年度の同窓會報の表紙として採用す	郷土資料の利用 橋本左内・橋曙鸞・梅田雲濱等の肖像畫	備考
準教科書 「中等教育 一般美術史」					

製作法 (機械製作)		陶器の大量生産		例証—機械による製作物と手捻法に依る製作物とを比較研究せしめ且つ之を鑑賞せしむ		織田焼及葦原焼製作 順序標本 織田焼	
粘土細工(實地) 手捻法 巻作法		郷土教材要項		例証—織田焼の實物を参考とし教科書中に在る飲食器其他の製作を實習せしむ		郷土資料の利用	
一般教材要項		郷土教材要項		取 扱 方 法		備 考	
木工(理論) 製 圖		郷土民家の研究		附加—住宅間取圖製作に際し村落住宅の間取圖を畫かしめ郷土民家の特徴を明にす 屋根の形及宅地の利用状態等をも併せ畫かしむ		郷土資料の利用 民家の寫生圖 民家の寫真	
木工(實地) 旋盤使用法		河和田塗碗の製作法		例証—旋盤使用に依る圓板製作に際し河和田塗標本を参考とす		河和田塗	
一般教材要項		郷土教材要項		取 扱 方 法		備 考	
鐵細工(實地) 鍛 入 燒 合		武生双物の製作概況		附加—片双物製作實習に際し武生双物製作の實際を参考として説明す (武生双物の好評ある所以は該製作の主として手工業に依るにあり)		郷土資料の利用 武生双物の製作狀況の寫真	
本科第一部第五學年		本科第一部第五學年		本科第一部第五學年		本科第一部第五學年	

竹細工(理論) 竹材着色法		今立郡北中山村に於ける竹細工着色の實際		敷 扱 方 法		郷土資料の利用 北中山村産竹笠・竹行李・文庫・衣裳 籠・花籠 全右		備 考	
竹細工(實地) 編方(市松組)		全右の編方の實際		例証—郷土資料を参考として花籠文庫籠等を製作せしむ		郷土資料の利用 織田焼葦原焼製作 順序標本・一本木 燒・小會原燒・比比 塚人形		備 考	
粘土細工(理論) 燒成法		織田焼及葦原焼の釉藥		附加—織田焼及葦原焼カマドの構造を比較せしめ火力の差に依る釉藥の相違を理解せしむ		郷土資料の利用 織田焼葦原焼製作 順序標本・一本木 燒・小會原燒・比比 塚人形		備 考	
一般教材要項		郷土教材要項		取 扱 方 法		備 考		備 考	
木工(理論) 木材着色法		大野人形着色・河和田塗・若狭塗順序 民家新築に際し紅唐を使用する常例		例証—漆の塗方・エナメル・ペンキの塗方等 に際し其の下の塗り方として 上記の郷土教材を参考として説明す 杉檜等の軟材塗工の一方法として紅唐の使用法を知らしむ		郷土資料の利用 河和田塗・若狭塗 塗工順序標本		民家新築に際し紅唐を使用するは當地方の特微なり	
本科第一部第一・二學年		本科第一部第一・二學年		本科第一部第一・二學年		本科第一部第一・二學年		本科第一部第一・二學年	

木工教授に於ては本科第一部第一・二・三學年の要項に金工教授に於ては第一部第五學年の要項に準據す

資料2-3 愛知県師範学校附属小学校の郷土科教材配当表例

豊 太 閤

ヒ ト ニ ヒ イ デ シ ハ ク リ コ ト
あ ま ら ち か ら と お し ひ ろ の

ミ ガ シ タ ル ヨ ウ ケ ヒ ウ ケ テ
こ ゃ の あ う の を ふ み ゆ け て

ソ ノ コ コ コ ロ ノ ー ヒ ト ス テ ニ
く に の ひ が り を あ う け し

キ ミ ノ ー ミ コ コ ロ ヤ ス メ ニ キヤ
と よ く に の か み ー た ふ と し や

讀、郷土化教育

月	五	月	四	年
八	七	六	五	一
○ハバタガ ○ウノウジヤ ○バナクサ	○イシガメ ○エンカウ	○ジブク ○セツゴン	○サウコン ○キネイ ○ランミン	○ワタクシ ○ドモノガ ○クカウ
(野外生活) ④ ①ばたが原	○のうふうと ○をのふうと	○のせつぐの町 ○のよしの町	○せうこん ○さい川 ○矢田川	○春の大幸川 ○川 ○川
(野外生活) ④ ①花原	○農場の作物 ○小路の草	○農場の作物 ○小路の草	○熱田神社 ○第三師團港	○春の大幸川 ○川 ○川
(郷土見學) ④ ①市内の市	○七木槍 ○学校のつばた	○登王山と水道 ○渡邊華山	○招魂祭 ○市内の交	○學校の位置 ○四角
(郷土見學) ④ ①北の野	○愛知縣の地勢 ○熱田神社	○我が市の道路 ○日本武尊	○濃尾平野 ○矢野川	○我が家 ○我が家
要①	○市内の警察署 ○市内の警察署	○愛知縣の地勢 ○熱田神社	○我が市の地勢 ○熱田神社	○我が家の歴史 ○我が家の歴史

郷土科教材配當表例

六一

備考
いふまでもなくこの表は一ヶ月十一月ヶ月(八月をのぞく)を通じて立案してあるが、茲には紫をさけてその一部分を示したのである。○内の数字は教授時間数である。尋一では郷土科教材を中心として諸般の総合教授に展開するから時間配當を示さない。

資料3-1 つくば市吾妻小学校の水墨画体験教室



資料3-2 水墨画体験教室に参加した子どもたちの感想

室町文化体験教室

お世話になった先生方に感謝の気持ちをこめて手紙を書きました。
体験教室で学習して、感じたことやわかったことも書きかえましょう。

興水先生へ

名 言谷野直美

今日はありがとうございました。私は習字を習っていきすがあの黒墨、一色で絵を書いたことはありません。水墨画を描き、有名になった雪舟さんはすごいなあと思いましたが、あの墨で、あんなにじょうずに書けるなんてびっくりしました。それから水墨画が日本からだんだんと消えていくのはとても残念です。だから、先生これからもっともっと水墨画の良い所をアピールしてがんばって下さい。

室町文化体験教室

お世話になった先生方に感謝の気持ちをこめて手紙を書きました。
体験教室で学習して、感じたことやわかったことも書きかえましょう。

水ぼうく画を体験して

名 太田幸良

ぼくは羽白字をやったあとにいつも羊紙に絵を書いてます。でも今日やった水ぼうく画は、フコヤとゆうサヤで、立体かんがえるものでした。これがかあくと立体てきこになるのにはおどろきました。あと、筆をいきよいよく動かしたりしてかすれた部人刀をつかうなど、すぶりテクニックをいっぱい見せてもらいました。今日は本当にありがとうございます。フコヤいきました。またフコヤと来てくれたヤイ。

資料3-3 大学美術教育学会誌における郷土美術教育関連論文

書名	出版年度	掲載総数	郷土美術教育に関する論文
第1号	1969	5	無
第2号	1969	7	1.窯工芸教育における窯炉の研究Ⅰ 中野 忠 福岡教育大学 2.一般教育としての工芸の意義 巖岸耐七郎 宮城教育大学
第3号	1970	5	無
第4号	1971	?	?
第5号	1972	1	1.日本の伝統折紙の造形性と美術教育 平野三代喜 熊本大学
第6号	1973	13	1.教員養成大学における日本画指導の実際 横山ツエ 秋田大学 2.大正期工芸運動の研究Ⅰー山本鼎の「農民美術」について 都築邦春 秋田大学
第7号	1974	8	1.備前焼を中心とした炉器の素地上と焼成について 岡本素六 岡山大学 2.大正期工芸運動の研究(その2) 都築邦春 秋田大学 3.岸田劉生の美術教育論に関する一考察 長谷川哲哉 和歌山大学
第8号	1975	9	1.大正期工芸運動の研究(Ⅲ)ー「民芸」と民衆 都築邦春 秋田大学
第9号	1976	11	1.教育としての陶芸技法～手づくりを中心として～ 岡本素六 岡山大学 2.百武兼行研究 副島三喜郎 佐賀大学 3.大正期工芸運動の研究(その4)ー民芸と農民美術ー 都築邦春 埼玉大学
第10号	1977	11	1.エルンスト・グローセの『芸術の始源』について ー 環太平洋文化圏の発生への一考察ー 松本巖 埼玉大学 2.職業教育としての工芸教育 都築邦春 埼玉大学

第11号	1978	11	無
第12号	1979	14	無
第13号	1980	10	1.大阪における「きっかけ題材」の一考察 河村徳治 大阪教育大学
第14号	1981	3	1.地域における自然と造形―集団実習による造形基礎教育の事例 寺井暢彦 北海道 教育大学札幌分校
第15号	1982	5	無
第16号	1983	5	1.昭和20年代の美術教育―くぐり抜けてきた人々の証言― 増田金吾 東京学芸大学
第17号	1984	11	1.わが国における「竹工作」の教育史的考察 浜本昌宏 鳥取大学
第18号	1985	9	1.教授内容と方法に見る美術教育の展開 橋本泰幸 広島大学 2.初等教育における版画教育の研究 丸山浩司 福島大学
第19号	1986	12	1.日本近世における美術教材についての研究―木村立嶽雅経筆粉本― 太田将勝 岡山大学 2.粘土細工から彫塑教育への転機―信州・上田彫塑研究会の活動― 梶田幸恵 宮城大学
第20号	1987	18	1.美術教育研究と国際化 仲瀬律久 上越教育大学 2.「蔵書票づくり」にみる表現活動の分析 山瀬晋吾 金沢大学 3.造形教育におけるスギ材の利用化研究 森岡茂勝 兵庫教育大学 4.食器の役割と心理的効果 高石次郎 上越教育大学
第21号	1988	22	1.開智学校における等々力茂登太郎の毛筆画教育 梶尾幸恵 宮城教育大学 2.石野隆の手工教育観考察 菅生 均 熊本大学 3.「水墨画による絵巻物づくり」が内包する表現活動の分析 山瀬晋吾 金沢大学附属中学校 4.野外彫刻の帰納的考察―地域調査結果と野外彫刻のあり方 松尾 豊 高岡第一高校

第22号	1989	20	<p>1.上原六四郎の手工教育観に関する一考察 菅生 均 熊本大学</p> <p>2.中世大和地方における「絵所座」と「絵仏師」についての研究 太田将勝 岡山大学</p> <p>3.円形空間の系譜考―日輪兵舎の復元実験を通して― 長沢三郎 福岡教育大学</p> <p>4.広島高等師範学校付属小学校における図画・手工科の史的研究 I ―創立期の「図画科教授細目」と堀孝雄の教具研究― 佐々有生 広島大学付属小学校</p> <p>5.工芸教育における生立木染色の効果的利用 森岡茂勝 兵庫教育大学</p>
第23号	1990	20	<p>1.岡山秀吉、一戸清方の手工科教材観の相違に関する一考察 菅生 均 熊本大学</p> <p>2.美術教育における和魂の脱構築 ―稽古と工夫の見直し― 川田祐子 横浜国立大学大学院</p> <p>3.広島高等師範学校付属小学校における図画・手工科の史的研究 II ―堀孝雄の「図画科教授細目」の編纂と鑑賞教育― 佐々有生 広島大学付属小学校</p> <p>4.美術教育における「自由」の概念 ―山本鼎と中西良男の実践をめぐって― 菅沼嘉弘 鳥取大学</p> <p>5.「環境造形」教育の理論と実践 阿部靖子 上越教育大学</p> <p>6.日韓両国の伝統芸術の伝承と美術教育 辻弘ら6名 兵庫教育大学</p> <p>7.伝統技法の教材化への研究―「鎌倉彫」の応用 伊藤隆一 北海道教育大学札幌分校</p>
第24号	1991	17	<p>1.美術教育における和魂の脱構築 川田祐子 横浜国立大学大学</p> <p>2.山形県長瀬校の想画教育について I 青山光佑、西村俊夫 水島尚喜 山形大学</p> <p>3.堀孝雄の自由画教育の目的とその内容 佐々有生 広島県教育委員会</p> <p>4.手島精一の手工教育観に関する考察 菅生 均 熊本大学</p>
第25号	1992	32	<p>1.岡山秀吉の図画手工連結教授観に関する一考察 菅生 均 熊本大学</p> <p>2.シンガポール国の美術科教育についての考察―教科書を中心にして― 福田隆真 山口大学</p> <p>3.東大寺修二会「椿」の考察とその教材化研究 比留間良介 奈良教育大学</p> <p>4.美術教育における環境教育の視点と内容 阿部靖子 上越教育大学</p> <p>5.美術による環境教育 II ―工作・工芸、デザイン 岡田匡史 山口大学</p> <p>6.山形県長瀬校の想画教育について II 青山光佑、西村俊夫、水島尚喜 山形大学</p> <p>7.伝承造形のオブジェクト指向的分析 ネットワークにおけるハイパーメディアDBのための基礎的研究 高木厚子 兵庫教育大学</p> <p>8.茶碗の造形美と高台に関する考察―器壁傾斜角と高台径の関係 脇田宗孝 奈良教育大学</p>

第26号	1993	34	<p>1.環境造形教育における空間学習についての考察 阿部靖子 上越教育大学</p> <p>2.彫刻における発想方法についての一考察―「見立て」の造形― 石谷孝二 鳥取大学</p> <p>3.等春と長谷川家・等伯―『等伯画説』にみる等春の北陸下向 遠藤幸一 富山大学</p> <p>4.都市景観のなかの無作為の美について―詩的景観芸術論の試み― 岡田敬司 弘前大学</p> <p>5.美術教育と環境問題―エコロジー思想からの考察― 金田卓也 東京芸術大学</p> <p>6.美術教育における和魂の脱構築―「マンダラ」の見直し 川田祐子 山野美容芸術短期大学</p> <p>7.デザインサーベイによる景観造形教育の実践的研究(その2) 福井正明 岩手大学</p> <p>8.弥生土器の造形美と技法に関する考察―インドネシア・ベルウ族の土器づくりを通じて 脇田宗孝 奈良教育大学</p>
第27号	1994	27	<p>1.興福寺 板彫十二神将像の木目 新井浩 埼玉県立大宮南高等学校</p> <p>2.山形県長瀬校の想画教育について 青山光佑・水島尚喜 山形大学</p> <p>3.美術教育における和魂の脱構築「鏡(カガミ)」―「うつす」と「みがく」の見直し― 川田祐子 山野美容芸術短期大学</p> <p>4.明治・大正期における趣味教育の系譜―その興隆から図画教育へ― 向野康江 武蔵野美術大学</p>
第28号	?	?	?
第29号	1996	32	<p>1.ドイツと日本の子どもの絵の違いについて―一風あげをテーマに描かれた小学校低学年の子どもの絵の任意の項目についての比較検討― 真壁あさみ 新潟青陵女子短期大学</p> <p>2.作品と風土性に関する一考察 一福田平八郎と徳岡神泉を通して 中牟田佳子 福岡市立和白中学校非常勤講師</p> <p>3.シンガポールにおける小学校美術科の教科書について 福田隆真 山口大学</p> <p>4.三春張子と鑑賞教育 佐藤昌彦 北海道教育大学函館校</p> <p>5.国際こども平和壁画ワークショップの理念と実践 阿部寿文(大阪女子短期大学) 金田卓也(大妻女子大学)</p> <p>6.近代日本美術における制作者と受容者の関わりについての―考察Ⅱ― 「見世物」と「美術」の間 池上香苗 筑波大学大学院</p> <p>7.堀孝雄の自由画教育に関する考察―「科学的正確」から「主観的芸術的正確」へ― 佐々有生 鳴門教育大学</p> <p>8.1980年代における学校施設の文化的環境づくりについて―1%システムの行方― 佐藤智子 倉敷市立短期大学</p> <p>9.高齢者の美術・造形活動の傾向と課題―福島県内高齢者の意識調査からみた― 片野一 福島大学</p> <p>10.月照寺蔵「三十六歌仙式紙」について 下原美保 鹿児島大学</p> <p>11.神応寺行教律師座像について―習合像としての可能性と美術教育への問題提起― 花村統由 東京学芸大学</p>

第30号	1998	34	<p>1.シンガポールの情報教育プロジェクトと美術教育 一初等教育を中心に一 佐々木宰 北海道教育大学釧路校 福田隆真 山口大学</p> <p>2.日本の家紋についての一考察 松江喜代寿 青森県立弘前工業高等学校</p> <p>3.近代日本美術における制作者と受容者の関わりについての一考察Ⅲ 一美術教育の使命一 池上香苗</p> <p>4.大竹拙三の「感激」を基礎とする図画教育一自由画教育における「模倣」と「創造」 佐々育生 鳴門教育大学</p> <p>5.ポスター様式の変遷と要因Ⅲ一日本のポスター様式1 久保村里正 文教大学非常勤助手</p> <p>6.明治大正期の信濃教育会下伊那部会における手工科・図画科教育研究の萌芽一教育思潮、教授方法の「撮取・消化」の観点から一 宇田秀士 奈良教育大学</p> <p>7.美術館の地域文化一美術館教育を通して一 杉林英彦 筑波大学大学院</p>
第31号	1999	37	<p>1.大正後期の信濃教育会下伊那部会における図画科教育研究一教育思潮、教授方法の「咀嚼・改革」の観点から 宇田秀士 奈良教育大学</p> <p>2.美的感受性の発達に関する異文化的視点からの考察一日本と台湾の比較を通して一 王文純 秋田県立衛生看護学院 石崎和宏 秋田大学</p> <p>3.ポスター様式の変遷と要因Ⅲ一日本のポスター様式2 久保村里正 文教大学非常勤助手</p> <p>4.大竹拙三の芸術教育としての図画 佐々育生 鳴門教育大学</p> <p>5.パブリック・アートについての考察Ⅰ一日本の現状と今後 高須賀昌志 埼玉大学</p> <p>6.文化としての遊びと科学技術の接点一子供のための木製遊具「魚ぎょギョ」の考案と制作 高橋敏之 岡山大学</p> <p>7.クロマメによる染色の基礎的研究 竹田艶子 兵庫教育大学 大学院連合（鳴門教育大学）</p> <p>8.物語画の題材論及び指導論的考察 一物語画「祭りの晩」（宮沢賢治作）を事例として一 立原慶一 宮城教育大学</p> <p>9.美術教育とクロスカリキュラム一造形活動を核とした展開に向けて 辻泰秀 岐阜大学 磯部錦司 岐阜市立長良中学校</p> <p>10.藍染めにおけるアルコール及び尿素の効用 中川存 鳴門教育大学</p> <p>11.東洋思想・もの派の可能性一即の論理からの美術教育 柳沼宏寿 福島市立福島 第四中学校</p>

資料3-4 『美術教育学』における郷土美術教育関連論文リスト

書名	出版年代	掲載総数	郷土美術教育関連論文
第1号	1979	9	無
第2号	1980	9	無
第3号	1981	8	無
第4号	1982	9	無
第5号	1983	14	無
第6号	1984	9	1.毛筆画教育移行への要因—開発教授と毛筆画教育 橋本泰幸 広島大学
第7号	1985	24	1.美術教育と環境—美術教育における学校環境と環境教育 阿部靖子 上越大学大学院 2.明治初期・鉛筆画・毛筆画論争をめぐる図画教育観と教育家像—小山正太郎、フェノロサ、岡倉覚三を中心として 立原慶一 高知大学
第8号	1986	22	1.子どもの文化的環境と環境教育 阿部靖子 新潟市立藤見中学校 2.昭和初期の図画教育思想—郷土化の図画教育にみる社会性 橋本泰幸 広島大学
第9号	1987	35	1.美術教育における環境教育 都市1 伊藤清忠 東京学芸大学 2.消えた教材「紐結」の考察 津田昇 上越大学大学院
第10号	1989	25	1.大正期、画家の美術教育論—大竹拙三編『画家の児童画観』を中心として— 立原慶一 高知大学 2.木下紫水の図画教育—自由画教育前夜の活動について 宇田秀士 大阪府熊取中学校 3.自然の遊びは子どもをどのように育てるか—美術教育への提言— 山口孝雄 豊橋短期大学 4.環境教育としてのデザイン教育 香取圭子 東京学芸大学大学院

第11号	1990	24	1.木下紫水の図画教育—自由画教育以降の活動について 宇田秀士 大阪府熊取中学校 2.明治期の横浜における美術教育(1) 山口喜雄 横浜市立大島中学校 3.「織る」ことの教育的位置付け(その2) 中村潤子 東京学芸大学
第12号	1991	27	(3月) 1.明治期の横浜における美術教育(2) 山口喜雄 横浜市立大島中学校
第13号	1991	30	(12月) 1.美術教育と異文化理解教育 金田卓也 立教女学院短期大学 2.「環境造形」学習の教材化についての実践的研究—教員養成系大学学部学生を対象に— 阿部靖子 上越教育大学 3.明治期における芸術概念とその社会的機能—旧派洋画家とパノラマ館を中心に— 蔵屋美香 千葉大学大学院
第14号	1993	31	1.「環境造形」の教材化 阿部靖子 上越教育大学 2.美術による環境教育—造形遊び、絵画、彫刻 岡田匡史 山口大学 3.山梨県における自由画教育 佐藤政道 山梨県大月市立大月東小学校
第15号	1994	33	1.美術教育における環境造形学習の内容と構造 阿部靖子 上越教育大学 2.アメリカにおける多元文化的美術教育 金田卓也 東京学芸大学 3.信州における新教育運動と美術教育1 橋本光明 信州大学

第16号	1995	33	<p>1.自然環境とかかわる環境造形教育について—20世紀後半以降の美術の動向から 阿部靖子 上越教育大学</p> <p>2.拡大する染めと工芸教育への展開—美術・工芸或いは表現に関わる基本的問題の問い直しのために— 佐藤賢司 上越教育大学研究生</p> <p>3.野外教育におけるものづくり活動—木材による遊び道具づくり— 渋谷寿 名古屋女子大学</p> <p>4.戦後茨城県下美術教育実践史の研究—民間美術教育運動を中心として— 瀧ヶ崎正彦 水戸市立千波中学校</p> <p>5.信州における新教育運動と美術教育〔Ⅱ〕 —白樺教育運動— 橋本光明 信州大学教育学部</p>
第17号	1996	26	<p>1.工作教育の基礎に関する—考察— 工芸概念の多様性に対する共通性の探究の視点から— 佐藤賢司 上越教育大学研究生</p> <p>2.自然との共生をめざす美術教育に関する考察 隅敦 下松市立東陽小学校</p>
第18号	1997	28	<p>1.江戸後期から明治初期にかけての彫刻制作者に内在する師弟観について—徒弟制における師弟関係と学校教育における師弟道の存続と融合— 池上香苗</p> <p>2.地域の伝統的造形と鑑賞教育—小学校における昼花火の実技と理論的考察— 佐藤昌彦</p>
第19号	1998	32	<p>1.地域をいかした総合的学習の体系化—1945年以降の考察に基づく中学校美術教育における再構築の試み— 磯部錦司</p> <p>2.台湾の新しい小学校における「郷土美術」について 蔡惠真</p> <p>3.ムックリ（口琴）の教材化考（1）—アイヌ民族の伝統的造形の教育的意義と造形教材としての可能性を探る— 佐藤昌彦</p>
第20号	1999	35	<p>1.自然環境を視点とした美術教育—現代美術からのエコロジカル・アプローチ— 磯部錦司</p> <p>2.台湾の中学校の新設教科である「郷土芸術活動」とその実施状況について 蔡惠真</p> <p>3.ムックリ（口琴）の教材化考（2）—アイヌ民族の伝統的造形の教育的意義と造形教材としての可能性を探る— 佐藤昌彦</p>

資料3-5 アメリカの学校教育における多元文化芸術教育の授業例

ちょっと立ち寄って、外へ見ること：コミュニティの芸術教育

(Looking Outward, Looking in : Community Art Education, ART EDUCATION May 1998 Vol.51 No.3 pp6-13)

テリーザ MARCHE (THERESA MARCHE)

地域共同体は、広範囲の概念と単純な用語として、現在の公開討論の中にその方法を見いだした。我々は、全部の村、あるいは共同体が、その1人の子供を育てるのを聞く。エコロジスト（環境保全運動家）は生物学的共同体を研究し、そして法の執行においてさえ、その重点は地域共同体の政策にあるのである。教育における論議の中心は学校と教室共同体であり、そして芸術教育のトピックは地域に密着した芸術教育である。しかしながら、注意深く注意すると、関係者の話が多種多様にその専門語を使っていることが明らかになる。共同体とは、直接教育のプロセスに関係する学校の設定の中で働く学生、教師、管理者とサポート・スタッフを含めての個人集団コレクションに関連するかもしれない。あるいは、教室壁の外に存在するローカルな環境に関連するかもしれない。内部の、そして外部の共同体のこれらの2つの広範囲のカテゴリーの中で、地域に密着した芸術教育への多くの教育的アプローチがある。

私は芸術教育と教育に関連しているいくつかのアプローチと共同体の意味を論じるつもりである。この論述で、私は、インディアナ州 (Indiana) の南の一つの田舎の学校共同体の経験から事例を提供するつもりで、この芸術プログラムで、親、学生、そして教師がその変化を発展させて、そして実行するために働いた。

外へ向かって見る一ローカルの環境とカリキュラム地域に密着した芸術教育が多くの芸術教育者（Blandy & ホフマン (Blandy & Hoffman)、1993；Katter、1995；ロンドン (London)、1994；Marschalek、1989；Mcfee、1996；Szekely、1994）によって勧められた。それらの文献を注意深い読むと、しかしながら、共同体に対してどうするかと、芸術学生の役割はどうすればよいかなど投げられた質問に関する地域に密着した芸術教育の三つの異なる解釈は明らかである。確かに異なった解釈の間に重複と混合があるが、それらははっきり別々のものである。これらの3つのアプローチが、ローカルな地域共同体と環境についての捕獲、学習、そして活動のように要約された。

生徒たちは間もなく町の歴史での主要な人物が（彼・それ）ら自身の祖父母と素晴らしい曾祖父母であったことを学んだ。

捕獲：猟師 / 収集者の役割

猟師 / 収集者の様式がロンドン (London) (1994) によって、実証された。彼が教

師と生徒に彼らの教室の外に踏み出すことを要求し、視覚の長い冒険旅行に着手させ、それで直接に実世界を発見し、経験するように促した。ついに「教室の外の世界は、教室の内部の世界よりはるかに偉大で、いっそう説得的で、そして究極的である。」を宣言した。(p.xiii)。ロンドン(London)は「何があそこであるか」と質問をする。彼の子供中心の発見学習的なアプローチで、生徒たちが、外に出て、直接の環境から文化遺産を集め、造形要素と原則における実際の対象、あるいは視覚の例のようなものを携えて持って帰る。それらは、舗道からの組織構造の拓印、あるいは建物における煉瓦のパタンの写真のようなものである。ロンドン(London)は芸術プログラムにおける親と地元の市民のための役割を認める；彼らと彼らの物語は集められて、そして美術製作の基盤として使われるはずである。

Szekely (1994) は近代的な買い物客としての猟師 / 収集者の 比喩を再定義した。このアプローチは生活との出会いを通して学習を示し、しかし生活は、間に合って特定の瞬間、表面(額面)の価値で理解された。それは、地域共同体の再構築、そこから見た地域共同体は、最も大きい芸術供給店であり、一つの面白い対象や、物語や、経験の即刻の情報源のようなものである。そこから大衆芸術とコマーシャルプロダクトが獲得される。

「探偵役割」についての学習

多元文化の芸術教育 (Sleeter & Grant (Grant), 1988 ; Banks, 1993) に根付いた地域に密着した芸術教育への2番目のアプローチは完全に文脈された。この様式で、生徒たちが彼ら自身の共同体の歴史的な、そして人間の文脈を探検するために外に出る。多元文化教育のように、このアプローチは、伝統的な美術規準の開放を意味し、郷土工芸と応用芸術を含めているいろいろな美術形式を通して、多様性を公表する (Katter, 1995)。主要な質問が「この共同体であるもの大体はなにか、そしてそれはどのようにこのようになったのか」になる。生徒たちが、彼らのローカルな地域共同体の歴史、芸術、職業そして祝典の起源と現在の状態を調査するとき、探偵あるいは研究者の役割を演ずる。

共同体メンバーが芸術家や、facilitators (促進者) や、カリキュラムデベロッパーとして芸術教室に引き込まれる。いろいろなライフスタイルにたいして尊重し、人類の正義、すべての参加グループの権利への関心することは、地域に密着した芸術教育にこの様式を特徴づける。

「社会活動家役割」に行動を起こす

地域に密着した芸術教育への3番目のアプローチにおいては、共同体意識の概念は拡大されて、人間の文脈を越えて、自然の環境も含める (Blandy & hoffman, 1993 ; Marschalek, 1989)。生徒たちが社会活動家と地域共同体の設計者になって、「この共同体はどのようにそれ自身と自然界を調和して存在することができるか？」の質問

に於いて、人間と自然の世界両方ともに行動を起こす。生徒たちがアーキテクチャ、土地の利用、社会的 / 文化的な相互作用、そして、広範囲の環境の科学を調査する。このアプローチで、生徒たちが、地域共同体への感覚や、その地方のための責務を発達させるよう奨励される時、環境 / 共同体は学習への筋道になる。

内部へ見る学校の共同体と関係一つの地域に密着した芸術教育と関連しているが、異なった、アプローチは、内部に向かって学校共同体を見つけて、そして築くことを必要とする。Mims と Lankford (1995) は芸術教師が存在する世界のみじめな写真を描いた；タイムプレッシャー、身体の、そして精神の極度の疲労、限定された労働者のスペース、学校のカリキュラムの中に芸術教育への敬意の欠如、大部分さんざんで、孤立させるなどによって特徴づけられる世界である。基礎教育の芸術教師が、特に、労働人口においては、最もおろそかにされた専門家であると見分けされた (1994年5月；Mims & Lankford (Mims & Lankford)、1995)。彼らの孤立を和らげるために、教師 (そして特に芸術教師) が思いやり深い、献身的な、支持する、プロフェッショナルな地域共同体を作るべきであり、そちらで彼らが物語を共有して、そして理解し合う美德を身につけることができる (May、1994年)

校長(Administrators)、管理の人員、教師と支持スタッフが学校の文化を理解するようになって、そしてすべての心配している団体の間での協力を促進するために働くべきである (Fullan、1993)。

学生がまた、趣味と協力の技能の上に基礎づけられた共同体の感覚を発達させることは重要である (Fullan、1993)。我々は重要な調査の挑戦的なカリキュラムを通して、彼らは個人的に個人的に、互いに関連する思いやり深い、支持する、安定した関係で皆の成長と建設的な学習に従事し、献身するようになる、学習者の共同体を作らなくてはならない (ルイス (Lewis)、Schaps、&ワトソン (Watson)、1996)。次の例においては、外へ、そして内へ見るアプローチが一つのインディアナ州の田舎学校の芸術プログラムにおける変化を引き起こすために提携して作用した。

STINESVILLE 小学校とプロジェクト芸術

プロジェクトARTS (田舎の教師 (Rural Teachers) と学生のための芸術) は、3年のデモンストレーションプロジェクトで、インディアナ大学 (Indiana University)、ブルーミントン (Bloomington) に本拠地が置かれ、ギルバート・クラーク (Gilbert Clark) とイニード・Zimmerman (Enid Zimmerman) によって指揮した、そして合衆国教育省 (United States Department of Education) を通してジェイコブ (Jacob) Javits プロジェクト開発補助金によって資金を供給したものである。プロジェクト、7つの基礎のサイト学校を巻き込んでいる3状態のコンソーシアムは、多民族の、田舎の、有能なビジュアル、そしてと親と他の共同体メンバーのニーズとの出会いに仕向けられたことは、このプロジェクトのゴールであった。それぞれの状態でのプロジェクト活動がインディアナ大学 (Indiana University) でのプロジェクト芸術オフィスを通して調

整された、そしてそこで私はプロジェクト調整者とインディアナ (Indiana) サイトの部長として仕えた。

プロジェクトの最初の年の1993-94に、助成金活動スケジュール表は適切な一体化の機関の組織化と発展を要求した。元のインディアナ州 (Indiana) 学校の1つが困難を経験して、そして助成金に対してのそれ以上の参加を辞退したとき、近くの Stinesville 小学校においての管理者と教師が連絡を取られた、そして参加することに同意した。この遅い初めのために、しかしながら、Stinesville は助成金のタイムスケジュールに遅れた。

Stinesville 町は南のインディアナ州 (Indiana) のでこぼこの丘に位置している、そしてそこで Jack Defeat 川 は純粋なセーラム (Salem) 石灰岩の険しい露出部を横切って通っている。1856年に鉄道の到着と一緒に、採石は地方の繁栄の源になった。しかし、1916の火がその採石場を破壊した後、Stinesville の石灰岩産業は後退して、町が次第に消え始めた。第二次世界大戦後、州全体の動きは合併に向かって、ローカル学校を排除すると脅したが、この学校は成功に耐えてきた。Stinesville 小学校は小さい地域共同体のフォーカスになるために存続されてきた。

五つの隣接の、出来て1世紀の石灰岩造（正面に石灰岩がつけられている）建物はすべて Stinesville の昔の繁華地区に残っている。Stinesville の昔の商業興信所は現在の Summit 食料雑貨店であり、家並みの端を占めているが、他の建築は、屋根あるいは床が欠けているという状態で、ただからの殻であるということである。州と国の歴史的な記録の上にリストされている、この集団的な構造は、インディアナ歴史的なランドマーク財団 (Indiana Historic Landmarks Foundation) の10のもっとも危険なランドマークの1つとして引用された。

始められた—すばらしいアーキテクチャの日

プロジェクトの2年目 (1994-95) の間に、高い能力の視覚芸術学生が識別された、そして分化されるカリキュラムが発展させられて、実行された。それは、ARTSプロジェクトと関わっている私の最初の年であった。インディアナ (Indiana) サイトの部長としての私は、Stinesville 小学校で遭遇された困難について心配していた。それは、本質的に単独で働いている、一人の美術教師が、この芸術の特殊才能プログラムを一つの課外活動のスケジュールに実行しようと試みていたが、1月に彼女はこのプロジェクト補助金に参加して続けることができなかつたとフラストレーション（挫折）の状態で私に知らせたことである。

地区の有能なコーディネーターと会見した後、我々はプロジェクト ARTS (Project ARTS) にもう一度の試みを与えることに決めた。一つのチームが、Stinesville 芸術の特殊才能プログラムの教師、音楽教師、美術教師など、そしてダンスの背景を持っていた有能な地区のコーディネーターから成り立って集められた。その時、Stinesville 小学校は1995年5月に初公開の予定をした、一つの新しい建て増しの建設を経験していた。一つのアーキテクチャの研究は適時的であり、適切であると思われた。上述の

美術教師は、ローカルのアーキテクチャの研究をまだ実現していなかったが、世界アーキテクチャにおける主要な特徴と歴史的な発展のユニット概観をすでに完了していた。

新しいチームは、彼ら自身の8週間のアーキテクチャの予備プロジェクトを立てることを選べた。このプロジェクトは、一つの短期の、達成可能なゴールとして教師によって見られて、具体的に定義され、既存の状態から変化を表した。そのようなものとして、それは学校の共同体建築のために効率的な道具であった（ヘンソン (Henson)、1996）。Stinesville の芸術の特殊才能プログラムの教師は、いつもの自由選択の代わりに、共同体歴史における一つの選定された論題として、プロジェクト芸術 (Project ARTS) を彼女の例年の学生の「熱情プロジェクト」に取り入れることに決めた、これは彼女にこの学校でのもう1つの争いの論点に焦点を合わせることを許した。

数十年の間、Stinesville のバスケットボールチームは「採石場の若者と少女」というタイトルの下で競争した。しかしながら、1995年、小学校の生徒たちは、タイトルによって不満や、少し恥ずかしいと思って、そして「カウボーイ」あるいは「トラ」のように、いっそう普通の何かに変更を求めた。地方共同体年長者は、過去の歴史で接続を切断する学生の願望においてろうばいして、そしてがっかりした。初期のプロジェクトARTSにおける共同体歴史プロジェクトにおいてのこれらのイベントの論議は、特殊才能プログラムの教師に学生が「採石場の若者と少女」であることにおいての誇る理由を発見させるように挑ませることになった。

仕事が、町の二人の最も年長な市民によっての訪問とローカルの墓地への散歩の二人のアマチュア歴史家によるプレゼンテーションから始まった。遂行されるべきの一つのブレインストーミングセッション（想像力開発法のようなかたちの会議）が五つのトピックのリストが出された。学校図書館での作業、生徒たちは間もなく、百科事典のような標準的なリファレンスが十分ではないであろうことを悟って、そして彼らは家族メンバーや、古い年鑑、そして町の歴史的な社会アーカイブ（記録、公文書）保管所を含んだ、代わりソースを見いだしなければならないであろう。学校図書館員は騰写版で印刷された1958のStinesville 百周年小冊子 (Stinesville Centennial Booklet) のコピーを供給して、そして、学校のコックさんは生徒たちに高校合戦の古い歌を教えた。

生徒たちがベッドフォード (Bedford) にあるインディアナ石灰岩研究所 (Indiana Limestone Institute) に手紙を書いて、石灰岩地質学の上でファイルをダウンロードして、そして、インターネット (Internet) から探し出す。家族アルバムとホームビデオが視覚的な情報を提供した。古いスクラップ記事が1935年に古い高校の校舎を破壊した一件の火災を記述した。生徒たちが間もなく町の歴史での主要な人物は彼ら自身の祖父母と曾祖父母であったことを学んだ。

仕事は1995年3月中旬に始まって、結果として、全校のプレゼンテーションである、すばらしいアーキテクチャの日 (Awesome Architecture Day) になって、学校の新しい建て増しの開設と同時に行った。親、管理者、招待されたゲスト、そして学校のすべての生徒などのグループが、アーキテクチャ・ユニット（建築単元）の諸相を展示し

た4つの部屋を見回った。最初には、彼らはプロジェクト ARTSの生徒たちによって実行された音楽、衣装、照明、小道具、そして、特別な効果を用いて完全に満たす Stinesville のヒストリーにおいての一連のピネットを見た。次には、聴衆が、早期の住民が彼ら自身に提供したかもしれない一種の娯楽である、フォークソングによって伴われてのスクエアダンスを見た。3番目は、生徒たちは創造的な動きのクラスをして、音楽の伴奏にしたがって、コラム、アーチ、屋根、そして扶壁の形を作った。最後は、視覚芸術の生徒が世界アーキテクチャとローカルの歴史的なランドマークに関する作品を提出した。それほど成功していたのは、この先導的プログラムの関係者たちがもう1年間の同じ気持ちで続けることを決めたことである。

継続する研究 - STINESVILLE、ストーン（石）で築いた町

1995-96のスケジュールと一緒に設計する教師が三人を含んだ前の年から新たに雇われた一人の音楽教師を足した。教師が地区の有能なコーディネータ、そしてプロジェクト芸術 (Project ARTS) のサイトの部長としての私と公式に会ったのほかに、彼らも学校の勤務時間の前と後に、あるいは一緒に食事するランチタイムの間においての非公式の集会の機会を見いだした。我々は人間関係と共同体作りのためのパワフルな道具は、非制度的状態においてのチームメンバーの家で食事の間の社交的にするような非公式のミーティングであったことを発見した。

locally devised measuresで17人の5年生クラスの生徒たちが学業、芸術、音楽で潜在的才能（特殊才能）があると判断された。独立した、精力的な、高い能力の学習者である、このグループの中には、いくらかの競争的な、非協力的な、そして少々攻撃的な行動の経歴を持っているメンバーを含んだ。1995年9月に始めて、興味と関心を共にすることを通じて、毎週1時間をグループの社交術を作るにささげた。生徒たちがこの時間に丁重な規則を確立して、果たして、学校の他の状態まで持ち越した。集中的な歴史の研究が進行中であった時まで、グループはすでに彼ら自身の間で言い争うのをやめていた、そして教師が成長している結合力と協力を気づき始めた。

Stinesville の歴史の調査がそのオリジナルのアメリカ先住民の (Native American) 住民から始まった。一人の地元のショーニー族 (Shawnee) の作家と歴史家の丸太の小屋への訪問がこの年の活動を開いた；生徒たちも地域的に利用可能な植物から自然の染料を作った。

生徒たちが彼ら自身の山 dulcimers（ダルシーマ、ある種の楽器）の作りとプレーを学んだときに、音楽と芸術活動が部分的に一致した。一人の学校の緊急状態の専門家である、早期の音楽の熱狂者は、ボランティアとして、ダルシーマ指導して、そして地元の道具作り手を訪問したときにこのグループに伴って、。

一つの地元の歴史家の夫妻チームが、町の徒歩のツアーで学生をリードして、Stinesville 商業の建物の建築の特徴を調査して、古い駅のサイトを発見して、そして、鉄道線路ベッドに沿って捨てられた石灰岩採石場へいく前に、荒廃された製粉所の廃墟

を解釈した。生徒たちが、かつてそこに雇用された、彼らの祖父母によって採石場壁の中に刻まれた落書きを追跡して、そして休憩室と採石と製粉装置に電力を供給した蒸気ボイラーの煙突を調べた。静かな秋の森に立って、彼らはかつて彼らの谷を満たした、蒸気ホイッスル、ハンマー、そして切断機械の騒音を想像しようとした。

伝統的なキルトパターンを勉強することから、視覚芸術の生徒たちが生地型板で幾何的な模様を作り出して、太陽写真プロセスを通して布にローカルな光景の図画を転写し、そしてコンピュータによって生成されたテキストを加えた。これらを一緒に縫いて、一つのStinesville「物語キルト」を作る。外へ見ることについてのプロセスの間に、Stinesvilleの生徒と教師の共同体は、彼らの町と郡でこれまで広くなる接続を作った。

1996年の春の二学期の間に、生徒、教師、補佐教師、そして、興味を持った共同体メンバーが、これらすべての仕事を一つにするように推進し始め、Monroc郡の歴史博物館(Monroc County Historical Museum)で一つの筋が通った公演と芸術展覧会を実行しようとした。前の年に集められた研究をもとにして、一つの学生委員会がスクリプトを書き始めた、部分が割り当てられた、そしてもっと多くの研究がついていった。

一つの歴史家、町の年長者と退職した学校教師のパネルが、彼らの人物の特質についての正確なインフォメーションを提出することを切望している生徒によってインタビューされた。個人的な芸術工芸品がセッションを豊かにした。パネルメンバーが年の残りを通して生徒たちの進歩に従った。一人の4年生クラス教師は、生徒たちにダンス定期課程の振り付けを手伝おうと申し出て、昼食時間と休会期間に働いた。

生徒たちが、地域の石灰岩フォーメーションについて、インディアナ大学(Indiana University)で地質学の授業(Department of Geology)のインフォメーションを調べた。郡の歴史の博物館との交際が学校で大きいショーウインドーの配置をもたらした。

最初の展示は、全校のために入手可能である、Stinesvilleの経済の石灰岩土台を形成する、ウミユリ綱動物、腕足動物、そして、他の古生代の海の生物の化石を含んだものである。

芸術ショーとプログラムが提出された時までに、3人の教師のオリジナルのグループは、すでに膨張して、歴史博物館スタッフと同様に、新加入の教師、親、歴史家、そして、共同体メンバーを含んでいた。プログラムはStinesvilleに名付けた、このストーン(Stone)で築いた町は、ショーニー族(Shawnee)のTecumsehチーフ、ウィリアム・ヘンリー・ハリソン将軍(Gen. William Henry Harrison)、町創設者Eusebius Stine(Eusebius Stine)、測量技師ジョン・J・Poynter(John J. Poynter)、「大きいデイブ(Dave)」バンBuskirt(陸軍組合(Union Army)での一番背が高い男)、そして67年の間、続いててStinesvilleで教えたジェーンStaley叔母(Aunt Jane Staley)を呼び物にした。dulcimer上の民族メロディーが、フランスの、そしてスコットランドのアイランド人(Scotch-Irish)の移住者の到着を知らせた。ウミユリ綱動物、腕足動物が踊って、採石場労働者が休憩をとって、そして製粉所でのカッターを「ほこりを食べ、ほこりを吸い、ほこりで暮らし」と同情した。プログラムはStinesvilleの石灰岩から作られた、多くの国の記念碑と建物のリストで終わった。最後に、17人の生

徒が腕をつないで、「Stinesville はまだ石が築いた町である、そして我々もそうである。我々は90年代の採石場の若者 (Quarry Lads) と少女である。」と誇らしげに宣言した、

結論

プロジェクト芸術 (Project ARTS) における仕事は、芸術のその共同の創造が、生徒に、対話練習、協力、コミュニケーション、そして、対立決議技能のために内省的方法を用いる機会を与えることを証明とした。Stinesville 小学校においての全体の生徒たちとの多数の接触で、プロジェクト芸術 (Project ARTS) においての生徒が全校をカバーするために彼らの共同体を拡大した。

外へ見るプロセスの間に、Stinesville の生徒と教師の共同体は、彼らの町と郡と非常に広く接続を作った。このようにして、生徒たちは、ローカルな環境に接続し、そして彼らの仕事はより広範囲の社会のため、すなわち、保存、コミュニケーション、そして、共同体歴史の意識に関連づけられた。生徒たちが、探偵と猟師・収集者のそれらを含んで、多くの役割に取り掛かった。結局、彼らが Stinesville 共同体の他のメンバーに彼らの新たに発見された町の誇りを伝達したとき、彼らも社会活動家役割を行ない始めた。

Stinesville の生徒たちに対する積極的な効果が容易に外見上明らかであった間に、驚きが彼らの仕事が大衆に紹介された後に来た。年長の地域共同体メンバーが、彼らの物語を光栄に見て、満足感で微笑した。何人かが、5年生クラス生徒がスピーチとドレスで不思議な正確さで彼女の自分の祖母を描くのを見るときに、それは彼らの旧友が生命に戻ったかのように、ある妙な感じを報告した。若い親たちが、彼らは完全に彼らの暮らしている町の歴史をミスしていたということに驚嘆した。アンコール公演が次の夏の共同体祝典において求められた。

教師は同様に重要なレッスンを学んだ。美術教師は「もし私がこの辺りに変更をすることを望むなら、私は単独でそれをする事ができない」と結論を下ろした。新しいプログラムは、チームアプローチの上に依存している教育の改革で、人員変更の結果にそれほど傷つかれやすくない。Stinesville の経験も、芸術カリキュラムにおいてのローカルな文化に焦点を合わせることに決めるような見た限りで小さい決定の影響をハイライトする。池の中に投げ入れられた小石のように、この決定の効果は、外へ地域共同体にさざ波を立てて、そして次に、内へ学校共同体に再び反映し戻って、人と人とのつながりと人間関係の常に変わるパターンを作っていて、関係しているすべての人を豊かにした。

資料4-1 事例1

対象	林保堯さん 男 国立芸術学院教授兼伝統芸術研究センター主任
日時	1997年7月30日
方法	電話インタビュー
内容	<p>――台湾では、現在の段階における郷土美術教育の研究は、どれほど進んでいますか。</p> <p>台湾郷土美術教育の研究は、国立芸術学院伝統芸術研究センターの主な業務の一つです。現在、私は、伝統芸術研究センター主任を兼任しているので、教育部が出版した『国民中小学郷土補助教材大綱専案研究報告』の郷土芸術を、研究センターのスタッフたちと一緒に、資料を収集、整理、分析しています。</p> <p>私は、この研究の経緯を詳しく知っています。あなたも是非、研究センターに来て下さい。この研究の経緯について、現在進めている状況を説明し、また、重要な関連資料も差し上げます。</p> <p>――いつお伺いしたらよろしいでしょうか。</p> <p>来週の月曜日、8月4日にスタッフが来ます。私はそのとき会議があつて、二、三日いませんが、先ず、スタッフたちと話してみて、木曜日、金曜日位にまた会う時間を作りましょう。</p>

資料4-2 事例2

対象	台湾省立美術館インフォメーション業務担当 女
日時	1997年8月1日
場所	台湾省立美術館
方法	インタビュー
内容	<p>――貴館では、台湾郷土美術に関する展覧会が、最近、行われていますか。</p> <p>本館では、現在は、いくつかの台湾郷土美術に関する展覧会を行われています。台湾の先輩画家の展覧会としては、顔水龍さんの95歳回顧展と呉梅嶺の102歳回顧展です。そのほか、台湾の原住民伝統工芸展もあります。この工芸展は、展示だけでなく、原住民工芸に関する講演やワークショップや原住民の歌、踊りの公演も行います。時間がございましたら、是非ご覧ください。</p>
収集資料	『台湾省立美術館案内』、『台湾省立美術館通信108号』 (Taiwan Museum of Art Newsletter)、 「顔水龍九五回顧展」パンフレット

資料4-3 事例3

対象	陳奕禮 さん 男 国立芸術学院伝統芸術研究センター研究員
日時	1997年8月4日
場所	国立芸術学院伝統芸術研究センター事務室
方法	インタビュー
内容	<p>――貴センターの主な仕事は何ですか。</p> <p>台湾伝統芸術の研究は、本学の理念の一つと考えられます。それに従って、台湾伝統芸術研究科と伝統芸術研究センターが設置されています。そして、伝統芸術研究中心の主な仕事は、台湾伝統芸術の収集、保存、研究です。</p> <p>――郷土教育が小学校から高校までの教育課程で重視されていますが、貴センターでは、学校の台湾郷土美術教育に役立つ、具体的な研究成果がありますか。</p> <p>具体的な例が幾つが挙げられます。まず、教育部が出版した『国民中小学郷土補助教材大綱専案研究報告』での「芸術篇」です。そして、最近、東華書局に頼まれて書いた『台湾伝統美術工芸』です。この本は、野外調査 (fieldwork) の方法で、一つ一つの実例を詳しく調べて整理し、まとめたもので、指導要領の台湾郷土美術の内容を写真や、図表で視覚化した参考書とも言えます。</p> <p>そのほか、台北市政府に頼まれて、中学校の『郷土芸術活動』二版の審査も行っています。</p> <p>――小学校では、この一年間の郷土教育の実践状況はどうですか。</p> <p>学校と接する機会はあまりないので、何も言えませんが、民間の動きを見ると、大変積極的に進んでいるような気がします。具体的な例を言えば、社会の各領域の人たちによる各地方の「文化歴史研究団体」（「地方文史工作室」）がたくさん設立されました。彼らが、地方の学校の郷土教育にも貢献していると見ることができます。このことは、彼らの多くは、自主的に地方の文化保存や環境保護の視点から、学校教育や社会教育と一緒に取り組んでいます。</p> <p>行政院文化建設委員会も、民間のこれらの「文化歴史研究団体」を対象として、基本的な研修計画をたて、研修課程を開きました。台原芸術文化基金が出版した『地方の文化歴史研究団体の基礎研習計画活動成果 編』（『地方文史工作社団基礎工作研習計画活動成果彙編』）は、これについて詳しく掲載しています。</p> <p>もう一つの動きは、積極的に進めている各地方の「町づくり」（社区総体營造）と考えられます。「町づくり」の理念に沿って、全台湾の各地方は、様々な試みをしています。その大きな目的の一つは、「産業の文化化・文化の産業化」（「産業文化化・文化産業化」）という「産業振興」のことで、す。「町づくり」の具体計画を提出すると、国からの補助がもらえるため、各地方は、自分の地方の特色や産業振興の具対策を真面目に考え始めました。</p> <p>各地方が、前述の「地方の文化歴史研究団体」のような民間団体と協力して出版した地方の歴史や文化、資源保護などの本はよく見られます。また、郷土芸術、郷土産業の人材の育成にも計画をたてて、実行に向かっています。このような動きも学校教育と深く関わっています。</p> <p>そして、郷土美術の推進に重要な影響を与えているのは、国立伝統芸術センターの設立です。これは、台湾の伝統芸術を保存するための、国の具対策の一つと考えられます。この機関が、リーダー・シップをとって、理論と実践の研究を通し、これからの台湾の郷土芸術を保存し、発展させていくと思われれます。</p>
収集資料	『伝統芸術学術シンポジウム論文集』、『伝統芸術シンポジウム論文集』

資料4-4 事例4

対象	湯志民さん 男 台北市政府教育局第二科（中学校・高校教育）科長 曾燦金さん 男 台北市政府教育局第三科（小学校教育）科長
日時	1997年8月5日
場所	台北都庁（台北市政府）教育局
方法	インタビュー
内容	<p>1. 湯志民さんへのインタビュー</p> <p>――この一年間、台北市の郷土教育の実施状況はどうか。</p> <p>私の担当は中学校と高等学校の教育の部分です。中学校の新しい課程の実施は今年の9月からのこと、高校の新しい課程の実施は来年の9月からで、現在はまだ両方とも準備の段階だと言えます。しかし、学校によって、様々な形で試めしを行っているということをよく聞きます。例えば、夏休みの体験学習や学校の課外活動の時間を利用して、郷土学習課程を企画し、実施するなどのことが行われています。</p> <p>台北市の郷土教育の実施については、その過不足を避けることを考えて、台北のこれまでの伝統、現在と未来という三つのポイントに視点を置かなければなりません。この狙いも既に各学校に伝えられています。</p> <p>――教材の編集については、どのように進めていますか。</p> <p>郷土教材の編成は、原則としては、各学校に任せて編集していますが、編集の参考として、台北市政府が、いくつかの学校や団体の協力を得て何冊かの本を出しました。一番新しいのは、龍山中学校蘇校長らが編集した『悠遊台北』です。これは中学校向けのもですが、高校の場合は、復興高校の陳校長に任せたのですが、現在は建国高校に移っています。</p> <p>――郷土美術の参考教材も出版されましたか。</p> <p>郷土美術の参考教材としては、西松高校の林校長らが編集した『郷土芸術活動』という本がありましたが、現在修正して、審査を受けています。もし、必要でしたら、直接、林校長に電話するといろいろ教えてもらえると思います。</p> <p>2. 曾燦金さんへのインタビュー</p> <p>――この一年間の台北市の小学校での郷土教育の実施状況を教えていただけませんか。</p> <p>新しい課程の実施は、確かに去年から始まりましたが、「郷土教学活動」教科は三年生からのものですので、来年の9月に全面的に実施することになります。しかし、現在は、既に正式に学校の各学年の授業に取り入れている学校も少なくはなく、大体ですが、三分の二位の学校で行われています。まだ様子を見て検討している学校もあります。</p> <p>――教材の編集については、どのように進めていますか。</p> <p>台北市の郷土教材の編集は二つの方向で進めています。一つは、本局が学校に頼んで作ったものです。もう一つは、学校側が自主的に編集したものです。</p> <p>本局が作った小学生向けの郷土学習の参考教材には、古いものがありますが、現在、新しい指導要領に基づいての教材編集も進められています。その中の歴史教材『山水台北』と地理教材『故郷台北』は、もう発行されています。その内容の範囲は、台北市全般ですが、学校側が作った教材内容についての範囲は各行政区を主とするものです。本局は、郷土教材の編集や「郷土教学活動」授業に興味のある学校に特別の経費で補助する制度を設けています。そして、去年（1996年）の9月に、台北市の各小学校が作った郷土教材のリスト『台北郷土教学資料索引』が出版されました。これは、各学校各自の郷土教材作りの参考に大変役立つと思います。</p> <p>また、いくつかの学校が、言語や歴史や、地理や、自然や、芸術の郷土教学資源センターを設立していて、ほかの学校に様々な援助を提供することができます。</p> <p>――郷土美術の参考教材も出版されましたか。</p> <p>郷土美術の参考教材の編集はまだ準備の段階にあります。早ければ、来年も出版できると思います。</p> <p>――「郷土教学活動」は、全く新しい教科と考えられますが、教師たちにとって不安を与えるものではありませんか。</p> <p>確かにそうです。教師たちの不安を解消するために、教員研修センターや、師範学院や、各学校が「郷土教学活動」の研修課程を開設しています。また、最近、教員研修に関する一つの新しい制度が導入されました。それは、教師の研修時間数が毎年18時間以上に達しなければならないということです。この規定によって、教師たちが、「郷土教学活動」の研修に積極的に参加する様子が見られるようになりました。</p>
収集資料	『台北郷情シリーズ中学校篇1 私が好きな台北』（『台北郷情叢書國中篇1 台北我喜歡』）、『台北郷情シリーズ中学校篇2 台北をのんびりに遊ぶ』（『台北郷情叢書國中篇2 悠遊台北』）、『台北郷情シリーズ小学校篇1 私は台北に住んでいる』（『台北郷情叢書國小篇1 我家在台北』）、『台北郷情シリーズ小学校2 台北の物語』（『台北郷情叢書國小篇2 台北的故事』）、『台北郷情叢書國小篇3 飛躍的台北』、『故郷台北台北市国民小学郷土補充教材－歴史篇』、『山水台北 台北市国民小学郷土補充教材－地理篇』、『台北郷土教学資料索引』、『台北郷情叢書國中篇2 悠遊台北』のビデオ

資料4-5 事例5

対象	余淑宜 女 台北市政府民政局第三科科长 台北市政府民政局第三科「台北市古蹟巡礼」の業務担当
日時	1997年8月5日
場所	台北都庁（台北市政府）民政局
方法	インタビュー
内容	<p>——貴局には、台北市の郷土美術学習に大変意義のある活動、「台北市古蹟巡礼」をまだ続けて行っておられますか。</p> <p>（余）はい、行っていますが、やり方は前と少し違います。今、この業務の担当者？さんが、「台北市古蹟巡礼」の現在の進め方について、詳しく説明します。</p> <p>（業）以前の「台北市古蹟巡礼」は、大型バスを利用して、大学の教授や、専門家が担当をする、解説員が添乗して、コースに含まれている各古蹟を見学する形で行っていたので、参加費がかかりました。そこで、1995年の12月からは、毎週の土曜日の午後2時から4時までと日曜日の午前中9時から12時まで、午後の2時から4時までの間に、龍山寺、保安宮、孔子廟に於て、ボランティアの解説員が無料の解説サービスをするようになりました。興味のある市民が直接現場へ行って、親切な解説を聞きながら、楽しい古蹟巡礼ができます。</p> <p>——口頭で説明のほかに、「台北市古蹟巡礼」に関する本や、資料は発行されていますか。</p> <p>（業）はい、様々にあります。『解説員講習の手引き』（『台北市古蹟解説員工作手冊』）、小中学生向けのワーク・シート『古蹟逍遙遊』、『台北市古蹟のハンドブック』（『台北市古蹟簡介』）、『台北市孔廟』、日本語で書いた『台北市の古蹟』、『台北市孔廟』などがあります。</p>
収集資料	『解説員講習の手引き』（『台北市古蹟解説員工作手冊』）、『古蹟逍遙遊』、『台北市古蹟のハンドブック』（『台北市古蹟簡介』）、『芝山岩文化史蹟公園—史前文化、人文歴史、視覚景観等資源の調査及び住民資源の育つ』（『芝山岩文化史蹟公園—史前文化、人文歴史、視覚景観等資源調査及居民資源之培育』）、『芝山岩文化史—植物、動物、地質等資源の調査』（『芝山岩文化史—植物、動物、地質等資源調査』）、『台北市孔廟』、『台北市の古蹟』、『台北市孔廟』（日本語）

資料4-6 事例6

対象	呉隆栄さん 男 台北市立福林小学校の校長
日時	1997年8月5日
場所	台北市立福林小学校の校長室
方法	インタビュー
内容	<p>――貴校は郷土教育をどのように授業に取り入れていますか。</p> <p>本校では、「郷土教学活動」は中高学年の時間割にまだ取り入れられていませんが、各学年の教師が、よく週末の半日の授業時間を利用して、親たちと一緒に近くの名所や旧跡や自然生態の見学コースを企画し、子どもたちを連れて様々な体験学習をします。</p> <p>また、校内にも「学習歩道」を設置しました。これは、子どもたちに彼等が毎日暮らしている学校の環境を認識させるために作ったものです。</p> <p>――校長先生は美術教育の専門でよく知られていますね。新しい指導要領の「美勞」（日本の図画工作に相当する教科）と「郷土教学活動」は、郷土美術教材の取り入れが両方とも強調されています。このことから実際の授業に題材の重複をどのように避けるかについて、ご意見を聞かせてくださいませんか。</p> <p>新しい年度の始まりに教師たちは、皆、年間計画を提出します。そのときに教務担当の人が、その全部の年間計画を一つ一つ見ます。もし何か問題があったら、本人に言います。経験のある教師はたいてい事前に話し合います。だから、重複の可能性は非常に少ないと思います。</p> <p>これは、（本を差し出して・・・）画家の楊三郎の美術生涯に関する研究報告です。その中でも台湾の美術発展が述べられています。台湾の郷土美術の認識に役立つ本ですよ。</p>
収集資料	『楊三郎繪画芸術之研究—楊三郎的繪画生涯及其在台湾美術發展中的地位』

資料4-7 事例7

対象	簡志雄さん 男 台北市立民族小学校の校長
日時	1997年8月8日
場所	台北市立民族小学校の校長室
方法	インタビュー
内容	<p>――校長先生が、「郷土美術」と「伝統美術」の定義について、お考えを聞かせていただけませんかでしょうか。</p> <p>「伝統美術」の範囲は中国の伝統的なものが含まれています。「郷土美術」の場合は、地域性が重視されると思います。例えば、台北の「郷土美術」と新竹の「郷土美術」は、その内容はほとんど違うと考えられます。一つの例えを話します。日本美術が中国美術の影響を受けて形成されたものであるは周知のことと思われます。日本美術は中国美術ではありません。東南アジア諸国の美術も中国美術の要素を含んでいますが、中国美術と同じは言えません。つまり、それぞれの風土と融和してできた美術は「郷土美術」と考えられます。</p> <p>――では、貴校の美術教育学級のカリキュラムには、台湾の郷土美術教材を取り入れていますか。</p> <p>部分的に取り入れています。例えば、彫塑の授業に原住民の彫刻や、陶芸教材を取り入れること、凧作りのような新しい教材の開発などがあります。また、普通学級の授業においても郷土美術教材を取り入れています。</p> <p>本校の郷土美術学習の実施において、野外研修コースがよく行われます。二つの特色がある、具体的な例をご紹介します。一つは、今年（1997）の1月31日から2月4日にかけての5日間に、本校が台北市教育局に依頼され、高雄県の二つの小学校の子ども70名と教師10名を招いて、台北の郷土美術を通じた交流活動を行いました。お客さんの多くは原住民の子どもです。活動の内容は、ワークショップ「磁杯の彩飾」（素焼きの磁杯に装飾すること）と故宮博物院、台北美術館、中正記念堂、中影文化城、三峡祖師廟（伝統建築で有名な建物）、鶯歌（台湾の陶器の故郷）、航空科学館、動物園、台北遊園地等の見学です。</p> <p>もう一つは、同じ台北市教育局に依頼され、先月の3日、4日、5日の三日間に行われた「小学校の小さな美術研修コース」です。この活動は、台湾中南部の代表的な郷土美術の里を基におき企画されたものです。内容は、台湾省立美術館の見学、台湾映画文化城の見学、水里蛇窯の見学と焼物作り、民俗芸術の「天灯」作り（昔の平溪という地方には、祭りの日の夜に手作りの様々な形の灯籠を、熱気球の原理を用いて火をつけて空を飛ばして、住民の平安を祈る伝統芸術である。）、台湾手工業研究所の見学、日月潭原住民の美術工芸の現地調査と収集した資料を活用して、造形活動を考える、キャンプファイア等が含まれています。参加した子どもが200名近くいたので、教師も21名同伴しました。</p> <p>それぞれの経過から見て、このような体験活動は、郷土美術学習の新しい道を開いたと考えられます。</p> <p>――原住民美術工芸も郷土美術の重要な領域ですが、この方面の資料をご紹介いただけませんか。</p> <p>最近、教育部が、『中華民国原住民教育報告書』を出版したばかりです。本校はこの本の美術編集を担当したので、まだ手元にあります。1冊差し上げます、是非参考にしてください。国立教育資料館には、まとまった原住民教育に関する資料の展示が行われています。また、故宮博物院の近くには新しく作られた順益原住民博物館があります。原住民教育の実践は、台北市東新小学校がやっています。これらの機関を訪れたら、役立つ資料を手に入れられると思います。</p>
収集資料	『1997台北遊記―85学年度台北市接待高雄県国民小学城郷交流活動手冊』、『美勞科教学研討会活動手冊』、『台北市86学年度小学校の小さな美術研修コース手引き』、『中華民国原住民教育報告書』

資料4-8 事例8

対象	林保堯さん 男 国立芸術学院教授兼伝統芸術研究センター主任
日時	1997年8月8日
場所	先生の自宅
方法	インタビュー
内容	<p>――新しい指導要領には、郷土教育が大変重視されていますが、一時的なブームに終わる恐れがありますか。</p> <p>それはないと思います。実は、郷土教育が正式に教科として学校教育に取り入れるまで、長い時間がかかっています。私が帰国する以前に、文化人類学の学者たちが既に、文化の保存に関する研究を始めました。民国71年（1982）、政府も「文化資産保存法」を頒布し、文化保存の決意を打ち出しました。その中では、伝統芸術の保存が重要な一環とされています。このことがきっかけとなって、芸術学院大学院の伝統芸術研究科や、伝統芸術研究センターの設立に至りました。近年の具体的な動きとしては、約十年前に始まった教育部の「重要な民族芸術の伝承計画案」（重要民族芸術伝承計画案）にある内外周辺環境が、郷土教育の推進にとっても有利な条件を作り上げました。いくつかの例を挙げましょう。まず、地方の「文史工作室」（地方の歴史や、文化の発掘、保存、発展等に関わる仕事をする民間団体）がたくさん設立され、多くの教師も投入しています。そして、各地方の文化センターも郷土教育教材をたくさん作って、各学校に提供しています。また、地方政府も「町づくり」に様々な試みを行っています。今年（1997）の4月には、宜蘭で全国の町づくり博覧会が行われ、各地方の実践成果が展示されました。そして、近年における、国の芸術教育予算でも民間芸術に重がおかれています。また、これまでの実践に関する検討とこれからの政策の制定を着実にするために、この三年間に伝統芸術の保存に関わる三つの重要な会議が行われました。民国84年（1995）教育部が主催した「民族芸術伝承シンポジウム」（民族芸術伝承研討会）、民国85年（1996）行政院文化建設委員会が主催した「伝統芸術学術シンポジウム」（伝統芸術学術研討会）、民国86年（1997）国立伝統芸術センターが主催した「伝統芸術シンポジウム」（伝統芸術研討会）です。</p> <p>あなたもこれらの論文集から、大体の台湾伝統芸術の保存政策における発展経緯や、実施の実態を把握できると思います。</p> <p>伝統的なものに関する認識は、現在の学校教育において最も足りません。現代的なものはもう十分だと思っています。だから、私は、伝統的なものをどのように学校教育に取り込んで、発展していくかを精一杯考えています。しかし、様々な動きを見てきて、教師養成大学の一部の美術教育系は、郷土美術課程の取り入れに要する積極性が足りないと思われます。このことが、直接、第一線の現場の実践者、教師の郷土美術を教える能力に影響を及ぼしたと考えられます。</p> <p>台湾の伝統的なものは、台湾の歴史を辿ってみるとわかります。中国文化のほかにも原住民文化や、スペイン文化や、オランダ文化や、日本文化の影響を受けました。これらの文化を融和して生み出したものが台湾の独自の文化、つまり、伝統文化と考えられます。</p>
収集資料	『民族芸術伝承シンポジウム論文集』

<p>内容</p>	<p>――先生が関わっておられる仕事はほとんど伝統的なものですし、新しい指導要領の郷土美術の部分も伝統的なものしか示されていません。しかし、郷土美術が現代のものかをも取り入れる必要があると思う人もいます。この点について、先生はどう思われますか。</p> <p>伝統的なものに関する認識は、現在の学校教育において最も足りません。現代的なものはもう十分だと思います。だから、私は、伝統的なものをどのように学校教育に取り込んで、発展していくかを精一杯考えています。しかし、様々な動きを見てきて、教師養成大学の一部の美術教育系は、郷土美術課程の取り入れに要する積極性が足りないと思われます。このことが、直接、第一線の現場の実践者、教師の郷土美術を教える能力に影響を及ぼしたと考えられます。</p> <p>台湾の伝統的なものは、台湾の歴史を辿ってみるとわかります。中国文化のほかにも原住民文化や、スペイン文化や、オランダ文化や、日本文化の影響を受けました。これらの文化を融和して生み出したものが台湾の独自の文化、つまり、伝統文化と考えられます。</p>

資料4-9 事例9

対象	孫華翔さん 男 社区総体营造学会職員
日時	1997年8月8日
場所	社区総体营造学会事務所
方法	インタビュー
内容	<p>――最近、マスコミでよく見られる「町づくり」（社区総体营造）計画について、ご紹介いただけますか。</p> <p>この理念は、本学会の陳其南教授が、行政院の文化建設委員会に勤めていたときから続けて主張してきたものです。本当に申し訳ありませんですが、今日は、丁度陳先生は出張でいません。私が知っている限りをお話します。</p> <p>この計画の起源は二つがあると考えられます。一つは、日本の千葉大学の宮崎清教授と台湾省手工業研究所の研究協力関係ですのもう一つは、台湾大学の陳亮全教授が、日本の「町づくり」の実例を台湾に紹介したことです。</p> <p>ある会議で、李登輝総統が、現代社会におけるコミュニティーの重要な働きを話したことをきっかけに、行政院の文化建設委員会が、前述の二つの系統を統合して、1994年に具体的な「町づくり」（社区総体营造）計画を打ち出しました。「地方の産業と文化の質的向上」という目標を目指し、「産業の文化化、文化の産業化」等のスローガンに基づいて、各地方の村や、コミュニティーの活性化を多元的、全面的に展開し始めました。その推進に大変注目されているのは、民間団体の積極的、自主的な行動力です。勿論、公の機関、例えば環境保護署や、台湾省政府の社会民生系統の機関や、地方政府や、各地方の文化センター等の機関が各自の役割を考え出して互いに協力してやっていますが、民間団体や、地方の住民の協力を得なければ、うまくいかない、私は思います。</p> <p>もう一つ、強調しなければならないのは、この計画が、従来の多くの天下り的な政策とは違って、住民たちに真剣に自分たちのコミュニティーの発展に、自由な考える空間を与えさせたことです。</p> <p>――実践例をご紹介いただけますか。</p> <p>宜蘭県の場合は、地方政府が積極的に推進作業を展開しています。これは、当地の文化センターを通して、いくつのコミュニティーを選定し、企画機関や、顧問機関に依頼して、様々な作業を進めています。しかし、消極的な態度の地方政府もあります。その場合、その地方の民間団体は、地方政府の支持を得られないので、直接に文化建設委員会に支援を求めるケースもあります。</p> <p>去年（1995）の文化建設委員会の「文芸季」も従来のやり方を一転して、以前、よく大都会で行われた国際的な芸術活動を分散させ、「町づくり」を熱心に進めている地方に移して行いました。同時に、当地の文化や、観光資源や、産業などの特色をまとめた形で、観光客に見せました。今年の4月には宜蘭で、全国の「町づくり」博覧会が行われました。期間中に各地方のこの一年間の町づくりの成果や、日本、ドイツ、アメリカの町づくりの経験を各種のメディアを通じて展示しました（資料）。この活動は、各地方の経験交流の一つの重要な契機だったと思います。</p> <p>――この博覧会のまとまった資料はありますか。</p> <p>写真や、ビデオ、そして文献資料がたくさんありますが、今、整理している段階です。あなたの日本の住所を教えてくださいませんか、本ができましたら、すぐにお送りいたします。（資料は2ヵ月後の10月17日に送ってきた）</p>

資料4-10 事例10

対象	陳綠萍さん 女 台北市立雨農小学校校長 周芬芳さん 女 台北市立雨農小学校教務主任
日時	1997年8月9日
場所	台北市立雨農小学校校長室
方法	インタビュー
内容	<p>—先日教育局三科の曾科長を訪れましたときに、曾科長が貴校の郷土教育の実践を褒めておられました。貴校の郷土教育の発展経過について、ご紹介いただけませんか。</p> <p>(陳)本校の郷土教育は、新しい指導要領が公布された後、すぐに発足したものです。学校の近くに、豊かな歴史的、自然的資源に恵まれた「芝山岩」という山があります。仕事を推進するために、「芝山岩關懷グループ」や「主婦連盟」等環境保護の民間団体と台北市政府の「史蹟規画グループ」が、よく「芝山岩」に來ます。それらの会員の何人かは、本校の子どもの親です。だから、学校との関係は、更に密接になりました。</p> <p>本校の教師たちは、新しい指導要領が提示する郷土教育の目標に応じて、これらの環境資源を十分活用して、特色のある課程を開発しています。例えば、上述の団体や、親たちと協力して、子どもを「芝山岩」へ連れて行って、郷土学習活動の授業をしたり、「芝山岩關懷グループ」の方を招いて、校内で講演を行ったりしています。授業の形は、学級ごとにやるのか、あるいは同じ学年の幾つかの学級で共同にやるのかも、教師たちが、必要に応じて自由に選択します。</p> <p>先日も、「郷土教学活動」のビデオを制作するために、国立教育資料館が、本校に取材に来て、子どもたちの芝山岩での授業の様子を収録しました。</p> <p>—「郷土教学活動」を正式に中高学年の時間割に取り入れてありますか。</p> <p>(陳)はい、取り入れています。しかし、低学年もよく「芝山岩」へ行きます。</p> <p>—授業に使う教材は、どんな教材ですか。</p> <p>(陳)本校の教師たちが編集した一学年から六学年まで1冊ずつの生徒用『郷土教学学習ハンド・ブック 芝山岩を訪れる』と教師用指導書です。現在使われているのは第2版です。修正した第3版が既に印刷中です。このシリーズは、校外の方や、師範学院の学生もよく買いに來ます。</p> <p>—この教材の編集には、教育局の特別補助金を受けましたか。</p> <p>(陳)いいえ、完全に自主的に作ったものです。</p> <p>—教材の内容をご紹介いただけませんか。</p> <p>(周)『郷土教学学習手冊 拝訪芝山岩』は、各学年の子どもの発達に応じて編集したもので、その内容は、次のように構成されています。</p> <p>一、芝山岩全図及び学習ステップカード 二、引言 三、活動内容 1. 岩石地質景観の旅 2. 古い戦場を偲ぶ旅 3. 惠濟宮式典の旅 4. 滄海桑田を偲ぶ旅 5. 生物景観の追憶記 6. 遺址文物考古記 四、参考資料 五、成果発表 六、保護者と先生の評価</p> <p>この教材の使用は、特定の授業に限りません。全教科や課外活動にも用いられています。内容は、ほとんど「小雨」、「小農」この二人の著書に登場する仮想人物と鳥、石、木等を擬人化した人物らとの間の会話や、芝山岩に関する伝説・昔話です。教材は、これを学習シート等の形で書いたものです。</p> <p>—この教材の中に、郷土美術に関する学習内容は含まれていますか。</p> <p>(周)郷土美術教材は、各学年のハンド・ブックに取り入れられています。どうぞ、本を開けて下さい。この一学年用の本の21ページには、「スーパー探偵」という宝探しの題材が載っています。この遊びを通して、子どもたちが、惠濟宮の建物への認識に従って、台湾の道教建築に触れることができます。二学年用の本の6ページ「岩石地質景観の旅」單元には、「色鉛筆で好きな石の形をできるだけ多く描いてください」という郷土美術の写生題材も取り入れられています。</p> <p>—貴校のこれからの郷土教育については、どのように考えられますか。</p> <p>(陳)本校は、学区内のこのような豊かな資源をもっと活用していきたいと考えています。これからの郷土教育は、多様な方向へ発展していくと思います。地域の人々との連携を更に進めることも予想できます。</p>
収集資料	台北市立雨農小学校案内書、『郷土教学学習手冊 拝訪芝山岩』一年用～六年用

資料4-11 事例11

対象	<p>温明正さん 男 台北市立興華小学校校長 林洪煖さん 男 台北市立興華小学校教務主任 丘秀耕さん 女 台北市立興華小学校輔導主任</p>
日時	1997年8月11日
場所	台北市立興華小学校校長室
方法	インタビュー
内容	<p>――貴校の郷土教育の実施状況について、ご紹介いただけませんか。</p> <p>本校の発展の重点には、環境、郷土、コンピュータの三つが挙げられている。これらの領域は、互いに密接な関係を持っています。環境教育においては、本校は、台湾の小学校の中で初めて水土保持教室を設置する学校です。この施設は、農業委員会の補助金で作られたものです。</p> <p>ところで、郷土教育の実施は、校内と地域の二つに分けて考えられます。まず、校内の歩道に多くの生態環境に関する解説区を設置して、『校園歩道の学習指導活動設計』（『校園歩道教学活動設計』）のような教師用指導書も編集されました。そして、地域においては、本校が所属している文山区と隣の木柵区に幾つかの見学対象を選んで、学習指導内容を作りました。見学対象には、例えば、文山区の沿革、木柵の観光茶畑、景美溪の旅（悠遊景美溪）、台北動物園の旅等があります。教師たちが、これらの資料をまとめて、『郷土の情、隣りの愛―地域の学習指導』（『郷土情、隣り愛―社区歩道教学』）を編集しました。これらは野外学習の時間を利用して実施します。</p> <p>以上のように、環境教育と結び付いた環境教育の学習指導に関する具体的な資源が整備されつつあります。これらの資源を更に活用できるように、本校のコンピュータ設備を利用して、「地域と学校の交流園」（社区と学校の交流園）というホームページを作って、地域に環境教育、郷土教育の情報を提供しています。</p> <p>――実施前に、どのような準備をされましたか。</p> <p>本校は、新しい指導要領が公布される前に既に計画を立て、準備の段階に入りました。それは1990年のことでした。</p> <p>――現在、貴校の時間割はどんな形になっていますか。</p> <p>本校の時間割は、一学年から六学年まで全部新しい指導要領に沿って作られたものです。ですから、「郷土教学活動」も中高学年の時間表に入っています。</p> <p>――他の学校が作った「郷土教学活動」の参考文献や、教材集に関する情報は何かありますか。</p> <p>台北市教師研修センターの『郷土教材教法』、近くの景興小学校の『郷土教材研究專輯』、万芳小学校の『台北市文山区郷土教材彙編』、国語日報も郷土教育センターを設立して、郷土教学活の参考文献目録を作ったそうです。</p>
収集資料	<p>台北市立興華小学校案内、『校園歩道の学習指導活動設計』、『郷土の情、隣りの愛―地域の学習指導』、ホームページ「地域と学校の交流園」のプリント、郷土教育の学習指導の参考資料</p>

資料4-12 事例12

対象	蘇 萍さん 女 台北市立龍山中学校校長
日時	1997年8月11日
場所	台北市立龍山中学校校長室
方法	インタビュー
内容	<p>――先日、台北市教育局を訪れたときに、中学校の郷土教育テキストとビデオをもらいました。その中に、校長先生のお名前は、編集の責任者として載せられていました。そこで、お聞きいたしますが、この教材の編集について、困難が何かありましたか。</p> <p>この仕事は、編集グループにとって、経験したことのないものです。最初段階の資料収集や、取材対象の決定や、写真・図版の制作等から、最終段階の印刷や、ビデオ制作の品質の問題など、ほとんどチャレンジであると感じました。一番難しく感じたのは、空中からの写真を撮ることです。この部分は、同じ場所の昔と現在の様子を対照的に現わすために、角度の正確さが厳しく要求されました。だから、難しかったです。</p> <p>――中学校の新しい課程の実施は9月からです。郷土教育の実施について、各学校の反応はいかがですか。</p> <p>様々あります。熱心に進め始めた学校もありますし、様子を見てこれから考える学校もあります。また、中学校は小学校と違って、進学の問題に直面しなければなりません。これも郷土教育の実施に影響を与えます。うちの学校は、子どもを対象とした郷土学習活動を何回も行いました。例えば、田植えをしたり、野菜を植えたり、鶏、豚の飼育をしたり、食品加工をしたりする龍山夏休み農村体験キャンプや、台北市86学年度（1997）中学校夏キャンプ自然生態コース等があります。ここに、活動の写真や、子どもの研究報告や、感想文がいっぱいありますが、まだ整理していません。どうぞ、ゆっくりご覧ください。</p> <p>――郷土美術コースはありませんか。</p> <p>あります。この地域の名所「植物園」の撮影のような郷土美術コースや、伝統手工芸コースなどがあります。</p> <p>――教師を対象とする研修コースは行われたことがありますか。</p> <p>いくつが行われました。例えば、東海岸（太平洋沿岸の宜蘭、花蓮、台東などの地方を指す）の郷土学習指導の研修コースや、台北市内と台北近郊を主にする台北市85学年度（1996）中学校教師郷土教育研修コース（資料 参照）等です。</p> <p>東海岸の郷土学習指導の研修コースの企画と実施は大変でした。東海岸のいくつの拠点の地形、考古学、歴史、生態等の状況を確実に把握するために、事前に、敦化中学校とほかの学校の先生何人を現地に派遣して、情報・資料を収集しました。企画担当の先生は、また、それらの資料を分析して、計画を立てました。展開されたコースもハードでした。参加の先生たちは、夜には教室で専門家や、大学の教授の授業を聞いて、昼間は、現地に行って調査や、実習をしました。専門家や、大学の教授方の指導への積極的な態度も、参加する先生方に深いイメージを与えたようです。</p> <p>子どもたち、あるいは教師たちを、専門家や、大学の教授方が熱心に指導する姿を見ることができるのは、郷土教育の研修活動において共通する現象の一つとも言えます。</p> <p>――もうすぐ後に展開される中学校郷土教育にとって、最も突破しにくい問題は何だと思われますか。</p> <p>勿論、進学問題は一つの障壁かもしれませんが、若し、最近によく言われる高校入試の取りやめが三年後に実現できたら、この問題は自然に解決されます。しかし、一つ真剣に考えるべき問題があります。それは、各学校に所属するコミュニティーの「実情」です。郷土教育の実施には、コミュニティーとの密接な関係が最も望まれています。しかし、現実には、コミュニティーの「実情」によって、その資源の提供を得られない学校もあります。</p> <p>郷土教育は、我々にとって本当に先例のないものですが、模索して行くうちに、きっと道が開かれていくと私は信じています。</p>
収集資料	台北市立龍山中学校の学校案内、龍山夏休み農村体験キャンプの手引き、台北市86学年度中学校夏キャンプ生態研修グループ手引き、台北市85学年度中学校教師郷土教育研修活動成果集（1）、（2）、『咀著打開心內的門窓』

資料4-13 事例13

対象	林石得さん 男 台北市立西松高等学校校長
日時	1997年8月12日
場所	台北市立西松高等学校校長室
方法	インタビュー
内容	<p>――先日、台北市教育局を訪れる際に、貴校が中学校の新しい教科「郷土芸術活動」の教科書を編集したと湯科長に聞きました。教科書を一冊いただけませんか。</p> <p>今は、ちょうど学校が引っ越し中です。「郷土芸術活動」の教科書はもう新しい校舎に持って行ってしまいました。すぐ向こうに電話してみましよう。・・・もう、用意できました。どうぞ、向こうで、私の助手が校長室で待っています。</p> <p>(何人ものお客さんが来ているので、予定のインタビューがうまくできなかった。)</p>
収集資料	「郷土芸術活動」教科書、『台北郷情叢書国中篇1 台北我喜欢』

資料4-14 事例14

対象	奈さん 男 台北県板橋市立実践小学校教務主任
日時	1997年8月12日
場所	台北県板橋市立実践小学校職員室
方法	インタビュー
内容	<p>――先日、校長先生と約束して、この時間にお邪魔させていただきましたが・・・</p> <p>大変失礼ですが、校長は、ちょうど外で会議があって、帰って来られません。私が、校長に代ってお話します。</p> <p>――貴校が台北県の小学校の「郷土教学活動」教材を編集していることを電話で聞きました。この教材を見せていただけませんか。</p> <p>どうぞ、ご覧ください。これはまだ印刷していない原稿です。若し、必要なら、コピーして差し上げます。</p> <p>この教材は、三年生用のものです。台北県の「郷土教学活動」教材は、教師用と生徒用を分けて編集しています。教師用教材の編集は、県下の九つの行政区が、それぞれ一つの行政区に一つの学校がその区の教材編集の業務を任される形で進めています。そして、全体のまとめ役は、本校が担当します。生徒用教材では、台北県の全ての地区に適用する共通の教材と各行政区や、各学校が自主的に開発する教材の二種類があります。本校が、前者の編集を担当しますが、予定では、四年間で3学年～6学年の教材を完成します。今年の主な仕事は、新年度の始まる前にこの教材を印刷して各学校に配ることです。</p> <p>――貴校が、この教材の内容をどのように決めましたか。</p> <p>その経過は、まず、いくつかの学校に頼み、何回も何回も授業実践を行わせてもらい、そして、教師の意見を聞き、子どもの反応を見て、洗練された内容になるように繰り返して修正を行い、やっと印刷の段階に入りました。</p> <p>――台北県の原住民人口は少なくないですね。原住民向けの教材の編集は、どの学校に任せましたか。</p> <p>原住民郷土教材の編集担当は、烏来小学校です。</p>
収集資料	台北県小学校「郷土教学活動」3学年用教材のコピー

資料4-15 事例15

対象	<p>洪さん 男 国立教育資料館教育資料室主任 徐さん 男 国立教育資料館推广室主任 鍾萬梅さん 男 国立教育資料館編纂 王秉倫さん 男 国立教育資料館視聴覚教育室編集</p>
日時	1997年8月13日
場所	国立教育資料館の教育資料展示センター、秘書室、教育資料室、推广室、視聴覚教育室
方法	展示資料の調べ、インタビュー
内容	<p>1. 展示資料の調べ 国立教育資料館には、中華民国教育資料展示センターが設置されている。その展示の内容は、総述、幼児教育、国民教育、高校教育、芸術教育、社会教育等の教育領域を幅広く含んでいる。そこでは、郷土教育と原住民教育の資料や、写真や、実物等も大きなスペースに展示されている。 そして、郷土教育コーナーには、今まで実施してきた郷土教育（注1参考）について、次のような問題点が挙げられている。 ①教師の知識と能力が足りない ②教育資源が足りない ③授業活動が活発になっていない ④全面的に推進していない ⑤地域との連携は充分でない ⑥質的向上に力が入られていない</p> <p>2. 洪さんへのインタビュー ー館長さんのご紹介で、洪主任の教育資料組にある郷土教育の文献資料を少しだけませんか。 この資料はほかの機関の出版物がほとんどです。余分があったら、差し上げます。今調べてみます。何か具体的な目的はありますか。 ー外の展示室に展示してある原住民教育資料、小学校（試用）原住民教科書と国民小学郷土教学活動に関する資料等をお願いできませんか。 原住民教科書は、本館には1冊ずつしかないで・・・。原住民の全国会議資料と原住民の教育法規だったら、余分があります。国民小学郷土教学活動に関する資料は、この『台北市国民小学郷土教学意見調査』は、館長の研究グループが書いたものですが、必要ですか。 ーはい、いただきます。</p> <p>3. 徐さんへのインタビュー ー新課程の郷土教育の推進について、徐主任のご意見を聞かせていただけませんか。 郷土教育が盛んに進められていることは見受けられますが、皆が具体的な方向や方法を掴んでいるとはまだ言えません。行政機関や、研究機関や、学校現場が出した郷土教育資料を見るとすぐに分かります。これらの資料の多くは重複しています。ですから、皆が経験したことのない郷土教育をどのように推進するかという点を明らかにするためには、もっとお互いの確実な連携が必要だと思えます。</p> <p>4. 鍾萬梅さんへのインタビュー ーもし、国立資料館へ郷土教育資料を調べるようなことがある場合は、是非、鍾さんにお会いしてくださいと、先日、民族小学校の簡校長に言われました。鍾さんは、長い間台北市教育局に勤めていたので、台北市の郷土教育の発展に大変詳しい方だと伺っています。 いいえ、仕事の関係で、少しだけなら知っていますが、けれどできる限りお話ししたいと思います。 ー台北市の郷土教育の推進は、新しい指導要領が公布されてからのことですか。 いいえ、もっと前からです。館長が台北市教育局に勤められた時に始まったと思います。この点について、『郷土教材教法』の4、5ページに詳しく書いてあります。台北市の中学校や、高校の郷土教育の実施は、ほかの地方より早かったのですが、やはり様々な原因で、効果をなかなか上げられなかったのです。 ー現在、郷土教育は、正式に各段階の学校教育課程に取り入れられましたが、実施至って何か問題はありますか。 中学校と高校の場合は、進学問題が、実施の最大の問題になると思います。</p> <p>5. 王秉倫さんへのインタビュー ー視聴覚教育室には、新しい課程での郷土教育に関する教材はありませんか。 これは、83年（1994）から現在まで、視聴覚教育組が制作して各小学校に配っている新課程の授業試用媒体の一覧表です。どうぞ、見てください。掛図や、大型写真、図表や、学習カードや、テープや、ビデオ等、様々な教材が含まれています。それぞれの使用の目的に応じて、「総論的紹介シリーズ」、「各教科の応用シリーズ」、「補充教材シリーズ」の3種類があります。 ーこの内容を見ると、新課程の「美勞」の視聴覚教材は作られていないようですね。では、郷土美術教材もありませんか。 「美勞」はありません。郷土美術教材は、郷土教学活動のビデオにあるかもしれません。郷土教学活動のビデオは、「概説」と「実施」の余分が、まだあります。後で差し上げます。原住民郷土文化教学ビデオの余分はないので、もし、必要なら、コピー料金が少しかかりますが、作ってあげますよ。</p>
収集資料	<p>『師資培育教学媒体目錄』、『台北市国民小学郷土教学意見調査』、『原住民教育法規 編』、『全国原住民教育会議実録』、『国民小学新課程郷土教学活動概説』（ビデオ）、『国民小学新課程郷土教学活動実施』（ビデオ） 購入資料：『台湾原住民郷土文化教学活動—大地鐘愛的子民』（ビデオ）</p>

資料4-16 事例16

対象	林保堯さん 男 国立芸術学院教授兼伝統芸術研究中心主任
日時	1997年8月13日
場所	先生の自宅
方法	インタビュー
内容	<p>――先日、いくつかの機関へ行って、郷土美術教育の推進に関わっている方々と話して、様々な問題を見つけました。その中で、先生の研究と深く関連している問題について、お伺いします。先生は、『国民中小学郷土補助教材大綱専門案研究報告』の郷土芸術部分を編集されました。この郷土芸術篇は、教育部が公布した新しい指導要領での中学校の「郷土芸術活動」と小学校の「郷土教学活動」の郷土芸術の部分の解説資料にあたると思います。若し、そうでしたら、この郷土芸術篇は一つの共通教材として、現場の教師の指導の重要な参考資料になります。しかし、現場の関係者といろいろに話した結果としましては、この資料はまだ具体的に把握されていないような気がします。この点について、ご意見をお聞かせいただけませんか。</p> <p>原則としては、中学校の「郷土芸術活動」や、小学校の「郷土教学活動」等の教科の全国通用の教科書は作りません。つまり、その教材の開発は、各地方や、各学校に任せます。この原則にしたがって、国民中小学郷土補助教材芸術篇のような資料の影響力が強くないのは当然なことです。しかし、個人の意見としては、我々の芸術教育の台湾伝統芸術に乖離している現象を直すために、やはり国民中小学郷土補助教材芸術篇の内容を現場の先生に認識させる必要があります。</p> <p>――もし、国民中小学郷土補助教材芸術篇のような資料が、現場の教師にうまく伝えられなかったら、それを作る目的も失われてしまいます。この資料を現場に伝えることは、学校側の自主的な教材開発と並行して進めて行けば、郷土芸術の学習指導にもっと有利ではありませんか。</p> <p>確かにそうですが、ただ、自分の力の不足をよく痛感します。</p> <p>――先日、東華書局へ行って、先生が書かれた『台湾の伝統美術工芸』を買いました。目を通して読んでいくつの感想を述べさせてくださいませんか。まず、この本の対象年齢は大体どれぐらいですか。文字はすべて振り仮名つきで書かれていて、言葉使いは小学生以上のレベルになっていることを感じました。</p> <p>この本の対象年齢は幅広く設定しました。子どもが親と一緒に読むことが望まれます。台湾の親たちも台湾の伝統美術工芸に関する認識や、関心が足りないと思います。</p> <p>――もう一つの感想は、もし、教育行政機関の郷土教育の特別経費補助を申し込んで、この本の内容をビデオに映像化して、一本のまとまった郷土美術教材として各学校に配れば、教師の指導にとってとても役立つと思います。また、当時の教育部が国民中小学郷土補助教材を作成する目的を達成するための一つの具対策としても考えられます。</p>

資料4-17 事例17

対象	袁汝儀さん 女 国立台北師範学院美勞教育学系主任
日時	1997年8月14日
場所	国立台北師範学院美勞教育学系主任室
方法	インタビュー
内容	<p>――貴系の課程には、小学校の新しい課程「郷土教学活動」と「美勞」に重視されている郷土美術の学習指導法について、どんな具体的な対応策を取り入れていますか。</p> <p>郷土美術の教授法のような教科は設立されていませんが、郷土美術の教材を各教科に取り入れて教えるのが、今の段階のやり方です。</p> <p>最近、本系の先生と学生たちが、郷土美術教育に関連する二つの活動をサポートしました。一つは、台北市立美術館が主催した「川端美術の夏キャンプ」（「河畔美術夏令營」）です。もう一つは、国立芸術学院の伝統芸術センターが主催した「灯籠・紙細工」の研修コースです。「川端美術の夏キャンプ」のような現代から出発して、過去を辿って、また現代に戻ってくる企画内容は、「灯籠・紙細工」の研修コースのやり方より適当だと私は思います。「灯籠・紙細工」の研修コースは、委託機関に伝統的な制作方法が強く要求されて、学習者の興味が引き出せなくなってしまって、学習効果の低下を招きました。</p> <p>――郷土美術教育の推進に対しての先生の主張を聞かせていただけませんか。</p> <p>郷土美術教育の推進においては、現代を捨てることは絶対ダメです。伝統美術の保存や、伝承の問題は、別の制度で解決すればよく、それは郷土美術教育の推進の主な目的ではないと私は思います。郷土美術教育の推進には、「現代」と言う土壌が欠けたら、芽が生えられません。その学習対象は、現代に生きている子どもたちではありませんか。彼らを日常生活から離れた時間と空間へ行かせて、普段に全然接していないものを興味深く学ばせるのは無理です。ですから、郷土美術教育がもっと広いスケールを持たなければ、推進には難しいです。</p> <p>しかし、ここで強調しなければならないのは、子どもが多元化社会に対面する際に、様々な情報をどのように選別するかの能力を身につけさせなければならないということについての親や、教師の認識です。</p> <p>ご存じと思いますが、新しい指導要領は、以前のような強制力が薄くなってきて、代わりに、地方や、学校側の自主的な力が強くなってきました。これも多元社会における共通な現象の一つです。郷土美術教育の推進にもこの点について配慮しなければならないと思います。</p>
収集資料	袁主任の論著である『オランダの視覚芸術教育と教師養成－西洋の一つの教育民族誌の案例研究』、「小学校の郷土美術教育を論じる」

資料4-18 事例18

対象	張書豹さん 男 行政院文化建設委員会第三科編審
日時	1997年8月14日
場所	行政院文化建設委員会第三科
方法	インタビュー
内容	<p>――貴科の林科長にインタビューしたいのですが、ちょうどお留守らしいですね。「町づくり」（社区総体营造）と郷土芸術の推進に関連する資料をどのように請求しますか。</p> <p>あなたは確かにどこかで見たことがあると思いましたが、今、あなたの名刺を見て思い出しました。前は国立芸術教育館で何回会ったことがあります。私は、最近向こうからここに転職してきたばかりです。どうぞ宜しくお願いします。</p> <p>――（筆者も張さんのことを思い出した）ここで会えて、とっても嬉しいです。</p> <p>「町づくり」の資料は二科にあります。あとで二科へ行って、担当の方におしゃられればもらえます。郷土芸術の資料はここにたくさんありますが、どの方面のものでよろしいですか。</p> <p>――原住民芸術を紹介する資料はありますか。</p> <p>これは、最近発行した原住民の童謡のビデオテープとカセットテープです。原住民文化を紹介する英語版の本もあります。お好きなものを選んでください。</p>
収集資料	<p>高雄市台湾山地文化研究会が制作した「布農族伝統童謡」、「魯凱族伝統童謡」のビデオテープとカセットテープ、『FORMOSAN ABORIGINAL CULTURE VILLAGE』、『「社区総体营造」と「生程学習」』、『「社区营造」シリーズ 社区建築と社区総体营造』、『「社区营造」シリーズ 社区が参加した巡回講演会』、『「社区营造」シリーズ 小型シンポジウム記録集』、『「社区营造」シリーズ 技術探究と制度に関する進言』、『花鼓で故郷の音を伝える』、『世紀の砂糖の恋』、『虹へ飛白鷺』、『三合院の風情』、『古い町大溪の風華』</p>

資料4-19 事例19

対象	王蓮擘さん 女 国立芸術教育館『美育』月刊総編集
日時	1997年8月14日
場所	国立芸術教育館中正芸廊職員室
方法	インタビュー
内容	<p>――貴館は、郷土美術の推進に関連する業務がありますか。</p> <p>本館の業務は、芸術の諸領域の作品や、文献資料の収集研究、展示、公演、出版等です。郷土美術の推進に関わるよく注目されている最近の動きは、各地方の「芸術センター」の設立に協力することです。本館が持っている様々な芸術資源を、各地方に提供し、各地方の「芸術センター」（社区芸術学苑）の設立計画と取り組んで、それぞれの特色に合わせて、プランをたて、目標を実現するまで協力してやっています。例えば、嘉義県東石郷船仔頭や、高雄県美濃鎮等地方で次々と設立されました。</p> <p>この業務のねらいは、本館の資源を地方で十分に活用して、地方の芸術活動の振興に実質的な協力を提供することです。勿論、従来の業務にも大変関わっています。丁度、私の手元にほかの機関が主催した社会人向けの郷土芸術研修コースの資料があります。ご参考になるかもしれません。</p> <p>――先日、民族小学校の校長先生に貴館が台湾の郷土芸術シリーズのビデオを制作したことを聞きました。見本を見せてくださいますか。</p> <p>それは、「動静皆美シリーズ」と「薪火相伝シリーズ」でしょう。「動静皆美シリーズ」は、「歌仔戯（台湾歌舞伎によく言われるの地方の伝統劇）の認識と鑑賞」と「布袋戯（台湾の伝統的な人形劇の一種）の認識と鑑賞」の2本セットです。「薪火相伝シリーズ」も2本で構成されるものです。その内容は、「民俗情1－草編、灯籠」と「民俗情2－捏麵人、風箏」です。前者は郷土演劇で、後者は郷土美術のように考えられると思われます。</p> <p>――もし、日本で国際文化交流の資料として使う場合のために、1セットいただけませんか。</p> <p>少々お待ちください。担当部門の方に聞いてみます。・・・・・・大変すみませんが、このビデオの配布対象は厳しく限定されています。でも、ほかの職員たち皆が1セット持っていますので、私のを差し上げます。このビデオが日本で活用される機会が与えられて、とても嬉しいです。</p>
収集資料	「動静皆美シリーズ」ビデオ、「薪火相伝シリーズ」ビデオ、「郷土芸術生活系列課程表」

資料4-20 事例20

対象	胡慧如さん 女 台北市立美術館館長の秘書
日時	1997年8月15日
場所	台北市立美術館秘書室
方法	インタビュー
内容	<p>――最近、学校教育では、郷土教育が盛んに進められています。郷土美術もその中の一環です。貴館では、この動きに関連する活動などが進められていますか。</p> <p>勿論、展示や出版などがありますが、学校教育のこの動きに最も関連しているのは、この夏休みに4回に分かれて行われる「川端美術の夏キャンプ」（「河畔美術夏令営」）です。もし、詳しく知りたいようなら、私が担当の人を呼んできて、一緒にお話ししましょう。（間もなく、担当の方がパンフレットを持ってきた。）</p> <p>――先程、胡さんの話を聞いて、この活動の内容に大変興味深いです。活動の内容についてご紹介いただけませんか。</p> <p>はい、この活動は夏休み中に4回行われます。参加対象は小学校3年生以上、中学生までの子どもです。1回の活動の募集人数は150名の予定で、五つの組に分かれて行動します。</p> <p>主な題材は、「モノレールを乗って基隆河を見る」、「基隆河の川端探検」、「基隆河の故郷巡礼」、「石炭の故郷山城―小汽車の山水の旅」で構成しています。本館のすぐ隣にある基隆河の源流から海に入るまでの景観、生態、美術家の故郷を現地に行ってみ学することや、それぞれの拠点で野外造形活動をするなどことです。4日コースの1日目の活動は、始業式、美術館ギャラリー・トーク、絵の中での山水、基隆河への認識、海に向かってモノレールで水に触れる旅です。2日目の活動は、基隆河の故郷巡礼、石炭の故郷山城―小汽車の山水の旅です。3日目の活動は、基隆河を描き、河畔芸術家になれ―野外造形活動です。4日目の活動は、最終回のコースの4日目に、各コースに参加した子どもたち全員が、本館の広場で集合して、先生たちや、スタッフたちと一緒に「美しい中元の盛大な宴席」を開くと同時に、彼らが書いたとても長い基隆河の絵巻もB05室で展示します。</p> <p>（筆者が美術館の入口で見つけたこの活動の新聞稿は、コースの4日目の「美しい中元の盛大な宴席」について、「この盛大な宴席は、台北市立美術館が推進している《現代芸術を生活化に》の始まりであり、民俗、宗教、生活、そして美術を融合し、市民大衆に芸術的、敬虔的に中元を過ごすような体験を与える一つの試みです。我々と一緒に美しい中元の宴席を開く夏の一日を過ごしませんか。当日に、台新銀行、カナダ駐台商務代表所、そして乖乖、味全、統一、金車、高岡屋等の食品会社の応援を得て、食品や、ドリンクをたくさん用意して、市民の皆さんのご来館を楽しみにお待ちしております。」と書いている。）</p>
収集資料	「河畔美術夏令営」の学習シート、募集要項、新聞稿、台北市立美術館案内

資料4-21 事例21

対象	候禎塘さん 男 台北市教師研修センター研究員兼研究組組長
日時	1997年8月15日
場所	台北市教師研修センター研究グループ
方法	インタビュー
内容	<p>――研修センターは、台北市の郷土教育の推進に関して、何か具体的な業務を進めていますか。</p> <p>具体的な業務の一つは、台北市の郷土教材の研究と本の出版です。郷土教育に関する本は、『郷土教材教法』、『郷土美勞』、『郷土舞踊』等があります。本センターが発行する『教師天地』隔月刊にも郷土教育に関する資料を掲載しています。そこでは、例えば、第78号郷土教育特集や、第77号での郷土音楽教育等のような資料が次々に紹介されています。もう一つの業務は、教師の郷土教育研修課程の企画と実行です。現在も「小学校新課程研修」4週間コースをやっています。19日から1週間の「小学中高学年の郷土教育研修」コースも始まります。</p> <p>――郷土美術に関する研修コースは多くありますか。</p> <p>最近の郷土美術研修コースは、先月の中旬頃に、終わったばかりです。この3年間の研修行事歴総表を差し上げます。この中に詳しく書かれていますので、ゆっくりご覧ください。</p> <p>――最近、いろいろ調べてきましたが、新しい指導要領に基づいて編集された郷土美術教材は、ほかの領域に比べて、ちょっと少ないような感じがします。貴センターには、郷土美術ビデオ等の制作企画はありませんか。</p> <p>確かにその通りです。しかし、今はまだないです。</p> <p>――原住民の美術工芸の資料を収集したいと思っていますが、何か具体的な方向を教えてくださいませんか。</p> <p>台北市政府の原住民委員会の汪秋一さんをご紹介します。汪さんは最近、本センターから台北市政府へ転勤していったばかりで、台北市内の原住民芸術活動をよく企画しています。</p>
収集資料	台北市教員研修センター案内書、八十四、八十五、八十六年度（1995、1996、1997） 台北市教員研修センター研修行事歴総表、『教師天地』隔月刊第77、78号

資料4-22 事例22

対象	陳錫祿さん 男 台湾省教師研修センター研究員
日時	1997年8月15日
場所	台湾省教師研修センター美勞組職員室
方法	インタビュー
内容	<p>――貴センターの、台湾の郷土美術に関する研修課程の実施状況をご紹介いただけますか。</p> <p>これは、819期と824期「美勞科郷土教材研修コースの日程表と関連資料です。どうぞ、ご覧ください。研修内容には、「郷土教学活動」課程の探究、郷土美術の理念と課程設計、地域文化とフィールドワーク、郷土教育文献資料の収集、台湾伝統建築の美、台北県板橋市の郷土教材「林家花園」の編集について、三峡祖師廟と文物館の現地考察、台湾本土画家のインタビューについてなどが含まれています。授業は、特別講義や、分科会、現地見学等の形で組み合わせた6日間のコースがあります。</p> <p>――参加対象と人数は。</p> <p>台湾省の小学校の先生が多くの割合を占めています。一つのクラスは約45名です。</p> <p>――貴美勞組の、郷土美術に関する具体的な業務を聞かせていただけますか。</p> <p>先程ご紹介いたしました「台湾の郷土美術に関する研修課程」の企画と実行や、郷土美術教材と学習指導法の研究開発等です。</p> <p>――先日、国立教育資料館で原住民各族の教科書を見ました。その教科書の中にも原住民美術工芸に関する記述が見られます。貴美勞組は、原住民美術工芸に関する研究も進められていますか。</p> <p>今の段階はまだありませんが、でも、その教科書は本センターの社会組が編集したもので、編集業務の担当は秦葆蓁先生です。ご紹介しましょう。</p>
収集資料	台湾省教師研修センター819期と824期「美勞科郷土教材研修コース」の日程表、『台湾省教師研修センター案内』、『台湾省教師研修センター課程研究及び教科書審査案内』

資料4-23 事例23

対象	李萬吉さん 男 台北市康和出版社社長
日時	1997年8月19日
場所	台北市康和出版社社長室
方法	インタビュー
内容	<p>――貴社は、学校の「美勞」、音楽、体育等の教科書の出版でよく知られていますが、ほかにもきっと様々な特色があると思いますが、ご紹介をいただけませんか。</p> <p>本社は、約十年前に戦後初めての小学校の「美勞」と体育教科書を出した、民間出版社です。現在は、小・中学校の教科書や、学習補助教材の出版のほか、中華民国教材研究発展学会による教材の研究開発や、『康橋教師研修雑誌』の発行もやっています。</p> <p>――私は新課程の郷土美術を研究していますので、貴社が出版された小学校「美勞」教科書と中学校の美術教科書は、私にとって、とっても重要な参考資料です。1セットずついただけませんか。</p> <p>教科書と教師用指導書を既に用意しております。どうぞ、お持ちください。</p> <p>(実際に持ってみると持ち上げられないほど重いので、社長さんに頼んで船便で送ってもらった。)</p>
収集資料	康和版の小学校の「美勞」教科書、中学校の美術教科書、教師用指導書、康軒文教事業パンフレット、康和・康鼎出版品目録

資料4-24 その他の事例1

対象	台北市重慶南路書店街
日時	1997年8月4日
方法	調査
内容	<p>※台湾書店： 旧指導要領に沿って作られた国立編訳館版小学校音楽教科書と新指導要領に沿って作られた南一版小学校音楽教科書の台湾郷土音楽の取り入れに関する調査 台湾の小学校で使われている旧指導要領の基準に沿って作られた国立編訳館版の8冊の音楽教科書と南一版（南一書局が出版したもの）小学校音楽教科書2冊を調べた結果としては、次のようなものが挙げられる。 三年生から使い始めるこの8冊の音楽教科書は、1冊が約25曲で編成されているもので、その出版年月はほとんど1996年（民国八五年）8月と1997年1月である。 以下は、台湾郷土音楽と中国の音楽が、一冊の教科書の中に、何曲ずつ取り入れられているのかを比較したものである。</p> <p>第1冊 1曲 台湾の客家民謡「我們要有新希望」⇔ 中国の民謡 2曲 第2冊 1曲 台湾の原住民歌「歓迎歌」⇔ 中国の民謡・童謡 2曲 第3冊 1曲 台湾の客家民謡「宝島台湾」⇔ 中国の民謡、古曲 2曲 第4冊 1曲 台湾の原住民歌「捕魚歌」⇔ 中国の民謡 1曲 第5冊 2曲 台湾の原住民歌「海洋歌」、「賞月舞」⇔ 中国の民謡4曲 第6冊 1曲 台湾の福 民謡「思想起」⇔ 中国の民謡 4曲 第7冊 0⇔ 中国の民謡・童謡 6曲 第8冊 4曲 台湾の原住民歌「粟祭」、「耕作歌」、「角板山」 台湾の福 民謡「耕農歌」⇔ 中国の民謡、古曲 4曲</p> <p>南一版小学校音楽教科書は、1996年8月からの台湾の新指導要領の実施に伴って発行したものであるため、現在までには3冊しか出版されていない。台湾書店では、第2冊が売り切れていたの、第1冊（一年前期に使うもの）と第3冊（二年前期に使うもの）しか購入できなかった。一年生から使い始めるこの音楽教科書は、1冊が約25曲で編成されており、その出版年月はほとんど1997年8月である。</p> <p>第1冊 10曲 台湾の福 民謡「豆花車倒担」等の6曲、台湾の客家民謡「春牛調」等の2曲、台湾の原住民歌「大家来唱歌」等の2曲 ⇔ 中国の民謡 1曲 第3冊 8曲 台湾の原住民歌「山上的孩子」等の3曲、台湾の福 民謡「白鷺」等の3曲、台湾の客家民謡「正月転外家」等の2曲 ⇔ 中国の民謡・童謡 4曲</p> <p>※東華書局： 東華書局は、教科書の出版でよく知られている長い歴史を持つ出版社である。その出版物の内容を見ると、高校、職業学校、専門学校、短期大学、普通大学の教科書が高い割合を占めているが、近年、児童・青少年向けの文学、芸術、世界名人伝、社会科学、歴史、分化史、心理学等の本も出版している。 その児童向けの出版物の中に、台湾の郷土教育に関する三つのシリーズの本が見られた。それは、合計10冊の台湾の年中行事の物語シリーズ（『節日故事』）と、合計4冊の『台湾生活日記』シリーズ、そして今年の1月に出版された合計6冊の台湾の郷土芸術を学習する百科書シリーズ（『学習郷土芸術百科』）である。 その郷土教学活動における郷土美術に関する本の出版状況について、ここで取り上げたいのは、鮮明な写真と詳細な解説で構成した百科書シリーズである。『台湾民間陣頭技芸』、『台湾伝統音楽』、『台湾伝統建築』、『台湾伝統美術工芸』、『台湾伝統戯曲』、『台湾原住民芸術』で構成されたこのシリーズは、新しい指導要領で示している台湾の郷土芸術の学習内容を、ほとんど含んでいる。出版の目的としては、このシリーズを通して、成長の過程にある子どもたちに自分たちが継承した社会と文化の変遷を分らせ、自分の郷土の良さや美しさを認めさせると同時に、個人の感性を高めることである。 その中の『台湾伝統美術工芸』については、次のように紹介されている。 「多様な郷土美術工芸は、民間の生活美術活動の成果であり、その多くは生活と密接に結び付いている用品や飾りものである。作るのはいずれも簡単だが、影響は深く広いため、民間美術と呼ばれる。 本書は、現存している台湾の伝統美術工芸を絵画、彫塑、工芸の三つに分類し、それぞれに応じて解説する。その起源、分布、伝承、技法を分らせるために、全て詳しい説明や図版・写真を用いた。読者たちは、この本を通して、民間美術工芸品が持っている想像的、創造的な生命力を直接に感じることができる。」</p>
購入資料	『台湾伝統美術工芸』

資料4-25 その他の事例2

対象	台北市重慶南路書店街にある本屋
日時	1997年8月9日
場所	東方出版社の販売部、芸術家出版社の展示場
方法	調査
内容	<p>台湾の郷土教育や郷土美術に関する本の出版状況</p> <p>※東方出版社： 東方出版社は長い歴史を持つ台北の有名な書店である。その一階に「台湾研究系列」というコーナーが新しく作られた。広いスペースを持っているこのコーナーでは、様々な台湾の郷土研究に関する本が並んでいる。これらの本を分類してみると、歴史、地理、文学、風俗、経済、総合等の種類が見られる。例を挙げれば、『台湾史料研究』、『台湾小史』等は歴史的なもの、『本土与世界』は地理的なもの、『台湾紀行』、『台湾文学宗旨』は文学的なもの、『台湾風物』、『台湾民族性百談』、『台湾風俗誌』等は風俗的なもの、『現代台湾経済論』は経済的なもの、『協和台湾叢刊』、『東台湾叢刊』、『生活台湾』、『稻田郷土叢書』等は総合的なものであると考えられるのか。</p> <p>特に注目しなければならないのは、これらの本の中に、ある程度の割合を占めている翻訳版の本は、植民地時代の日本の学者と現代の日本の学者の著作であるということである。例えば、1921年に台北で出版された片岡謙の『台湾風俗誌』、1930年に台北で出版された山根勇蔵の『台湾民族性百談』、1937年東京で出版された高橋亀吉の『現代台湾経済論』、1991年に出版された種村保三郎の『台湾小史』、1995年に出版された司馬遼太郎の『台湾紀行』等が見られる。以前、台湾の書店で見られた日本の出版物の多くは生活雑誌や経済・経営の専門書や文学作品等であったが、現在は、台湾研究に関する日本の古い著作が大量に発掘され、出版されている。出版の立場で見ると、これによって、新しい市場が開かれたということになる。しかし、読者の立場で考えると、台湾の若い世代に自分の郷土「台湾」を考えるとときにどんな示唆を与えられるのか理解することである。</p> <p>※芸術家出版社： 芸術家出版社は、台湾での美術図書専門の有名な出版社として知られ、台湾美術や、大陸美術や、世界美術や、絵画技法・美術教育や、美術論や、環境と芸術や、陶器・玉器や、民俗芸術や、宗教芸術や、デザインや、建築等様々な分野の本を出している。</p> <p>その台湾の郷土美術に関する文献資料は、月刊『芸術家』と美術専門書に掲載されている。当日に芸術家雑誌の美術編集李怡芳さんのご紹介により、会社の出版物の見本を調べた結果を、次のように二つの部分に分けて述べてみよう。</p> <p>まず、雑誌の部分を取り上げてみたい。月刊『芸術家』は1975年に創刊されて、現在まで既に270余号が発行された。初期の『芸術家』に掲載されている台湾の郷土美術に関する文献の例としては、第33号（1978年2月）「工芸の開拓特集」に載っている顔水龍の「私と台湾工芸」、芸術家雑誌編集委員会の「台湾の郷土を愛している不破章」等があった。中期の『芸術家』では、第140号（1987年1月）に載っている「板橋の林家の庭園」や、高業榮の「台湾の原始芸術を探る」や、第141号（1987年、2月）に載っている「近代台湾美術家研究」等があった。近年においては、第198号（1991年11月）に載っている「台湾初期の美術記事」や、第199号（1991年12月）の「日本の植民地時代における台湾の官展の発展と風格を探る」や、第200号（1992年1月）の「台湾美術特集」等があった。</p> <p>専門書の部分においては、まず、『台湾美術全集』を取り上げたい。台湾出身の画家や彫刻家を対象として編集された19冊の『台湾美術全集』シリーズは、芸術家出版社が、大変な力を入れてできたものであり、台湾の出版物評価の最高賞「金鼎獎」を得た本である。そのほかに、倪再沁の『芸術家⇄台湾美術』、謝里法の『台湾美術運動史』、莊伯和の『台湾民芸造型』と『民俗美術探訪録』、石光生の『皮影戲 張徳成芸術』、王耀庭の『木彫 李松林芸術』、林会承の『伝統建築手冊』があった。</p>

資料4-26 その他の事例3

対象	蘇振明さん 男 台北市立師範学院美勞教育学系助教授 夏期研修コースの学生（全て在職の教師）
科目	国民小学校の美勞授業設計
日時	1997年8月19日
場所	台北市立師範学院芸術館B04視聴覚教室
方法	授業参観
内容	<p>この授業は、在職教師の夏期研修課程にある「小学校の図画工作の学習指導案設計」（「国小美勞教学設計」）の授業で、台湾郷土美術の学習指導案についての発表時間である。午前中いっぱい授業時間があるが、私が自分の都合に合わせて聞いたのは1番目と2番目の発表である。</p> <p>担当教官である蘇振明先生の話によると、当日の発表は「台湾の郷土美術題材」を中心とするものであると分かった。1番で発表したのは宋淑珍と陳和元の「台湾の先輩画家顔水龍」を主とし、台湾の離島「蘭嶼」の原住民雅美族の美術工芸も含まれている学習指導案である。2番目の発表は、古文恵と蔡嘉恵が書いた台湾の伝統美術である「門神」の鑑賞と現代的な門神のデザイン制作が含まれている、台湾郷土美術の学習指導案であった。</p> <p>指導案の紙面構成は、美術鑑賞資料設計と制作表現の題材設計の二つに分けられている。美術鑑賞資料設計には、「芸術家の生涯」、「作品解説」（作品資料、作品名称、創作時期、作品の類別、作品の規格等）、「風格分析」、「創意的なギャラリー・トーク設計」の四つの部分が見られる。制作表現の題材設計には、「授業の準備」、「授業資料」、「授業目標」、「授業の展開」、「関連学習」の五つの部分が見られる。</p> <p>この二つの指導案を分析すると台湾郷土美術を題材として取り入れる点は注目されているが、授業の進め方は、「鑑賞を制作の導入手法」とする伝統的な学習指導に過ぎないものと考えられる。つまり、近年の鑑賞教育が強調している「鑑賞」を独立題材として授業に取り入れる理念は、この発表で用いられなかったのである。</p> <p>この授業参観は、8月14日国立台北師範学院の袁汝儀主任のインタビューで聞いた教師養成大学の教育課程が郷土教育の推進にどのように応じているかの一つの具体例として考えられる。</p>
収集資料	台湾郷土美術に関する学習指導案3部、「田園之春叢書」目録、 蘇先生の論著「郷土に回帰し、本土を呈する－台湾本土美術教育理念の探索」、『見て、おばーちゃんが絵を書いている』（『看！阿婆画図』）、『祭を見て、その行列を説く』（『看？会・説芸陣』）、『おじーちゃんの赤い煉瓦の家』（『阿公的紅甌？』）

資料4-27 台北市立美術館が主催した郷土美術夏キャンプ

河畔美術夏令營招生簡章

活動主題：結合文化、民俗、美術、環保、教育的河畔美術教室，是這次夏令營的教學特色，讓小朋友由基隆河的巡禮中，體會生活中的民俗節慶，觀察生活週遭的環境變化，並在動手創作的過程中發現創造的無窮樂趣。

主辦單位：台北市美術館

參加對象：國小三年級以上學生及國中生

活動方式：三天半的研習活動包括坐捷運看基隆河、基隆河畔探險、及基隆河故鄉巡禮、煤鄉山城—小火車山水之旅，採分組上課教學，每組30人，一梯次五組，共四梯次。

活動時間：第一梯次：7月22日、23日、24日、8月16日下午
 第二梯次：7月29日、30日、31日、8月16日下午
 第三梯次：8月05日、06日、07日、8月16日下午
 第四梯次：8月12日、13日、14日、8月16日下午

報名時間：7月5、6日（星期六、日）上午10：00～11：30；下午2：00～04：30
 現場報名、額滿為止

報名地點：台北市美術館大廳

洽詢電話：5957656轉推廣組

報名資料：1.代辦費2,000元（包括材料費、餐費、交通費、保險費…等）
 2.攜帶戶口名簿
 3.一寸半身照片2張

課程內容：

	第一天	第二天	第三天	第四天
08:30	報到	準時出發	報到	(8月16日)
09:00	始業式	基隆河故鄉巡禮	彩繪基隆河	08:30—12:00 曙裝打扮 (在家化妝)
09:30 09:50	認識美術館			
10:00 12:00	美術館導覽 —畫中的山水			
12:00	午休	午休	午休	13:30 報到
12:50 14:20	認識基隆河	煤鄉山城 —小火車山水之旅	河畔藝術家 —戶外造型活動	14:00—16:30 水咚咚的中元 藝術大賽
14:30 17:30	望向大海 —捷運親水之旅			16:30—17:30 結業式

註：※每梯次最後一天8月16日，全體學員集合美術館參加水咚咚中元藝術大餐活動及結業式。

※活動地點多為戶外，夏季炎熱易對人體產生不適，如有特殊疾病或身體狀況不良者請勿報名。

※為顧慮學童安全，請家長務必親自送。

資料4-28 台北市立美術館が主催した御盆の芸術祭



水咚咚中元藝術大餐活動新聞稿

當家家戶戶正忙著中元普渡祭拜好兄弟時，台北市立美術館在八月十六日推出一項別緻的「水咚咚中元藝術大餐」活動，將由三百位小朋友及十六位現代藝術工作者，在美術館廣場辦桌，宴請來自外太空、地球、海洋及各界賓友。

三百位小朋友是「河畔美術夏令營」的美術小尖兵，他們經過了三天上山下海的體驗大自然後，彩繪了「基隆河長卷」大畫，在美術館 B05 展覽室展出。

當天八月十六日下午二時起，他們又將以一流手藝料理海鮮大餐、素菜大餐、西式大餐作為中元節的祭品。同時美術館廣場，也將有由陳正勳、蕭麗虹、姚瑞中、羅森豪、郭博州、劉得劭、吳近風、林義祥、程文宗、劉時棟等現代藝術工作者組隊創作的土地祭、貢品、普渡紅黃藍綠、祈福之旗、快樂的鬼臉等五件藝術作品。

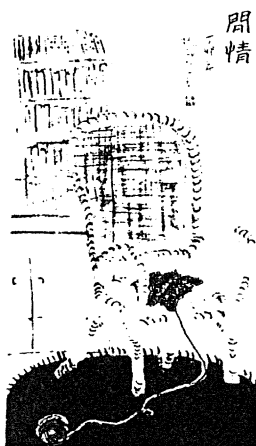
「水咚咚中元藝術大餐」融合了民俗、宗教、生活及美術，是台北市立美術館推動「現代藝術生活化」的開端，使市民大眾在慶典節日也能很藝術、很虔誠的慶讚中元。當天台北市立美術館並獲得台新銀行、加拿大商務辦事處、乖乖公司、味全公司、統一糖果、金車飲料、高崗屋公司鼎力贊助，提供食品、飲料無數，歡迎市民大眾攜老扶幼在八月十六日下午踴躍前來美術館，參與夏日午后的美麗盛會—水咚咚的中元藝術大餐。

資料4-29 各地方における郷土文化・歴史を研究する民間団体

306 郷土藝術教育論談

219	馬太鞍邦查文史工作室	蔡義昌	花蓮縣光復郵政35號信箱	(03)8700015
220	富源文史工作室	林明華	花蓮縣光復鄉大富村明德路71巷25號	(03)8731042
221	豐田文史工作室	邱坤成	花蓮縣壽豐鄉豐裡村民權街21號	(03)8651551
222	南王卑南族青年文化發展協會	鄭浩祥	台東市更生北路576巷25號	(089)224088
223	台東縣原住民發展研究會	高正治	台東市博愛路430號	(089)751200
224	台東縣後山文化工作協會	林崑成	台東市貴州街200巷14號	(089)341795
225	攬仁樹文化工作室	陳中興	台東市甘泉街6號	(089)320207
226	東岸文化工作室	潘應輯	台東市馬蘭郵政70號信箱	(089)231641
227	自在工作室	姜祝山	台東縣台東市郵政信箱63號	(089)354770
228	布農文教基金會	白光勝	台東縣延平鄉桃源村6鄰123號	(089)561405
229	蘭恩文教基金會	林茂安	台東縣蘭嶼鄉紅頭村漁人147號	(089)732073
230	仰山文教基金會	李添財	宜蘭市宜中路84號1樓	(039)354080
231	宜蘭縣觀光協會	廖大慶	宜蘭市光復路48號3樓	(039)541111
232	吉祥巷工作室	黃春明	宜蘭市擺厘路80-4號1樓	(039)352985
233	蘇澳白米社區發展協會	邱憲章	宜蘭縣蘇澳鎮勝利路1-1號	(039)952653
234	慈林文教基金會	林義雄	宜蘭縣五結鄉舊街路128號	(039)550515
235	澎湖采風文學會	林文鎮	澎湖縣馬公市惠安路33號	(06)9263950
236	金門縣史蹟維護基金會	李增德	金門金城鎮莒光路33號	(0823)27371 #317
237		楊天厚	金門金沙鎮官澳村131號	(0823)51375
238	文化樹工作室	楊再平	金門縣金城鎮珠浦北路50號	(0823)25206
239	馬祖文史工作協會	陳漢樹	馬祖南竿鄉仁愛村43號	(0836)22249

資料來源：國立藝術學院傳研中心



學生作品 閒情(國畫)

這幅用水墨表現的作品，明暗透視掌握得相當準確。滿架子的書，寓意詩書傳家的溫馨；椅子上的紅毛線織物及滾落於地毯的線球，更道出悠閒自得、其樂融融的家居生活情趣，是一幅充滿溫馨內涵的優秀作品。

貳、創作天地

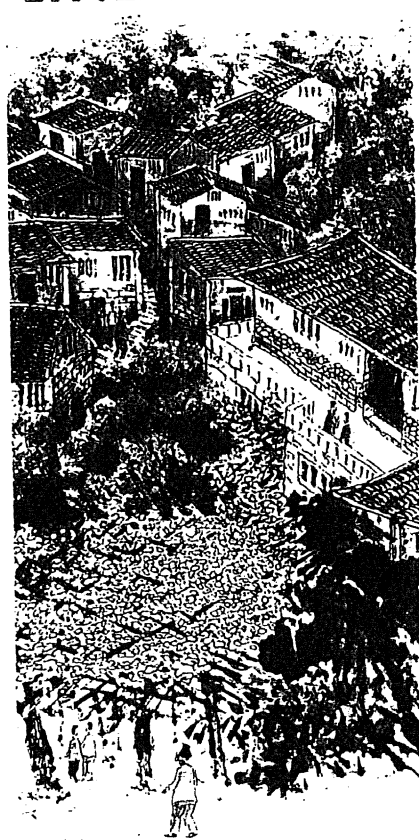
美術創作源於純真的心靈、誠摯的感情與思想。青少年的創作內容包羅萬象，表現方式尤為率直純真，雖然創作技巧未臻圓熟，但不乏充滿感情的佳作，頗能激起欣賞者的共鳴。

▼圖 2-1 學生作品 鳥兒乖乖(國畫)



例如我國國中女生的作品「鳥兒乖乖」(圖 2-1)，運用國畫的筆墨韻致，表現自己最熟悉的事物，題材親切，溫馨感人。我們不難體會作者有顆純潔善良的心，把對小動物的愛表現得淋漓盡致，同時也暗示作者生活的幸福快樂。

▼圖 2-2 學生作品 尋幽(國畫)



青少年的創作深受民族文化的影響，呈現出特有的風格。例如，我國國中男生的作品「尋幽」(圖 2-2)，畫面蒼翠茂密的樹叢，錯落有致的瓦房，及通幽曲徑，將鄉間寧靜祥和的氣氛，經營得恰如其分，是一幅充滿鄉土情感及地方特色的優秀作品。

美術創作擁有多采多姿的面貌，即使是日常事物，用自己喜愛的方式描繪出來，畫面就能美麗真摯。例如「放假日」(圖 2-3)這幅水彩畫，作者將極為平凡的題材，在構圖上加以變化，用透明水彩畫法表現，給人親切的感受；鞋子的安排極具創意，把放假日清閒的氣氛表現得極為貼切，並蘊含著作者「畫中有話」的心靈世界。

青少年充滿豐富的想像力，憑藉著觀察與體驗，把客觀事物重新組合，形成一幅深具內涵的作品，如「生

▼圖 2-3 學生作品 放假日(水彩畫)



◆作品觀摩

一、名家作品

一關公(施錦江)

這件「米塑」(俗稱捏麵人)的關公造形，唯妙唯肖，色彩豔麗動人，是民俗藝術中頗耐人尋味的作品，並具有濃厚的鄉土情趣(圖 12-15)。

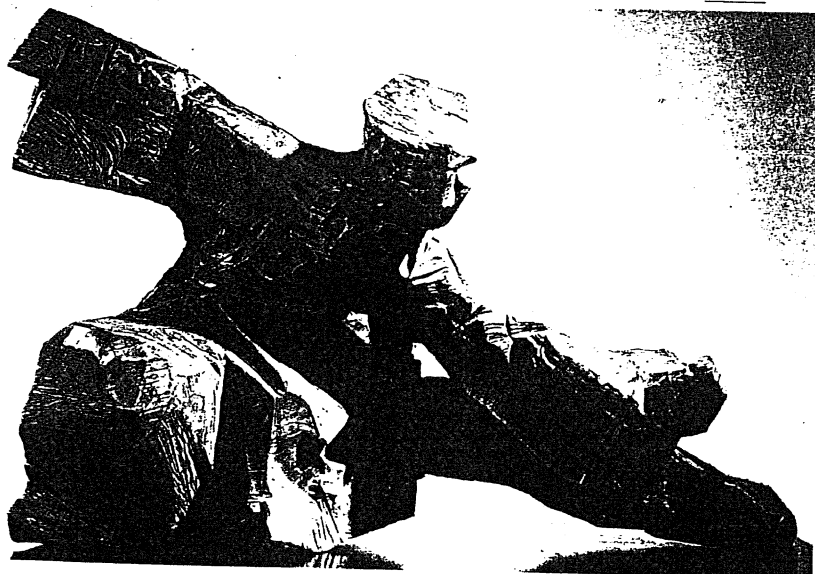
二功夫(朱銘)

這件以「功夫」為主題的木雕作品，作者用熟練的雕刻技巧，把中國功夫的動勢，表現得淋漓盡致。在樟木上留下刀斧砍劈的塊面肌理，更增添了作品的力與美(圖 12-16)。



▲圖 12-15 施錦江 關公

▼圖 12-16 朱銘 功夫

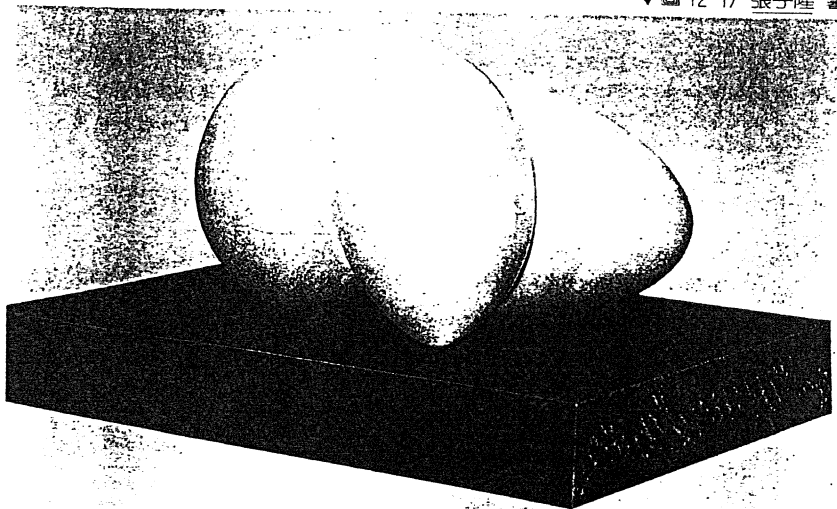


(三)磬(張子隆)

用大理石為雕刻材料來追求生命的形體，作者用簡潔的造形，表現出

圓柔的作品生命力，令人感受到從內而外溫馨的內涵(圖 12-17)。

▼圖 12-17 張子隆 磬



二、學生作品(圖 12-18~12-19)

▼圖 12-18 稚童(紙漿土塑造)



▼圖 12-19 外星人(紙漿土塑造)





馬白水 高山流水

臺灣中部橫貫公路由大魯閣到天祥間峰迴路轉，峽谷險峻，高可摩天，很合乎中國畫重山疊水的布局。作者用水彩畫的表現技法，在山麓處施以雲煙，山岩上加些線紋，除了強烈的色彩以外，頗有國畫的韻味，是作者水彩畫獨特的風格。

伍、水彩風景

在水彩畫諸多題材之中，以風景畫的歷史最悠久。水彩畫原是選取戶外景物為題材，用水彩技法呈現的繪畫作品，由於題材廣闊，表現的內容也最多樣，從郊野村莊自然景觀到城鎮都市人文景觀，作畫時可隨手可得（圖5-1~5-2）。只要凝神觀察，把握主要景物的呈現，體察形、色交織的美感，表現遠近不同的距離感，掌握色彩、明暗層次，必能畫出描繪出賞心悅目的佳作。

▼圖5-1 范國生 風景



▼圖5-2 張中 畫廊



◆水彩風景的構圖

水彩風景寫生，除了要認清自然客觀的色彩變化，以及利用主觀色彩強調自己的感情，更要注重構圖。

構圖首先要選擇寫生景物的角度，並且決定畫面的形式是直式或橫式（圖5-3~5-4）。構圖力求簡潔，不必強入太多題材，同時靈活運用留白與留黑以表現主題，並時注意安排在畫面重要位置，實體則用明調式，使描繪的線打粗或完美的畫面，運用透視法安排景物的遠近關係（圖5-5~5-6），充分表現景物的空間感並注意水平線的高低（圖5-7~5-8）。



▲圖5-3 黃銘祝 新竹老街

▼圖5-4 劉國輝 舊街



資料5-4 山本鼎が撮った台湾のパイワン族の写真



（上）見と紋書・蛇形石をみるからファイティモの案圖師装の人番書台

す、その弊は子供の自由と東西の巨匠の作品（これも自由である）との間に感嘆に感ずる事が出来るし、裝飾工藝が華美と文化の中心に感嘆して、我中間の生活には委縮してしまふといふ事にもそれを知る事が出来さう、とにかく皆さんは華人の如く小學生の如く率直に始めなさい。

繪事は、自然物や他のものが対象となり、表現の形式は描寫ですが、裝飾工藝は自然物や他のものが材料となり、表現の形式は造形です、繪画の記述は心得て置れば自然なる効果が見えて参ります、布の彫の裝飾圖案は、壁に貼るに與へられたる平面に埋、飾、繪、造形、造形、美しく適切に巧くといふ事が発願であり、圖案の場合、拙くといふ事は至極と感ずる事ですので、これに就ては良い指導材料が参りますから此處にこれを記載します、それは巴里の武動権一武動権みられたる裝飾圖案の學問を習得した「兒童の裝飾工藝と練習」といふ小冊子ですが、此小冊子の教へる方法に於



四千尺の山地で私が撮して来たもの、彼れは今、七色の呉呂絲で自分の禮衣を、織つて居るのです。むかふのお婆さんは禮服を彫、刺繍をして居るのです。

資料5-5 台湾の原住民の入れ墨

二、郷土造型藝術



● 男性刺額紋和頤文



● 黥面後表示成熟



● 紋面後圓臉會顯得修長



● 紋面完成後才能結婚生子

資料5-6 学校における原住民の伝統芸術伝承



資料5-7 台灣師範大學が主催した郷土芸術シンポジウム



98師大藝術節郷土藝術研討會



△目的 ✧凝聚各界人士對郷土藝術與教育的認同與共識

✧透過學校、家庭和社會教育活動研討落實郷土藝術的作法

✧研議郷土藝術與教育的未來發展方向

△時間 八十七年五月廿日(週三)上午九時至下午五時

△地點 國立臺灣師範大學教育大樓 2F 演講廳(和平東路一段 129 號)

△主辦 國立臺灣師範大學藝術學院

△內容 ✧演講(三場) ✧綜合座談 ✧出版專輯

△邀請 ✧各大專校院藝術及教育科系之教師

✧各大專校院藝術及教育科系之研究生及大學部學生

✧中、小學從事郷土藝術教學之教師

✧各社會人士對郷土藝術具研究興趣者

△議程 08:30-09:00 報到

09:00-09:20 開幕式

09:20-10:30 專題演講(一) 講 題:論說「民俗技藝」

主持及討論人:許教授常惠/國立臺灣師範大學自來學系教授

演 講 人:曾教授永義/國立臺灣大學中文系教授

10:30-10:50 茶敘

10:50-12:00 專題演講(二) 講 題:郷土藝術的文化脈絡

主持及討論人:王教授哲雄/國立臺灣師範大學美術學系教授

演 講 人:江教授韶瑩/國立藝術學院傳統藝術研究所教授

12:00-13:30 午餐及休息

13:30-14:40 專題演講(三) 講 題:傳統工藝的教育與推廣

主持及討論人:李教授大偉/國立臺灣師範大學工技學系教授兼教務長

演 講 人:翁所長徐得/臺灣省手工業研究所所長

14:40-15:00 茶敘

15:00-17:00 綜合座談:郷土藝術面面觀

主持人:陳教授郁秀/國立臺灣師範大學自來學系教授兼藝術學院院長

引言人:莊教授萬壽/國立臺灣師範大學國文學系教授兼人文教育研究中心主任

王教授哲雄/國立臺灣師範大學美術學系教授

17:00- 散會

專題演講（二）：鄉土藝術的文化脈絡

◎主持及討論人：王教授哲雄/國立臺灣師範大學美術學系教授

◎演講人：江教授韶瑩/國立藝術學院傳統藝術研究所教授

- ◎大綱：一、前言
二、有關鄉土的論述
三、鄉土藝術與民族藝術的辯證
四、鄉土藝術教學的議題
五、鄉土藝術的文化資源
六、鄉土藝術與兩岸文化交流
七、結語：鄉土藝術的再生

◎演講人：江教授韶瑩簡歷

師範大學藝術學系學士(1962-1966)、文化學院藝術研究所碩士(1970-1972)；

現任(1981-)：國立藝術學院傳統藝術研究所專任副教授
主持臺灣博物館學研究室

主授課程與研究領域(1996-1997)：博物館學專題研究
博物館與歷史展示、文化資產保存研究
民間工藝美術研究
傳統文物論

著作：蘭嶼雅美族原始藝術研究、臺灣竹藝博物志、臺灣工藝發展與變遷、
傳統藝術保存與博物館、民俗文物典藏作業等專著及論文四十餘篇
(本)。

兼任(1996-1997)：內政部「台閩地區古蹟評鑑專案小組」
教育部「重要民族藝術藝師審議委員會」、
「附屬於古蹟之古物審議小組」
文建會「文化資產諮議委員會」、「國立傳統藝術中心等備
處諮詢委員會」、「公共藝術諮詢委員會」、「民族
音樂中心、藝術村筹建委員會」
臺灣省文獻委員會「民俗文物館規劃諮詢會議」
臺灣省文化處「文化資產保存諮詢委員會」
「蘭陽博物館筹建小組」、「宜蘭縣博物館群營運委員會」
等委員；「臺灣民俗北投文物館」、「世界宗教博物館籌備
處」執行顧問；「私立博物館聯誼會召集人」。
「國家文化藝術基金會」、「臺灣省博物館學文化基金會」、
「世界宗教博物館發展基金會」董事、「福祿文教基金會」
董事兼執行長。

資料6-1 台灣の教育部の郷土教育計画

八十七學年度教育部補助國民中小學郷土教學實施計畫

壹、計畫概述

- 一、國民小學課程標準於八十二年九月修訂公布，自八十五學年度逐年實施，此次修訂工作，重視郷土教育之實施，因此自三年級開始，增加「郷土教學活動」，以正式之課程規畫，進行郷土教學培養國小學生愛郷之情操。
- 二、本計畫為配合上述課程規畫，預計自民國八十四年至九十年止，分七年進行補助：包括郷土及母語教材編撰、教學媒體製作、郷土教學活動設計、郷土教學研習等，以提供各國小實施郷土課程之所需，俾使教學順利進行。

貳、計畫目標

- 一、鼓勵落實郷土教學，以增進學生對郷土的瞭解、激發愛郷情操，進而培養對各族群文化的尊重，並增進社會和諧。
- 二、郷土教材之「郷土語言」部分，具共通性，為恐各縣市分散編輯，資源重覆浪費，由本部協調部分縣市編輯，完成後提供各縣市參考使用。

參、補助原則

一、郷土教材部分

- (一) 每一縣市以補助壹佰陸拾萬元為原則，於八十七年十一月16日前製據報部憑撥。
- (二) 補助之優先順序，依序以下列項目為原則：
 1. 編輯教材。
 2. 編輯教師手冊。
 3. 辦理郷土教學教師研習。
 4. 製作教學媒體。
 5. 成立郷土資源中心。
 6. 郷土教學資源蒐集建檔。
 7. 其它相關事項。
- (三) 本項經費不得涵蓋教科用書(含試用本)印刷經費；其中金門及連江縣得支應印刷費，但其金額不得超過總金額之百分之五十。

二、郷土語言部分

- (一) 負責編輯之縣市由原編輯縣市續編：
 1. 河洛語：補助台灣省政府教育廳壹佰萬元。(請該廳指定縣市承接本項工作)
 2. 客家語：補助苗栗縣政府壹佰萬元。
 3. 賽夏語：補助苗栗縣政府壹佰萬元。
 4. 阿美語：補助花蓮縣政府捌拾萬元。
 5. 噶瑪蘭語：補助花蓮縣政府壹佰貳拾萬元。

6. 排灣語：補助屏東縣政府壹佰萬元。
7. 魯凱語：補助屏東縣政府壹佰萬元。
8. 布農語：補助南投縣政府壹佰萬元。
9. 賽德克語：補助南投縣政府壹佰萬元。
10. 卑南語：補助台東縣政府壹佰萬元。
11. 雅美語：補助台東縣政府壹佰萬元。
12. 泰雅語：補助台北縣政府壹佰萬元。
13. 鄒語：補助嘉義縣政府壹佰萬元。

(二) 請於八十七年十一月 16 日前製據報部憑撥，並得支付試用本之印刷費。由本部補助編輯之十三種鄉土語言教材，其著作財產權歸本部所有。

- 三、依各縣市編列標準支應，惟人事費以不得超過總經費百分之六十為原則。如以研究費方式編列，主持人每人每月五仟元，研究員四仟元，助理研究員三仟元；上述人員不得重覆支領其它費用。
- 四、本計畫係屬補助款性質，依規定不得支列工作人員加班費。
- 五、請研提詳細計畫、經費明細暨收據報部憑撥。

肆、實施要領

- 一、彈性運用課程標準，充分發揮地方特色。
- 二、聘請專家學者組成編審委員會，以確保品質。
- 三、針對教學需求辦理教師研習，使學用相符。
- 四、以教學活動為考量製作媒體，提高教學效果。

伍、評鑑

各項成果請於八十八年六月底前備文報部。本部將成立評鑑小組訂定各項指標，針對各縣市一年來實施成果進行評鑑工作；其結果得列入下學年補助之依據。

陸、獎勵

參與本案盡責及有功人員，由權責單位予以敘獎。

資料6-2 台湾の教育部の郷土教育経費補助一覧表

(三)補助経費：

教育部八十四、八十五、八十六學年度補助國民中小學郷土教學實施計畫經費，共計一億三千五百五十二萬元。各縣市市政府核定補助金額明細，如表三所載：

表一、八十四、八十五、八十六學年度教育部補助國民中小學郷土教學實施計畫經費一覽表

縣 市 別	補 助 金 額 (單位：萬元)			合 計
	八十四學年度	八十五學年度	八十六學年度	
1. 台北市	217	280	160	657
2. 高雄市	220	280	160	660
3. 台北縣	220	260	200	680
4. 桃園縣	100	200	160	460
5. 新竹縣	160	200	160	520
6. 新竹市	150	180	200	530
7. 苗栗縣	180	200	160	540
8. 台中縣	150	240	200	590
9. 台中市	220	200	160	580
10. 彰化縣	150	210	160	520
11. 南投縣	180	200	160	540
12. 雲林縣	50	220	160	430
13. 嘉義縣	120	160	160	440
14. 嘉義市	100	200	160	460
15. 台南縣	160	260	200	620
16. 台南市	88	200	160	448
17. 高雄縣	200	260	200	660
18. 屏東縣	132	240	160	532
19. 台東縣	205	250	160	615
20. 花蓮縣	150	250	160	560
21. 宜蘭縣	200	260	200	660
22. 基隆市	150	200	160	510
23. 澎湖縣	110	200	160	470
24. 金門縣	55	150	160	365
25. 連江縣	145	200	160	505
總 計	3812	5500	4240	13552

編號：KAG03001



二、單元主題和學習目標

第一單元 愛我學校

◎學習目標：

1. 能從學校基本資料中認識學校。
2. 能從學校教育的過去發展，認識學校教育的演進。
3. 能瞭解學校過去到現在的發展，培養對學校的認同。
4. 能認識學校的環境和文物，並加以珍惜。
5. 能瞭解有許多人為學校服務，對學校有貢獻而知恩惜福。
6. 能以具體的行動愛護學校，培養回饋學校的情操。

第五單元 家鄉的名勝和古蹟

◎學習目標

1. 認識家鄉的名勝和古蹟。
2. 明瞭名勝古蹟在家鄉地圖上的位置。
3. 了解家鄉的老街、古厝、亭園、廟宇、風景區。
4. 能獲得閱讀、蒐集、欣賞名勝古蹟的方法。



第二單元 家鄉的位置和地名

◎學習目標

1. 認識臺北縣的位置和地形。
2. 認識自己居住地方的形狀和周圍鄰居的鄉鎮市。
3. 能了解臺北的歷史。
4. 能明瞭老地名的由來。
5. 能了解自己所居住地方地名的由來。

第六單元 家鄉的歌謠

◎學習目標

1. 能認識鄉土歌謠的創作人物。
2. 能認識鄉土歌謠的時代背景。
3. 能欣賞鄉土歌謠。
4. 能從歌謠中激發想像力、創造力。

第三單元 家鄉的交通

◎學習目標

1. 認識家鄉的交通網。
2. 了解家鄉目前與過去的交通情形。
3. 了解電信通訊網路。
4. 認識家鄉的郵政。

第七單元 愛我家鄉

◎學習目標

1. 能知道公共設施與生活的關係。
2. 能說出高品質的生活空間需要的公共設施。
3. 能說出本地的產物、名勝、地名、學校等之特色。
4. 能環顧本地環境而激發愛鄉情懷。
5. 能說出本地交通、建築、招牌、衛生等方面的優缺點。
6. 能說出改善環境由小做起，由己做起。
7. 能畫出或以實物表示理想的生活空間。

第四單元 家鄉的產物

◎學習目標

1. 能認識臺北縣的產物和產地。
2. 能明瞭本鄉鎮市的產物和產地。
3. 能說出本鄉鎮市的美食小吃名稱與特色。
4. 能明瞭本鄉鎮市的產物。
5. 能產生愛物惜物的情操。



資料6-4 郷土教科書における原住民美術の内容

活動三

它是

（民族服飾）



它的特徵是

它是

（民族服飾）



它的特徵是

它的特徵是

它是

（民族服飾）

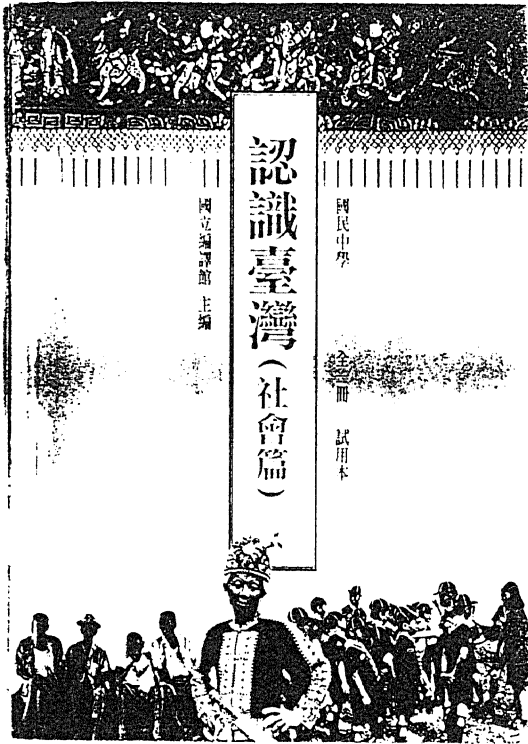


它是

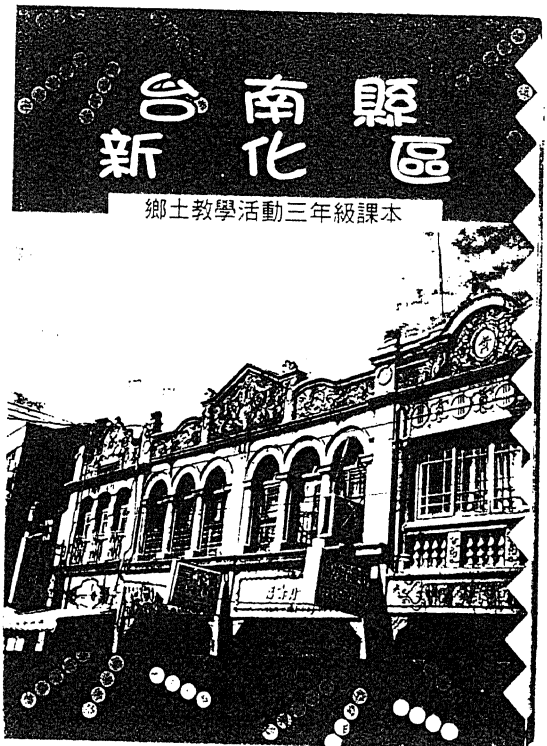
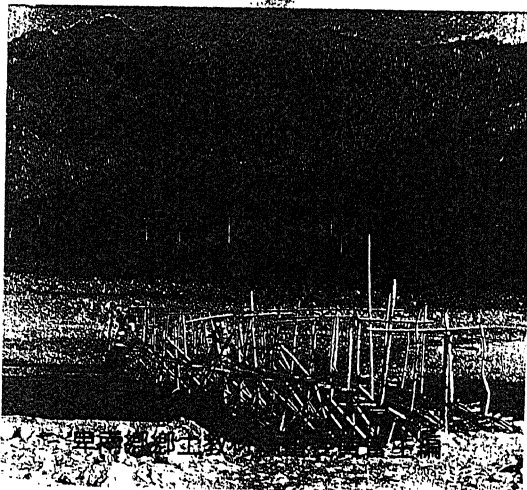
（民族服飾）



它的特徵是



台東縣國民小學
卑南鄉鄉土教學活動
三年級學生手冊



資料6-5 鄉土藝術活動教科書



鄉土教學活動



庭園景觀

5. 請結合你與朋友所住的地點，有哪一些老
街、古厝，或美麗的花園園景住宅，把它寫
下來。

二 郷土造型藝術

三義木雕藝術品雕刻的方法，與傳統的回雕、浮雕、半雕的技法大同小異，只是表現的方式比較自由，有具象寫實的，也有抽象寫意的，已注入了現代立體造型、求變、創新的時代精神。刀法也不拘形式，有精雕細琢、圓潤光滑的，也可以「大斧劈」，達到塊面粗獷拙趣的效果。更有利用奇木或樹瘤加工，保留素材原有的天然造型，以及粗糙的質感，三義的匠師利用這些蝕材舊料的創作，形成了三義木雕借材愛物的特有風格。



●利用樹瘤加工保留自然的趣味是三義木雕的特色之一



●成堆的樹樹根是雕刻的好材料

二 郷土造型藝術



●栩栩如生的龍



●商店中販售的成品

早期的三義木雕業，以雕刻動物的居多，工藝品次之，外銷日本、東南亞為主。最近十幾年來，由於藝術風氣興起，生活品質提高，木雕藝術深受大眾的喜愛與藏，所以激起許多木雕師傅，積極的投入創作，形成藝品武樣的多元化，種類繁多，美不勝收，有專雕鐘樓、觀音神像見長的，有善於表現蓮荷花卉的，有的以飛禽走獸為題材，也有把狐狸、蟲魚雕得栩栩如生唯妙唯肖的。三義的木雕由過去的宗教性、實用性的成品為主，進到表現個人技藝，各家叫好的藝術創作天地，這是三義木雕，興隆也地誦的雕業興旺的始末。

資料6-9 台中市立上石小學校の郷土教學活動授業 (1)

台中市西屯區上石國民小學八十七學年國民教育輔導團蒞校輔導活動程序表

時間	項目	主持人	地點	備註
09:20-09:30	報到	教務處	穿堂	
09:30-10:10	示範教學(鄉土教學活動)	郭輔導員至和	三年二班	
10:30-11:10	綜合座談	校長	會議室	

第二單元：陪我成長的地方

一、教學目標與教材綱要

單元名稱	單元目標	教材綱要
一、熱鬧的大馬路	<ol style="list-style-type: none"> 知道學區內的各大馬路。 知道學區內的各條河川。 知道學區內各個重要機構及它服務的事項。 知道學區內有那些好玩、好吃的地方。 	<p>一、熱鬧的大馬路</p> <ol style="list-style-type: none"> 馬路的名稱和所在地 馬路的起點、終點 馬路的功用 <p>二、小河的旅行</p> <ol style="list-style-type: none"> 小河的名稱和所在地 小河的起點及終點 小河的功用 <p>三、為我們服務的機構</p> <ol style="list-style-type: none"> 機構的名稱及所在地 機構服務的項目及功用 <p>四、好玩好吃的地方</p> <ol style="list-style-type: none"> 「好玩的地方」的名稱及所在地 「好吃的地方」的物產名稱及出產地
二、小河的旅行		
三、為我們服務的機構		
四、好玩好吃的地方		

資料6-10 台中市立上石小学校の郷土教学活動授業 (2)



資料6-11 台中市立上石小学校の郷土教学活動授業（3）



資料6-12 台湾の花蓮市立明義小学校における郷土美術授業



資料6-13 台北市立龍山国民中学の「龍山寺巡礼」





▲圖3 方志採摘樹

方志：是記載一地的地理環境、氣候、物產史蹟跟人文的書，也稱「地志」。

第二類：年畫。

年畫是中國人最喜愛的一種民俗藝術，一般有三類：

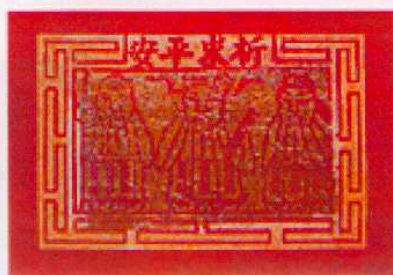
- ①驅邪迎福的的年畫；包括門神、財神、灶神、門額版勝，門楣箋、對聯等。
- ②新年歡樂喜慶吉祥畫及吉祥字：過年時，一般人家都喜歡張貼喜慶吉祥畫或字，希望它帶給家人歲歲平安，吉祥如意，福壽綿長（圖4）。
- ③小說故事：採取歷史小說中精彩片段做為題材，亦可做為向兒童講故事的範本。

第三類：宗教版畫。

宗教版畫，品目繁多，有家庭祭祀用版畫，佛壇及道壇版畫：廟宇、糊紙業用彩紙版畫和紙錢（圖5）。



▲圖4 灶神



▲圖5 紙錢

資料7-1 台湾の地方教育局による小学校郷土教育実施状況

高雄市 国民小学郷土教学実施状況問卷

填表人：戴淑芬
(07)2375150

1. 貴県是否有訂立国民小学新課程郷土教学活動実施計画？ 有。 無。
該計画的全名是：自八十五學年度起，每學年均訂定各學年度郷土教學實施計畫

2. 貴局轄区内之小学是否已全面將国民小学新課程郷土教学活動列入課表教学？
 是。 否。 原因是：

3. 貴県是否有參加「教育部補助国民中小学郷土教学實施計画」？ 有。 無。
請簡要列举有關該計画貴県所实行的具体事項：
1. 編輯各年級學生使用之郷土教材 2. 編輯郷土教學媒体 3. 成立郷土教學資源中心

4-1. 貴県是否有出版「県版国民小学新課程郷土教学活動教科書」？ 有。 無。
該教科書的全名是：尋根 魏勳員—高雄市國民小學郷土教學活動實施手冊
該教科書的使用上是否每個學生一冊？ 是。 否。
是否有同時出版該教科書的教師手冊？ 是。 否。

4-2. 貴県是否有出版「分区版国民小学新課程郷土教学活動教科書或相關教材」？
 有。 無。
請簡要列举一、二種該教科書或教材的全名：
「高雄市旗津區郷土教材」…等。高雄市十一個行政區均有郷土教材。

4-3. 貴局轄区内之小学是否有自行出版郷土教学活動教科書或相關教材？
 有，約有 80 校。 無。
請簡要列举一、二種該教科書 教材的全名：
每校均出版屬於自己轄區的郷土教材。
該小学教科書或教材的製作經費是： 貴県政府補助。 学校自籌。 兩者皆有。
(多數) (部份)

5. 除了上述的教科書之外，貴県是否有出版其他種類的教学媒体教材（錄音帶、錄影帶、幻灯片…）？ 有。 無。
請簡要列举一、二種与郷土美術有關的該媒体教材的全名：
「愛我高雄」光碟、各校自拍幻燈片、錄影帶，約 20 種。

6. 貴県国民小学新課程郷土教学活動的實施經費是否完全來自教育部的補助金？
 是。 否。

7. 請就貴県国民小学新課程郷土教学活動實施至今，相關者所反應的正副面意見各簡要列举一項。
積極面：讓孩子們瞭解自己成長的土地。
消極面：主張推動郷土教學者中，不乏政治企圖者。

資料7-2 台湾の地方教育局による中学校郷土教育実施状況

金門縣 国民中学郷土教学実施状況問卷

填表人：董志輝

1. 貴県是否有訂立国民中学新課程郷土教学実施計画？ 有。 () 無。

該計画的全名是：

金門縣提供国民中小学郷土教学活動實施要點

2. 貴局轄区内之中学是否已全面將国民中学新課程認識台湾、郷土藝術活動活動列入課表教学？ 是。 () 否。 原因是：

依據部頒課程標準實施。

3. 貴県是否有参加「教育部補助国民中小学郷土教学実施計画」？ 有。 () 無。

請簡要列举有關該計画貴県所实行的具体事項：

1. 編纂國中郷土教材 2. 开展教师研習活动 3. 推广教学活动

4-1. 貴県是否有出版「県版国民中学新課程郷土藝術活動教科書」？ 有。 () 無。

該教科書的全名是：

金門縣国民中学郷土藝術活動教材

該教科書的使用上是否每個学生一冊？ 是。 () 否。

是否有同時出版該教科書的教师手冊？ 是。 () 否。

4-2. 貴県是否有出版「分区版国民中学新課程郷土藝術活動教科書或相關教材」？

() 有。 無。

請簡要列举一、二種該教科書或教材的全名：

4-3. 貴局轄区内之中学是否有自行出版郷土藝術活動教科書或相關教材？

() 有，約有 校。 無。

請簡要列举一、二種該教科書或教材的全名：

該中学教科書或教材的製作經費是 貴県政府補助。 () 学校自籌。 () 兩者皆有。

5. 除了上述的教科書之外，貴県是否有出版其他種類的教学媒体教材（錄音帶、錄影帶、幻灯片……）？ () 有。 無。

請簡要列举一、二種与郷土美術有關的該媒体教材的全名：

由学校依需要自行製作專用。

6. 貴県国民中学新課程郷土教学的實施經費是否完全来自教育部的補助金？

() 是。 否。

7. 請就貴県国民中学新課程郷土藝術活動實施至今，相關者所反映的正副面意見各簡要列举一項。

積極面：增廣学生認識郷土之深度

消極面：增加科目學習負擔。

8. 貴局或轄区内学校是否有開闢郷土教育相關網頁？

() 是。 本局、本縣政府 () 是 國中。 否。 (建置中)

資料7-3 台灣桃園県の郷土教育実施計画

桃園縣八十七學年度推動郷土教學活動實施計畫

一、依據：

- (一) 教育部八六、十一、十五台(86)國字第八六一一六二九九號函辦理。
- (二) 桃園縣推展本土教育實施方案。
- (三) 桃園縣政府八十七年施政計畫。

二、目的：

- (一) 增進學生對本土歷史、地理、自然、語言和藝術等的認識，進而加以傳承，保存或創新。
- (二) 培養學生對本土化各項郷土活動參與的興趣以及欣賞的能力，以激發其熱愛郷土的情懷。
- (三) 養成學生面對本土問題，能主動觀察、探究、思考，並加以解決或發揚光大。
- (四) 培養學生對各族群文化的尊重，能以開闊的胸襟和宏觀的視野，來促進社會和諧。
- (五) 透過有系統的郷土教學活動，以建立「人親，土親，文化親」的情感。

三、實施原則：

- (一) 正確認識郷土教育目標，應在彰顯自主性與社會正義。
- (二) 郷土教材應與一般教材相輔相成，不可相衝突，以教導學生建構美好人生。
- (三) 郷土教育的課程設計，可兼採單獨設科或用統合式課程，進行隨機教學。
- (四) 郷土教育的師資培育，需要提昇教師的批判思考能力，如此，方能適切的幫助學生建立正確的價值感。
- (五) 郷土文化的傳承，絕不同於悖理式的灌輸，其應合乎認知性、自願性和價值性。
- (六) 郷土教育的推展，教師應該敞開心胸，熟諳郷土教學資源，以生動的教材，活潑的教法，帶領學生陶醉在郷土教學的殿堂。

四、實施內容與進度：

類別	一 設置鄉土教育資源中心	二 舉辦教師進修研習	三 編印鄉土教材
活動內容	(一) 成立河洛語系鄉土教育資源中心。 (二) 成立客語系鄉土教育資源中心。 (三) 成立原住民(泰雅語)系鄉土教育資源中心。 (四) 遴選各鄉鎮市鄉土教學資源中心學校	(一) 舉辦河洛語教學種子教師研習。 (二) 舉辦客語教學種子教師研習。 (三) 舉辦泰雅語教學種子教師研習。 (四) 舉辦客家民謠及戲曲研習。 (五) 舉辦鄉土教材歷史篇編撰人員研習。 (六) 舉辦傳統藝術教學研習。	(一) 編印十三鄉鎮市三年級鄉土教材。 (二) 編印「民俗童玩」教學專輯。 (三) 研發製作錄音帶、錄影帶、CD。
預定進度	87. 9. 9	87. 11. 中旬	87. 11. 底完成 87. 12. 分送各校
承辦單位	新興國小 龍潭國小 羅浮國小 學管課	新興國小 龍潭國小 羅浮國小 新興國小	各鄉鎮市鄉土教育資源中心學校 新興國小 國教輔導團 國教輔導團
經費來源	八十萬	預估 十九萬六千元 預估 廿一萬元 預估 七萬元 預估 十七萬元 預估 七萬元 預估 十七萬元	預估 四百萬元 預估 十八萬元 另編
備註	教育部專款補助 教育部專款補助 已完成	向教育廳申請經費補助 同右 由縣政府經費補助 向教育廳申請經費補助 同右 分兩梯次實施 同右	由縣政府編列預算 向教育廳申請經費補助。

動活關相他其理辦六	賽比與動活學教土鄉理辦五	團導輔學教立成四
<p>(一)妥善運用社會資源，協助學校推展鄉土教育。</p> <p>(二)加強媒體宣導，爭取推展鄉土教育的助力。</p> <p>(三)配合民間社團或其他公益團體，共同舉辦鄉土系列活動。</p>	<p>(一)舉辦全縣鄉土語言(河洛語)演說朗讀比賽。</p> <p>(二)舉辦全縣鄉土語言(客家語)演說朗讀比賽。</p> <p>(三)舉辦全縣原住民有關族群語言之演說比賽。</p> <p>(四)舉辦全縣各國小鄉土教材(歷史篇)編撰競賽。</p> <p>(五)舉辦全縣傳統技藝教學展演。</p> <p>(六)規畫師生鄉土音樂、研習營。</p>	<p>(一)遴選輔導團員。</p> <p>(二)進行教學輔導。</p> <p>1 網路輔導。</p> <p>2 巡迴輔導。</p> <p>3 觀摩教學。</p> <p>4 其他。</p>
<p>87.7</p> <p>87.7</p> <p>87.7</p> <p>88.6</p> <p>88.6</p> <p>88.6</p>	<p>88.7</p> <p>88.2</p> <p>88.6</p> <p>88.5</p> <p>88.4</p> <p>88.3</p> <p>88.3</p>	<p>87.9</p> <p>87.8</p> <p>88.6</p>
<p>各資源中心學校</p> <p>學管課輔導團</p>	<p>各資源中心學校</p> <p>另訂</p> <p>新興國小</p> <p>羅浮國小</p> <p>龍潭國小</p> <p>新興國小</p>	<p>國教輔導團</p>
<p>另編</p>	<p>另編</p> <p>另編</p> <p>另編</p> <p>另編</p> <p>另編</p> <p>另編</p> <p>另編</p> <p>另編</p>	<p>預估一萬元</p>
	<p>由縣政府編列預算</p>	<p>由縣政府編列預算</p> <p>向教育廳申請經費補助</p>

七 舉辦鄉土教學成果評鑑	(一) 評鑑各校辦理鄉土教學成果。 1 自我評鑑。 2 交互評鑑。 3 專家評鑑。	8、8、6	學管課 國教輔導團	預估二萬元	由縣政府 編列預算
--------------	--	-------	--------------	-------	--------------

五、經費來源：

- (一) 教育部經費補助一百六十萬元，成立鄉土資源中心。
- (二) 教育廳經費補助。
- (三) 縣政府編列預算八百萬元支應。

(四) 各校相關經費支應。

(五) 社會資源經費補助。

六、督導考評：

(一) 各資源中心學校，推動本計畫，每年由教育局辦理督導考評一次。

(二) 執行本計畫之相關學校、教師，經由教育局督導考評確認後，給予從優敘獎鼓勵。

七、本實施計畫經陳請縣長核可後公布實施之，修正時亦同。

芸術と人文学習領域

1. 基本理念

この学習領域は、人文を核心とする芸術学習であるという理念に基き、視覚芸術、音楽、パフォーマンスの三つの学習内容を包括している。その目的は、生徒の芸術の知識と能力の育成、芸文活動に積極的に参加する意欲の向上、芸術鑑賞能力の高め、生活趣味の陶冶、芸術の潜在能力の啓発、人格の健全な育成などである。

具体的な実践は、児童・青少年は文学、音楽、舞踊、演劇パフォーマンス、視覚芸術等の学習活動を通して、創作し、各自の観念と感情を表現するとともに、芸術作品が持つ歴史的、文化的意味を解読し得た各自の思いと経験を分析、批評、帰納、反省等の方法を用いて各々の意義を探り出すことである。つまり、このような学習は、従来の技術本位と精緻芸術が主導してきた教育法と限界と異なり、芸術教育と他領域の学習との提携、統合を促進して、更に自主的、開放的、弾力的な全人素養を中心とする芸術学習である。

芸術は生活から成り、生活に融合するものである。生活は全ての文化の形成の源である。それ故、芸術教育は、児童・青少年が生活環境にある人間、物事、風景を探索する、環境にある芸術品、器具、自然風景を鑑賞し討論する、身体、知覚、感情を通して芸術の特質を識別しそれぞれの意義を構築する、芸術家の訪問を通して、時代、文化、社会、生活と芸術との関わりを理解するなど機会を与える。また、児童・青少年に各種の芸術の表現技法の探究機会と各自の経験と想像を用い、創作の靈感を発揮させ、思索と練習により創作発表して、生活と心を豊かにする励みも与える。

総じて、この世紀を越えての芸術教育改革の精神は、人類の命を重視しながら、生活を中心とし、人間関係や人間と環境の調和的発展を構築するものであり、科学技術文明と芸術人文の均衡を促進し、その全面的、多元的、統合的発展をねらうものである。したがって、この「芸術と人文の学習領域」は、児童・青少年の基本的な芸術・文化素養を育成すること、芸術の伝承と創造に努めること、文明と教養がある国民を培うこと、尊重すべき文明の発展を重視することなどの役割を担っている。

2. 課程目標

課程目標は探索と創作、審美と思考・類別（思辨）、文化と理解の三つの主軸で構成するものである。

(1) 探索と創作

独自で探索し、環境と個人との関わりを探りだして、媒材と様式を用いて、芸術創作に従事し、生活と心を豊かにする。

(2) 審美と思考・類別（思辨）

審美活動を通じて、各種の芸術の価値を体得し、芸術文物と作品を大切にし、生活素

養を向上する。

(3) 文化と理解

芸術の文化的文脈と風格を理解し、熱心に多元文化活動に参加して、芸術的視野を広げ、異文化間の相互尊重と理解を促進する。

4. 各学習段階の能力指標（分段能力指標）

各学習段階の能力指標は、各学習内容が上述の三つの主軸に沿って、9年間の学習をそれぞれ四つの段階に分けられ設定された各段階における学習目標である。この四つの段階は、第一段階の小学校低学年、第二段階の小学校中学年、第三段階の小学校高学年、第四段階の中学校期間と定められている。

(1) 【目標主軸一】探索と創作

視覚芸術

第一段階	1-1-1.生活の経験と体得を通して、視覚芸術創作のさまざまな様式を用いて自分の思いを表現する。 1-1-2.さまざまな媒材を体験し、豊かな創造力を引き出し、基礎的視覚芸術活動に従事することによって、創作の喜びと面白さを感じ取る。
第二段階	1-2-1.さまざまな芸術創作を試み、豊かな想像力と創造力を表わして伝える。 1-2-2.さまざまな媒材と様式を実験し、異なる媒材と技術の特色及び効果を理解して、創作活動に従事する。 1-2-3.自分が見た事物と触れた感情を記録し表現する。
第三段階	1-3-1.さまざまな芸術創作様式を探り、他人の作品を理解して、独自の思考と表現・伝達能力を養う。 1-3-2.表現の主題と内容を考えて、適切な媒材、技法を選び、感情、経験、思想に富む作品を完成する。 1-3-3.さまざまな芸術様式を通して、自己の特質を表わすとともに自己評価・分析をする。
第四段階	1-4-1.芸術創作と社会文化の関係を理解し、独自の思考能力を発揮して、多角的芸術創作を試みる。 1-4-2.思いやりに関する主題を考え、適切な媒材と技法を用いて、感情、経験、思想に富む作品を作りだし、独自の表現力を伸ばす。 1-4-3.芸術と科学技術とが結び付く表現方法を試みて、異なる様式の作品の創作を探る。

音 楽

第一段階	<p>1-1-3.人の声、身体楽器、楽器及び身近な環境音声を通して、多様な音色を体験する。</p> <p>1-1-4.音楽活動において、人の声、身体表現、簡易楽器を用いて創作する。</p> <p>1-1-5.言語、身体表現、音楽情境のまねなどの方法で、楽曲に対する思いを表現する。</p>
第二段階	<p>1-2-4.リズム、歌唱、楽器の演奏を通して、音楽の要素（音域、長さ、強弱等）を感じ取る。</p> <p>1-2-5.人の声、身体表現、楽器を用いて、音楽やリズムに合わせて、即興的に簡単な楽曲と旋律を創作する。</p> <p>1-2-6.異なる速度、音色、強弱、フレーズを探ったり、試みたりして創作する。</p>
第三段階	<p>1-3-4.多様な音源（電子楽器も含む）を探ったり、試みたりして、創作の想像力を働かせる。</p> <p>1-3-5.楽器を用いて、歌の即興的伴奏をしたり、合奏をしたりする。</p> <p>1-3-6.異なる速度、音色、強弱、フレーズを用いて、異なる種類の音楽を創作する。</p>
第四段階	<p>1-4-4.伝統的・非伝統的楽器（電子楽器も含む）を用いて、音楽創作をする。</p> <p>1-4-5.歌唱や演奏の公演を通して、音楽活動に参加し、音楽の表現能力を伸ばす。</p> <p>1-4-6.簡易な曲式で創作を試みて、音楽形式の美しさを体験する。</p>

演劇パフォーマンス

第一段階	<p>1-1-6.共同参加の演劇パフォーマンス活動において、観察したり、協力したりして、言語、身体表現を用いてさまざまな情境のまねをする。</p> <p>1-1-7.芸術創作を通して、他人と協力し役割分担により、絵画、歌唱、パフォーマンスなどの方法を表現し、共同作業を完成する。</p>
第二段階	<p>1-2-7.パフォーマンス活動に参加して、物語を感じ取り、自信を持って役を表現する。</p> <p>1-2-8.共同的芸術活動において、寛容的、思いやりのある身体言語や図像言語を用いて、メンバーと協力して展示公演活動を企画する。</p>
第三段階	<p>1-3-7.演劇パフォーマンス活動の進行中に、積極的に協力したり、自分の潜在能力を発揮し伝えたりする。</p> <p>1-3-8.芸術的共同創作方法を通して、コミュニティ、自然環境に対する尊重、関心、愛護の心を伝える。</p>
第四段階	<p>1-4-7.身体表現や文学創作で共同的に演劇パフォーマンスの物語を作り出して、異なる感情、思想、発想を表現する。</p> <p>1-4-8.人間社会における各種の感情を見い出して、芸術的方法を通して、核心的議題や主題を選び、自分の価値観を表現する。</p> <p>1-4-9.メンバーと特定主題について共同的芸術展示公演活動を企画し、社会、自然環境、少数民族への尊重、関心、愛護の心を伝えたり、正しく価値判断をしたり、思考能力を伸ばしたりする。</p>

(2) 【目標主軸二】 審美と思考・類別 (思辨)

視覚芸術

第一段階	2-1-1.さまざまな自然物、人工物、芸術品と触れて、初期の審美経験を積み上げる。 2-1-2.さまざまな色彩、図像、音声、形態、表情、動作の美を体験して、思いを伝える。
第二段階	2-2-1.さまざまな自然物、人工物、芸術品の美を楽しく見る。 2-2-2.互いに自分たちの作品を見て、各々の美的特質を述べる。 2-2-3.生活周辺の文化古跡、民俗文物を楽しく参観する。
第三段階	2-3-1.叙述、分析、討論の方法を通して、自然物、人工物、芸術品の美的特徴と視覚要素を見分ける。 2-3-2.環境と生活の関わりを認識し、芸術表現における環境の影響を繰り返して考える。 2-3-3.適当な視覚芸術の専門用語を用いて、自分たちの作品の特徴と価値を説明する。
第四段階	2-4-1.さまざまな自然物、人工物、芸術品を鑑賞し、美的認知と判断に従事する。 2-4-2.美学や関連学識の原理に基づいて、さまざまな視覚芸術の材料、形式、内容の美しさを楽しめる。 2-4-3.各種類の作品の媒材構造、象徴、思想を比較し分析する。 2-4-4.芸術と科学技術との関わりを考えて認識することにより、芸術にとっての環境と資源の重要性を体得して、建設的見解を提出する。

音 楽

第一段階	2-1-3.自然と周辺環境の音声を体験して、感じたことを述べる。 2-1-4.童歌や童謡を楽しく歌うこと、聞くことを通して、音楽を愛好する態度を育てる。
第二段階	2-2-4.人の声、楽器、音楽の要素を認識して、それぞれの特徴を述べる。 2-2-5.互いに自分たちの音楽表現を楽しく見て、感じたことを伝え、それぞれの成就を味わうようにする。 2-2-6.日常生活において、気を付けて音楽を聴くことの趣味を育て、自分の音楽を選ぶ原則を伝える。
第三段階	2-3-4.音楽の専門用語を用いて、楽曲の構成と特徴を述べる。 2-3-5.討論、分析、批判の方法を通して、楽曲に対する審美経験と見解を伝える。 2-3-6.音楽活動に参加して、注意深く聴く習慣を育て、感じたことを伝える。
第四段階	2-4-5.楽曲の形式、楽器の配置、様式など特色を認識して、審美能力を育てる。 2-4-6.音楽史上の各時期の作品を楽しく聴いて、音楽が伝えた感情を述べる。

演劇パフォーマンス

第一段階	2-1-5.各種類の児童表現活動に興味を持って、自分の考えを述べる。 2-1-6.芸術活動を見るとき態度とモラルを育てる。
第二段階	2-2-7.異なる児童演劇の表現形式を楽しく見たり、見分けたりして、自分の観点を伝える。 2-2-8.芸術活動を見るとき既定的礼儀、態度を表現できて、他人の表現と成就を味わうようにする。
第三段階	2-3-7.適当なパフォーマンス芸術の専門用語を用いて、自分の観点を述べる。 2-3-8.正確な観念と態度で、各類型の芸術展示公演活動を楽しく見る。
第四段階	2-4-7.展示公演活動や演劇作品を楽しく見て、自分の美的経験、価値観、建設的意見を提出する。 2-4-8.他人の意見や感じたことを尊重し賛美して、自分の発想を他人の考えと合わせて修正し融合する。

(3) 【目標主軸三】文化と理解

視覚芸術

第一段階	3-1-1.芸術活動に参加して、生活周辺環境の文化特質を認識する。 3-1-2.各種の図画、写真、飾りものを収集し、生活空間を美化する。
第二段階	3-2-1.生活周辺の郷土文物や伝統的民俗文物の資料を収集して、各々の特色を述べる。 3-2-2.故郷やコミュニティの廟、建築の文化特質を認識する。
第三段階	3-3-1.本地と他の地区の文物、古跡、民俗文物を比べて、各々の文化特色を説明する。 3-3-2.芸術活動に参加して、自国社会にある異なる文化特質を理解する。 3-3-3.多様な方法を用いて視覚芸術に関連する情報を収集する習慣を身に付ける。
第四段階	3-4-1.自国の各民族の芸術特質を理解し、地方の文化資源を尊重し、大切にすることを養う。 3-4-2.台湾の宗教建築、古跡、景観の特色と文化的背景を比べる能力を育てる。 3-4-3.中華文化と外国文化における各時期の芸術作品の特徴と背景を比較したり、探究・討論したりして、多元文化を尊重する。

音 楽

第一段階	<p>3-1-3.生活周辺の環境を観察したり、芸術活動に参加したりして、音楽が生活の一部であることを理解する。</p> <p>3-1-4.自国の異なる民族の民謡を楽しく聴いて、多元文化の音楽特質を感じ取る。</p>
第二段階	<p>3-2-3.郷土音楽を認識し、演奏、歌唱、静聴を通して、郷土への関心を深める。</p> <p>3-2-4.異なる文化の音楽の表現形式を楽しく聴いて、各々の特質を理解する。</p>
第三段階	<p>3-3-4.各種の音楽情報を用いて、音楽の学習と創作を補助し、音楽活動に参加する興味を育てる。</p> <p>3-3-5.異なる文化の音楽特質を比較する。</p> <p>3-3-6.音楽史における各時期の作品を認識して、各々の特色を理解する。</p>
第四段階	<p>3-4-4.自主的に音楽活動に参加する興味と習慣を養う。</p> <p>3-4-5.音楽史における各時期の作品を分析して比較し、各々の様式と内容・曲想を詳しく認識する。</p> <p>3-4-6.地域・文化と音楽との関わりを認識し、文化・歴史が音楽作品に与えた影響を理解する。</p>

演劇パフォーマンス

第一段階	<p>3-1-5.パフォーマンスを通して、自分と社会、自然環境との相互的働きを体得する。</p> <p>3-1-6.正確的、安全的、有効的に各種の道具を用いて、パフォーマンスをする。</p>
第二段階	<p>3-2-5.演劇的パフォーマンスを通して、多元文化や、社会的役割を認識し、思いやりを持って、他人と話し合い、分かち合う能力を育てる。</p> <p>3-2-6.楽しく地方的芸術文化活動に参加し、コミュニティや故郷の文化を理解する。</p>
第三段階	<p>3-3-7.演劇的パフォーマンスを通して、異なる文化、社会の特色をまね、他人と団体との倫理を守る。</p> <p>3-3-8.楽しく各種類の芸文活動に続けて参加し、記録、レポートで自分の観点や心得をまとめる習慣を養う。</p> <p>3-3-9.グループでテーマを決めて、芸術、文化活動に関連する課題を探索する。</p>
第四段階	<p>3-4-7.異なる文化のパフォーマンスを融合して、共同作業で演劇としてまとめて表現する。</p> <p>3-4-8.各種の科学技術と芸文に関連する情報をまとめて、芸術領域の学習と創作に生かす。</p> <p>3-4-9.総合的展示公演活動を通して、台湾における各種の芸術に関連する職業とその務めを認識したり、芸術創作と環境保護、男女平等、政治、社会など議題との関わりを理解する。</p>

4. 各学習段階の能力指標と十大基本能力の関係

ここでは、前述の四つの学習段階における十大基本能力との関わりを段階ごとに示す。筆者は、その中で「六、文化学習と国際理解」について次のように取り上げて、本論文の終章の「本研究の今後の課題」において考察した。

六、文化学習と国際理解

第一段階	3-1-1.芸術活動に参加して、生活周辺の環境の文化特質を認識する。3-1-4.自国の異なる民族の民謡を楽しく聴いて、多元文化の音楽特質を感じ取る。
第二段階	2-2-3.生活周辺の文化古跡、民俗文物を楽しく参観したり、見たりする。3-2-2.故郷やコミュニティの廟、建築の文化特質を認識する。 3-2-4.異なる文化の音楽の表現形式を楽しく聴いて、各々の特質を理解する。
第三段階	3-3-1.本地と他の地区の文物、古跡、民俗文物を比べて、各々の文化特色を説明する。 3-3-2.芸術活動に参加して、自国社会にある異なる文化特質を理解する。3-3-6.音楽史における各時期の作品を認識して、各々の特色を理解する。
第四段階	3-4-1.自国の各民族の芸術特質を理解し、地方の文化資源を尊重し、大切に作る心を養う。 3-4-2.台湾の宗教建築、古跡、景観の特色と文化的背景を比べる能力を育てる。 3-4-3.中華文化と外国文化における各時期の芸術作品の特徴と背景を比較したり、探究・討論したりして、多元文化を尊重する。

5. 実施要点

(1) 課程設計

①各学校では「芸術と人文学習領域課程研究委員会」を設立し、芸術と人文学習領域の各段階の能力指標に基き、学校の実態、社会資源、保護者の望み、児童・生徒の需要などを考えて、学年の課程実施計画を定めること。その内容は、目標、毎週の指導進度、教材、指導案、評価、教育資源などの項目を含めること。

②基本授業時間の原則の下で、学習領域の境を越え、教科と時間を弾力的に調整し、大単元や、統合的テーマの課程編成で指導することもできること。学習活動が二つ以上の学習領域を含む場合、授業時間をそれぞれの領域に記入すること。

③芸術と人文課程では、児童・生徒に美的感性、情操、心、身体の成長を助け、自我概念の形成、自己尊重、自己コントロールを促進させ、他人との協力関係の発展を理解させる。

④芸術活動の課程設計では、児童・生徒の創作主題に対する観念の理解と感じたことを伝達するに助けになること、また、児童・生徒が言葉の発達、概念の形成、批判・思考と創作力の統合に励むようにさせる。

⑤芸術課程は、児童・生徒が科学技術情報を活用するのうりよくを励し、この能力を発揮して学習、研究、創作することを促進すべきことである。

⑥課程設計の原則については、学習主題で視覚芸術、音楽、パフォーマンスなどの学習及び他の学習領域の学習を統合するである。統合の原則としては、共通的美学概念、主題、目的、操作課程、互補関係、段階的過程を活用すること。また、「探索と創作、審美と思辨、文化と理解」も統合の原則とすること。

⑦課程の統合については、大単元指導案、プロジェクト指導案、主題軸指導案、行動研究指導案、独立研究指導案などの方式を用いることができること。

(2) 教材の編集と選定

①教材内容範囲：視覚芸術、音楽、演劇パフォーマンス、その他の総合芸術を含む。

(A) 視覚芸術の内容は、絵画、彫塑、版画、工芸、デザイン、映像、建築、コンピュータ芸術などの鑑賞と創作であり、精緻芸術と大衆芸術を含むものである。

(B) 音楽の内容は、基本能力（音感、識譜、リズム）、楽器演奏（弦楽器、管楽器、打楽器など）、歌唱（わらべ歌、童謡、独唱、合唱、朗読、吟詩など）における創作と鑑賞である。

(C) 演劇パフォーマンスの内容は、観察、想像、模倣、創作による身体表現と音声表現、連想創作（台本の作成、即興創作、役割表現、総合表現など）、演劇（話劇、児童ミュージカル、影絵、郷土芸能、ストーリー劇場など）における創作と鑑賞である。

(D) その他の総合芸術の内容は、テレビや映画など科学技術を応用する芸術的創作表現と鑑賞である。

②教材の編集と選定の原則

(A) 教材の編集と選定について、各学校の教師は、国民小中学校課程要綱総綱、教育改革理念、本学習領域の課程目標、各段階の基本能力指標、その他の関連資料を参考して、自主的に教材を編集・選定し、指導を計画すること。

(B) 教材の編集と選定においては、各地方の児童・生徒の能力、需要、興味、生活経験及び各学校の人的資源、物的資源、文化特色などに配慮すること。

(C) 教材の編集と選定については、統合的原則を把握し、指導策略に合わせて、児童・生徒に統合的概念と系統的知識、情報を獲得させるようにすること。

(D) 教材の編集と選定の組織については、内容の適切さ、基本技法の順序性及び各学期の教材の一貫性を注意すべきこと。

(E) 教材の量については、適切に授業時数と目標に合わせて、課題探究の深さ、関わる問題の範囲、学習活動の形態にしたがって調節すること。

(F) 教材内容の分析、策略、流れについては、実行性と実用性両方備えるものにする。

(G) 教材の編集と選定については、課程の統合的精神に基いて、主題で教材を統合し、各専門教師に指導の分担をさせるようにすること。

(3) 指導の設計

①潜在的と明示的学習目標の設定については、適切に知識、技法、情意などの領域のバランスを整え、本学習領域の基本理念に合致するものとする。

②指導の枠組みについては、教授原理にしたがって、児童・生徒の自主的に芸術を学習する意欲を引き出せるものとする。

③学習活動設計については、生き生きさ、面白さ、活発さ、多様性が富み、そして、生活化の原則を把握することにする。

④学習活動の流れについては、芸術学科の学習における概念構築の順序性に従うことにする。

⑤指導の設計については、児童・生徒の学習動機、興味、能力などの個別性を配慮し、必要に応じて補習指導を行うようにすること。

(4) 指導方法

①学習環境については、教師は意義のある学習情境を作り出し、児童・生徒の学習動機を引き出し、自主的学習に関わる発見、探究、実験、発明の過程を誘導し、児童・生徒が自主的に学習の責任を負うことを励ますようにする。

②技能の発達については、まず、児童・生徒によい手本を提供することができ、技能の重要性を分からせること、そして、児童・生徒が考えた主題についての独自の解釈や、各種の問題解決の方法を尊重し、その適切な表現について、褒めることにする。

③指導の概念については、児童・生徒の能力、経験、発達段階に配慮し、前の段階の芸術学習と表現様式とのつなげるようにすること。第一、二段階（小学校低・中学年）においては、特定の、具体的、実用的概念の意義を強調すること。第三、四段階（小学校高学年・中学校）においては、抽象的概念の紹介へと発展していくことにすること。

④態度を育てることについては、教師の積極的、開放的態度が最も児童・生徒に影響を与えられるものであるから、児童・生徒が学習上に困難に遭ったときに、教師は適時に介入し、持続して努力するように励ます。全ての児童・生徒の独自の表現を尊重し、具体的に心を込めて、その努力を認めるようにする。

⑤指導については、各種の視覚芸術教授法、音楽教授法、演劇パフォーマンス教授法などを含める多元的、弾力的指導法が望まれ、十分に演習・練習し、活用することにより、各段階の基本能力指標を達成することを目的とする。また、指導形態については、学級を主にするが、学年ごとで、他の領域、グループ活動、部活動などと提携し、学校間の交流矢、文化活動などのかたちで実施するようにすること。

(5) 評価

①評価の目的

教師は、学習活動が目標を達成するかどうかを判断するとき、資料を収集して、客観的に評価しなければならない。これによって、課程設計の適切性を正確に理解し、全体の児童・生徒の学習に関する予備情況、現況、結果、展開を測る。この評価結果は、教師の指導の強化や補修の参考の根拠になる。

②評価の範囲

(A) 学習成果に関する評価

- a.探索と創作の学習成果の評価
- b.審美と思辨学習成果の評価
- c.文化と理解の学習成果の評価

(B) 指導の質に関する評価

a.指導前：教師は、選定された学習單元について、教材分析、制作技法仕組、準備作業、媒体操作の熟練などを事前に評価する。

b.指導中：教師は、学習目標を把握し、児童・生徒の学習における導入段階、形成段階、展開段階など各段階の形成的評価を行う。

c.指導後：教師は、指導の効果、学生作品、展示公演、学習の発展などに関する全面的評価と補修指導の評価を行う。

(C) 課程設計に関する評価

- a.課程設計領域の評価
- b.各単元の内容、技法、観念の構成についての順序性、連続性、統合性に関する評価
- c.学習活動の設計についての多元性、多様性、活発さ、面白さなどに関する評価
- d.評価の方法は、児童・生徒の学習動機、興味、能力などにおける個別性を配慮し、確実的、具体的、実行性の高い方法であるものにする。

③評価の方法

本領域の評価は、「量的」と「質的」評価を併用することができる。学習目標、範囲、指導の方法、流れなどの実態により、教師評価、児童・生徒相互評価、自己評価などの方法を用い、観察、質問、面接、アンケート調査、記録、測定、自己陳述、評定表、検定表、討論などの方式で評価すること、また、相対的解釈法や自己比較法など弾力的方法も採用できるようにすること。

資料 8-2 台湾の郷土教育運動の推移

1. 明・清時代の郷土文化の形成期

時代	郷土教育	郷土的芸術文化の動き	関連事項
明・清		<ul style="list-style-type: none"> ・原住民各族の建築、漢民族の伝統的な建築、オランダ、スペインの建築、キリスト教建築の散在 ・郷土材料と伝統技術の結合による生活工芸品の生産 ・廟や寺院の仏画、装飾絵画 ・嘉義の製陶名人葉王による交趾焼の生産 ・中国沿海地方の民間信仰と祭典など民俗活動の伝来 ・閩南地方の民謡・楽曲の伝来 ・原住民歌謡風台湾民謡の始まり ・台湾の地芝居「歌仔戲」の始まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国伝統美術の延長と言われる文人画、書の普遍。

2. 戦前における郷土教育の覚醒期

日本の植民地時代	<p>1. 中学校、師範学校における「台湾語」と「漢文」の教授</p> <p>2. 手工科における台湾各地の郷土教材の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文人画の支派と見られる郷土画の現われ ・1921年（大正10年）「台湾文化協会」の設立による「台湾民報」の刊行 ・1927年（昭和2年）七星画壇をはじめ、多様な画会の創立と台湾美術展覧会の開催 ・1930年代の郷土文学運動と台湾語文学運動 ・1932年（昭和7年）「桃花泣血記」の発表による台湾語創作歌謡の流行 ・1934年（昭和9年）台湾の美術文化に強う影響を与えた台陽美術協会の創立 ・民芸運動を提唱する柳宗悦の台湾訪問 ・洋画家教師石川欽一郎、塩月桃甫、日本画家の木下静涯、郷原古統らによる台湾の風景や人物をモチーフとすることへの奨励 ・揚三郎、林玉山らの台湾画家の輩出 ・「湾製絵画」様式の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・1930年（昭和5年）日本本土における学校教育の郷土教育導入 ・台湾における「皇民化運動」の提唱
----------	---	---	--

3. 郷土教育の冬眠期

時代	郷土教育	郷土的芸術 文化の動き	関連事項
1940年代			<ul style="list-style-type: none"> ・民族精神と中国意識の高揚による「国語運動」の強化 ・1949年（民国38年）年始 政局逆転による蒋介石の引退 ・1949年（民国38年）5月 「戒嚴法」実施の開始 ・1949年（民国38年）6月15日 中国共産党、ソビエト政権と対抗するために設定された「非常時期国家復興の教育要綱」（「戡乱建国教育実施綱要」）の公布 ・1949年（民国38年）12月 国民党政府の台湾への移転 ・中国の伝統的な文化への重視 ・東洋画の失脚 ・中国美術史を中心とする学校の鑑賞教育の強化 ・台湾語歌謡の衰退
1950年代		<ul style="list-style-type: none"> ・1954年（民国43年）12月15日 台湾美術の源起、台湾美術展覧会創設前後の美術の動き、その他の民間団体の美術運動、戦後の美術運動、今後の台湾美術の方向の五つの課題を中心とする「美術運動シンポジウム」の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・1956年（民国45年）『台南市郷土教材』の出版 ・1956年（民国45年）12月『彰化県郷土教材編集の手引』（『彰化県郷土教材編訂手冊』）の出版
1960年代		<ul style="list-style-type: none"> ・1966年（民国55年）～1967年 「民謡採集運動」の実行 	<ul style="list-style-type: none"> 1966年（民国55年）中国大陸における文化大革命の始まり 1967年（民国56年）「中華文化復興運動委員会」の設立

4. 戦後における郷土教育運動の始動期

時代	郷土教育	郷土的芸術文化の動き	関連事項
1970年代	1.1970年（民国9年）「文化遺跡源流研究会」（「史蹟源流研究会」）の創設	<ul style="list-style-type: none"> ・70年代後期に見られる戦後の台湾郷土運動（台湾に視点を置く文学、美術、音楽などの総体的な文化活動） ・1976年（民国65年）～1978年「山地固有文化の保護計画」の実行 ・1979年（民国68年）3月11日 林本源中華文化教育基金会主催の「台湾美術の変遷」を題とする第11回台湾研究シンポジウムの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・1970年（民国59年）8月24日「国家復興の教育要綱」（「復国建国教育綱領」）の公布による中華文化の復興に重点を置く民族精神教育の強調 ・1971年（民国60年）「国連」からの脱会 ・70年代後期「戒嚴法」解除を要求する社会運動の続発

時代	郷土教育	郷土的芸術文化の動き	関連事項
1990年代	<ul style="list-style-type: none"> ・1996年（民国85学年度）小学校新課程の実施に伴っての「郷土教学活動」教科の実施 ・1997年（民国86学年度）中学校新課程の実施に伴っての「認識台湾 社会・歴史・地理」と「郷土芸術活動」教科の実施 ・1998年（民国87年）2月～10月教育部が主催する「小・中学校の郷土教育実施の補助計画における84～86学年度執行成果の訪問視察」（「教育部補助各縣市国民中小学実施計画84～86学年度執行成果訪察」）の実行 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校用「郷土教学活動」、中学校用「郷土芸術活動」教科書・指導書・関連教材の編集・出版 ・「郷土教学活動」と「郷土芸術活動」科教師研修の開催 ・郷土教育資源センターの設立 ・1997年1月『台湾伝統美術工芸』の出版 ・1998年（民国87年）6月『郷土芸術教育論説』（『郷土芸術教育論説』）の出版 ・1998年（民国87年）6月『台湾郷土芸術指導用ビデオ・資料索引』（『台湾郷土芸術教学錄影帶資料索引冊』）の出版 ・1998年（民国87年）8月『国民小学郷土教育の理論と実践』（『国民小学郷土教育的理論与实践』）の出版 	<ul style="list-style-type: none"> ・1998年（民国87年）5月14日～16日重要民族芸術芸術師による第二段階3年間の「民間芸術保存伝習計画」の成果を検討するための「伝統芸術シンポジウム」の開催 ・1999年（民国88年）『小・中学校の郷土教育実施の補助計画における84～86学年度執行成果の訪問視察報告』の出版 ・1997年（民国86年）4月～1998年9月 21世紀向けの新課程改訂の準備作業の第一段階： 「国民中小学課程発展プロジェクト」（「国民中小学課程発展專案小組」）の設立 ・1998年（民国87年）10月～1999年11月 第二段階：「国民中小学各学習領域要綱の研究・改訂プロジェクト」の設立 ・1999年12月（民国88年）～2001年8月 第三段階： 「国民中小学課程改訂審議委員会」の設立

6. 郷土教科の設立・実施期

時代	郷土教育	郷土的芸術文化の動き	関連事項
1990年代	<ul style="list-style-type: none"> ・1990年（民国79年）6月：7県・市連合主催の「本土語言教育問題」シンポジウムの開催（この7つの県・市は民主進歩党が主導する台北県、宜蘭県、新竹県、彰化県、高雄県、屏東県と無所属であるが政治理念は民主進歩党に近い嘉義県を指すものである。） ・1993年（民国82年）9月20日郷土教育教科を導入する「国民小学課程標準」の公布 ・1993（民国82年）年8月～1994（民国83年）年3月『国民中小学郷土補助教材大綱』の編集と出版 ・1994（民国83年）「国民小学郷土教学活動課程標準」の公布 ・1994年（民国83年）年10月「認識台湾 社会・歴史・地理」と「郷土芸術活動」教科を導入する「国民中学課程標準」の公布 ・1995年（民国84年）8月～教育部の「小・中学校の郷土教育実施の補助計画」（補助国民中小学郷土教学実施計画）開始 ・『台北市国民小学郷土教学活動の意見調査』（『台北市国民小学郷土教学活動意見調査』）の出版 	<ul style="list-style-type: none"> ・1991（民国80年）年7月1日 重要民族芸術芸師による第一段階の3年間伝承計画開始 ・1995年（民国84年）重要民族芸術芸師による第二段階の3年間「民間芸術保存伝習計画」開始 ・1996年（民国85年）3月 国立伝統芸術センター設立委員会の結成（2000年完成予定） ・各民族の母語が郷土教育における郷土言語学習の主要内容となる ・郷土文学運動に関連する「台湾語文学」、「客家語文学」、「原住民文学」風潮の形成 ・政府機関や民間団体による各種の郷土芸術教育の関連教材の発行 ・『国民中小学郷土補助教材大綱』に明示されている郷土芸術の具体的な学習内容は後の郷土科課程標準設立の要素になった。 ・小学校の「郷土教学活動」教科と中学校の「郷土芸術活動」教科における郷土美術学習内容の設定 ・郷土美術に関連する研修活動の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・1995年（民国84年）3月22日 国民直接投票による総統選挙の実現 ・1994年（民国83年）12月 国際芸術教育学会アジア地区会議台北大会の開催（INSEA-ASIAN REGIONAL CONGRESS, TAIWAN, R. O.C） ・1995年（民国84年）10月 国際芸術教育学会アジア地区会議台中大会の開催（INSEA-ASIAN REGIONAL CONGRESS, TAIWAN, R. O.C） ・1995年（民国84年）4月28日 重要民族芸術芸師による第一段階3年間の伝承計画の成果を検討するための「民族芸術伝承シンポジウム」の開催 ・1997年（民国86年）4月26日～27日重要民族芸術芸師による第二段階3年間の「民間芸術保存伝習計画」の中間評価としての「伝統芸術シンポジウム」の開催

時代	郷土教育	郷土的芸術文化の動き	関連事項
1990年代	<ul style="list-style-type: none"> ・1996年（民国85学年度）小学校新課程の実施に伴っての「郷土教学活動」教科の実施 ・1997年（民国86学年度）中学校新課程の実施に伴っての「認識台湾 社会・歴史・地理」と「郷土芸術活動」教科の実施 ・1998年（民国87年）2月～10月教育部が主催する「小・中学校の郷土教育実施の補助計画における84～86学年度執行成果の訪問視察」（「教育部補助各縣市国民中小学実施計画84～86学年度執行成果訪察」）の実行 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校用「郷土教学活動」、中学校用「郷土芸術活動」教科書・指導書・関連教材の編集・出版 ・「郷土教学活動」と「郷土芸術活動」科教師研修の開催 ・郷土教育資源センターの設立 ・1997年1月『台湾伝統美術工芸』の出版 ・1998年（民国87年）6月『郷土芸術教育論説』（『郷土芸術教育論説』）の出版 ・1998年（民国87年）6月『台湾郷土芸術指導用ビデオ・資料索引』（『台湾郷土芸術教学録影帯資料索引冊』）の出版 ・1998年（民国87年）8月『国民小学郷土教育の理論と実践』（『国民小学郷土教育的理論与实践』）の出版 	<ul style="list-style-type: none"> ・1998年（民国87年）5月14日～16日重要民族芸術芸師による第二段階3年間の「民間芸術保存伝習計画」の成果を検討するための「伝統芸術シンポジウム」の開催 ・1999年（民国88年）『小・中学校の郷土教育実施の補助計画における84～86学年度執行成果の訪問視察報告』の出版 ・1997年（民国86年）4月～1998年9月 21世紀向けの新課程改訂の準備作業の第一段階： 「国民中小学課程発展プロジェクト」（「国民中小学課程発展專案小組」）の設立 ・1998年（民国87年）10月～1999年11月 第二段階：「国民中小学各学習領域要綱の研究・改訂プロジェクト」の設立 ・1999年12月（民国88年）～2001年8月 第三段階： 「国民中小学課程改訂審議委員会」の設立

7. 郷土学習内容の定着期

時代	郷土教育	郷土的芸術文化の動き	関連事項
2000年～	<p>・2000年（民国89年）3月20日 「小・中学校九年一貫課程要綱」（「国民中小学九年一貫課程暫行綱要」）の公布と「郷土と国際意識の育成」という教育理想の強調 （小学校1学年は2001年9月より実施すること、中学校1学年は2002年9月より実施すること）</p> <p>・「小・中学校九年一貫課程」の言語学習領域（「語文学習領域」）における「国語」、「閩南語」、「客家語」、「原住民語」の四つの本国語学習内容の明示</p>	<p>・小学校の「郷土教学活動」科における「郷土美術」と中学校の「郷土芸術活動」科における「郷土美術」両方とも「芸術と人文学習領域」の学習内容として取り入れられ、児童・生徒の文化学習と国際理解能力の育成に重要な役割として扱われている。</p>	<p>・従来の小学校の「美勞」、「音楽」教科と中学校の「美術」、「音楽」教科の代わりに、小・中学校一貫化された統合的「芸術と人文学習領域」課程が新設されている</p> <p>・「芸術と人文学習領域」は、人文を核心とする芸術学習である理念に基き、視覚芸術、音楽、パフォーマンスの三つの学習内容を包括している。</p>